

# 看護学科

<看護学科科目>

区分	科目名	頁	
専門基礎分野	身体のしくみ	人体形態学	1
		人体機能学	2
		生化学	3
		栄養学	4
		病理学	5
		臨床治療学Ⅰ	6
		臨床治療学Ⅱ	7
		臨床治療学Ⅲ	8
		感染微生物学	9
		薬理学	10
		臨床薬理学	11
	人間と健康	生涯発達論	12
		家族社会学	13
		人間工学	14
		カウンセリング・コミュニケーション論	15
	人間の健康と社会生活	保健医療福祉連携論	16
		社会福祉概論	17
		地域との協働Ⅰ	18
		地域との協働Ⅱ	19
		地域との協働Ⅲ	20
		公衆衛生学	21
		人間関係論	22
		疫学	23
		保健医療福祉行政論Ⅰ※	24
		保健医療福祉行政論Ⅱ※	25
		福祉環境論	26
		人権と法	27
		ソーシャルインクルージョン論	28
		医療福祉論	29
専門分野	基礎看護学	看護学概論	30
		看護技術論	31
		看護共通技術Ⅰ	31
		看護共通技術Ⅱ	33
		基礎看護技術Ⅰ	34
		基礎看護技術Ⅱ	35
		基礎看護技術Ⅲ	36
		基礎看護技術Ⅳ	37
		ヘルスアセスメント	38
		看護過程演習	39

<看護学科科目>

区分	科目名	頁	
専門分野	地域看護学	地域看護学概論	40
		地域看護活動論Ⅰ	41
		地域看護活動論Ⅱ	42
		在宅看護活動論Ⅰ	43
		在宅看護活動論Ⅱ	44
	成人看護学	成人看護学概論	45
		成人看護活動論Ⅰ〔急性期〕	46
		成人看護活動論Ⅱ〔慢性期〕	47
	老年看護学	老年看護学概論	48
		老年看護活動論Ⅰ	49
		老年看護活動論Ⅱ	50
	小児看護学	小児看護学概論	51
		小児看護活動論Ⅰ	52
		小児看護活動論Ⅱ	53
	母性看護学	母性看護学概論	54
		母性看護活動論Ⅰ	55
		母性看護活動論Ⅱ	56
	精神看護学	精神看護学概論	57
		精神看護活動論Ⅰ	58
		精神看護活動論Ⅱ	59
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	60
		基礎看護学実習Ⅱ	61
		地域看護学実習	62
		成人看護学実習Ⅰ〔急性期〕	63
		成人看護学実習Ⅱ〔慢性期〕	64
		老年看護学実習	65
		小児看護学実習	66
		母性看護学実習	67
		精神看護学実習	68
		統合実習	69
統合科目	看護倫理	70	
	看護マネジメント論	71	
	看護教育学	72	
	災害看護学・国際看護学	73	
	看護情報学	74	
	看護統合演習	75	
	看護研究の基礎	76	
	卒業研究	77	

<看護学科科目> 保健師課程

区別	科目名	頁	
専門分野	統合科目	公衆衛生看護学概論	78
		創成看護学活動論 I ※	79
		創成看護学活動論 II	80
		公衆衛生看護技術論	81
		公衆衛生看護技術論演習	82
		公衆衛生看護活動論 I	83
		公衆衛生看護活動論 II	84
		公衆衛生看護活動論 III	85
		公衆衛生看護活動論 IV	86
		公衆衛生看護管理論	87
		公衆衛生看護学実習 I	88
		公衆衛生看護学実習 II	89
		助産学概論	90
		リプロダクティブヘルス	91
		妊娠期・分晩期の診断とケア	92
		産褥期・新生児期の診断とケア	93
		助産診断・技術学演習 I (妊娠期)	94
		助産診断・技術学演習 II (分晩期)	95
		助産診断・技術学演習 III (産褥期・新生児期)	96
		助産過程演習	97
		地域・国際母子保健学	98
		地域母子保健演習	99
		助産管理学	100
		助産学実習 I (妊娠)	101
		助産学実習 II (分晩・産褥・新生児期)	102
		助産学実習 III (継続事例)	103
		助産学実習 IV (ハイリスクケア)	104
		助産学実習 V (地域母子保健)	105

科 目 名	人体形態学		担当教員名	山本 達朗		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	学生は、人体形態学において人体の肉眼解剖レベル（マクロレベル）の基本的構造を学習し、医学的知識を習得する上での基礎を身につけることができる。学生は人体形態学において、人体を構成する各パーツの構造や位置を理解するだけでなく、各パーツの発生（人体の発生）や、それらを有機的に統合する神経系（特に中枢神経系）についても理解を深め、人体に関する形態学的基礎を臨床領域に活かすことができる。					
授 業 の 概 要	学生は、人体形態学を人体の構造の理解を目的として系統解剖学的に学び、各構造の複雑さ、それらの連携について学ぶ。学生は、本科目について、講義だけではなく、模型の観察や標本観察などを通じて能動的に学ぶ。また学生は、これらの内容が人体機能学と密接に関係していることを意識しながら学ぶ。					
授 業 の 計 画	1 人体形態学総論 2-3 人体の構成について（1）（細胞学・組織学） 4 人体の器官系について 5-8 消化器系 9-11 呼吸器系 12-15 循環器系 16-17 泌尿器系 18-19 内分泌系 20-22 運動器系 23-25 神経系 26-27 感覚器系 28-29 生殖器系 30 人体形態学まとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の関係する章について読み込む。			90分	
	復習	講義ノートに書き込んだ内容について、教科書と照らし合わせながら読み返す。			90分	
授 業 の 留 意 点	人体形態学においては、各論的内容に関して詳細に講義するだけの時間がないため、主に総論的な内容に絞って講義を展開する。教科書や講義プリントなどを参考にして、各論的内容を含めた知識の習得に努力していただきたい。					
学 生 対 する 評 価	定期試験（100点）で評価する。					
教 科 書 （購入必須）	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（坂井建雄、岡田隆夫著：医学書院）					
参 考 書 （購入任意）						

科 目 名	人体機能学		担当教員名	山本 達朗		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	学生は、人体機能学において恒常性を中心としたヒトが生きていくための人体で行われている生理学的事象について学ぶ。学生は、人体形態学で得られた知識を人体機能学に応用し、それらの知識を看護の臨床科目に活かすことができる。					
授業の概要	学生は、人体機能学において各器官系の機能とその働きの調節の仕組みを学ぶ。また学生は、講義だけではなく模型や画像教材を利用して能動的に学修し、生命を維持するために体内の器官が連携していることを学ぶ。					
授業の計画	1 人体機能学総論 2-3 人体の構成について（細胞と組織に関する生理学） 4 人体の器官系について 5-8 消化器系の生理学 9-11 呼吸器系の生理学 12-15 循環器系の生理学 16-17 泌尿器系の生理学 18-19 内分泌系の生理学 20-22 運動器系の生理学 23-25 神経系の生理学 26-27 感覚器系の生理学 28-29 生殖器系の生理学 30 人体機能学まとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の関係する章について読み込む。			90分	
	復習	講義ノートに書き込んだ内容について、教科書と照らし合わせながら読み返す。			90分	
授業の留意点	人体機能学は専門科目を学ぶ上でのベースを学ぶものである。一度の講義で内容を全て理解することは難しいため予習復習により確認する事が大事である。					
学生に対する評価	前期と後期に定期試験（100点）を行い判定する。判定は、前期と後期の試験結果を平均し、履修規定の基準に従って行う。					
教科書（購入必須）	系統解剖学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（坂井建雄、岡田隆夫著；医学書院）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	生化学		担当教員名	田邊 宏基		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	学生が、身体を構成している物質の構造と体内で行われている主要な代謝を分子レベルで理解する。 これにより、学生は身体がどのような分子によって作られているのかを常に意識し、これらの変換を司る酵素、遺伝子および細胞内小器官の動きをイメージ出来るようになる。					
授業の概要	学習到達目標を達成するために、学生は、糖質、脂質、たんぱく質、核酸の構造、特性、代謝について詳細に解説を受ける。また、これらの代謝の際に、学生は、ビタミンやミネラルが果たす役割についても解説を受ける。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生化学の概要</li> <li>2 細胞および細胞内小器官</li> <li>3 たんぱく質の構造と機能</li> <li>4 酵素と代謝</li> <li>5 高エネルギーリン酸化合物の生体での利用</li> <li>6 糖質の代謝（解糖系、TCA 回路、電子伝達系）</li> <li>7 糖質の代謝（糖新生、ペントースリン酸経路）</li> <li>8 脂質の代謝（<math>\beta</math>酸化、脂肪酸合成、ケトン体代謝）</li> <li>9 脂質の代謝（コレステロール代謝、リン脂質代謝、体内輸送）</li> <li>10 たんぱく質・アミノ酸の代謝（アミノ基転移、脱アミノ反応）</li> <li>11 たんぱく質・アミノ酸の代謝（尿素サイクル）</li> <li>12 遺伝情報とたんぱく質合成（プリンおよびピリミジンの合成と分解）</li> <li>13 遺伝情報とたんぱく質合成（転写および翻訳）</li> <li>14 代謝におけるビタミンとミネラルの役割</li> <li>15 疾患の生化学的な理解</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	予め配布されているプリントの該当箇所に目を通しておく。			60分	
	復習	講義後に化学、生物学との関連を考えながら該当箇所の復習をしっかりと行う。			120分	
授業の留意点	予め配布されているプリントの該当箇所に目を通し予習しておく。講義後に該当箇所との関連を考えながら化学、生物学の復習をしっかりと行う。疑問を残しては次の知識が積み上がらないため、疑問点はその場での質問もしくは講義後の質問でもよいので毎回解消する。					
学生に対する評価	試験(100点)により評価する。必要によりレポートの提出を求めることがある。					
教科書 (購入必須)	「わかりやすい生化学第5版 疾病と代謝・栄養の理解のために」ニューヴェルヒロカワ 2017年					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	栄養学		担当教員名	山田 和佳子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康と栄養との関連性について理解できる。</li> <li>2. 栄養と疾病の発生・治療・予防との関わりについて説明できる。</li> <li>3. 疾病の概要、栄養食事療法の要点について説明できる。</li> <li>4. チーム医療における栄養管理の重要性を理解し栄養サポートチームの役割について説明できる。</li> </ol>					
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての栄養の意義、栄養と健康の関わりについて学ぶ。</li> <li>2. 栄養素の種類と働き、食物の消化と栄養素の吸収・代謝について学ぶ。</li> <li>3. ライフステージ別の特徴と栄養について学ぶ。</li> <li>4. 栄養状態の評価・判定方法を学ぶ。</li> <li>5. 種々の疾病の要因、病態、診断、治療・予防、栄養食事療法について学ぶ。</li> <li>6. チーム医療と栄養管理について学ぶ。</li> </ol>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 健康と栄養</li> <li>2 栄養と栄養素① エネルギー産生栄養素（炭水化物・脂質・タンパク質）</li> <li>3 栄養と栄養素②（ビタミン、ミネラル、水、食物繊維）</li> <li>4 ライフステージと栄養① 妊娠期・乳児・幼児期</li> <li>5 ライフステージと栄養② 高齢期</li> <li>6 疾患と栄養食事療法① 内分泌疾患 主に糖尿病</li> <li>7 疾患と栄養食事療法② 循環器疾患（高血圧症 脂質異常症 心臓病）</li> <li>8 疾患と栄養食事療法③ 消化器疾患</li> <li>9 疾患と栄養食事療法④ 肝臓病・膵臓病</li> <li>10 疾患と栄養食事療法⑤ 腎疾患</li> <li>11 健康施策と栄養 メタボリックシンドロームと特定検診・保健指導</li> <li>12 医療保険制度と栄養管理の実際</li> <li>13 栄養ケアマネジメント① 栄養アセスメント・栄養ケアプラン</li> <li>14 栄養ケアマネジメント② 栄養補給法</li> <li>15 栄養ケアマネジメント③ チーム医療と栄養サポートチーム</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当ページを読んでおく。			90分	
	復習	教科書の該当ページおよび授業時の配付資料を読み返す。			90分	
授 業 の 留 意 点	<p>【準備学習：予習・復習の内容、分量】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回の授業あたり1～2時間程度の予習・復習を要する。</li> <li>・予習：教科書の該当ページを読んでおく。</li> <li>・復習：教科書の該当ページおよび授業時の配付資料を読み返す。</li> </ul>					
学 生 に 対 す る 評 価	小テスト20% レポート10% 授業参加態度10% 定期試験60% により総合的に評価する。					
教 科 書 (購入必須)	健康と医療福祉のための栄養学-身体のしくみと栄養素の働きを理解する一 医歯薬出版 ISBN978-4-263-70737-1					
参 考 書 (購入任意)						



科 目 名	病理学		担当教員名	和泉 裕一・室野 晃一・藤田 智・眞岸 克明・立川 夏夫		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。					
学習到達目標	病気の原因、発生機序、発症・進展の過程や患者に対する影響について理解し、臨床の現場でその知識を応用して、科学的根拠に基づく看護が出来ることを目指す。					
授 業 の 概 要	<p>いろいろな疾病は、細胞障害、感染症・炎症・免疫、循環障害、遺伝子異常、腫瘍、代謝異常、環境因子の複合的な関与、蓄積により引き起こされる。総論では、疾病の成り立ちを臓器の違いを超えて解説する。</p> <p>各論では、臓器別に各種疾病の病因・症状・治療について臓器特異性の視点から解説する。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論1：病理学とは何か、組織・細胞の障害と修復</li> <li>2 総論2：循環障害</li> <li>3 総論3：炎症と免疫、移植と再生医療</li> <li>4 総論4：感染症</li> <li>5 総論5：代謝障害</li> <li>6 総論6：先天異常と遺伝子異常、老化と死</li> <li>7 総論7：腫瘍</li> <li>8 各論1：循環器疾患（先天性、心不全、虚血性、心筋症、心内膜と血管の疾患）</li> <li>9 各論2：血液・造血器系の疾患</li> <li>10 各論3：呼吸器系疾患（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜と縦隔の疾患）</li> <li>11 各論4：消化器系疾患（口腔・食道、胃、腸、腹膜、肝臓、胆管、胆のう、膵臓の疾患）</li> <li>12 各論5：腎、泌尿器、生殖器および乳腺の疾患</li> <li>13 各論6：内分泌系の疾患</li> <li>14 各論7：脳、神経系の疾患</li> <li>15 各論8：骨、関節、筋肉系の疾患、眼・耳・皮膚の疾患</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90分	
授 業 の 留 意 点	講義を受ける前に各臓器の解剖・生理を復習しておく。 講義の要点を講義資料で把握し、教科書で補足する。					
学 生 に 対 す る 評 価	試験（90点）と授業態度を評価（10点）					
教 科 書 （購入必須）	病理学「疾病のなりたちと回復の促進 1」医学書院					
参 考 書 （購入任意）						

科 目 名	臨床治療学 I		担当教員名	長谷部 佳子・南山 祥子・中谷 美紀子	
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての実務経験を有する教員が、病院など医療の現場で求められる病態生理・検査・治療等の医学的専門知識に関して、看護師の視点も踏まえながら教授する科目である。				
学習到達目標	本講義では、器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の高頻度に見られる疾患について、その原因・病態・診断のための検査・治療について理解し、ケアにつなげるための基礎的知識を学ぶことを目標とする。				
授業の概要	健康障害をもつ患者を看護するためには、健康障害についてアセスメントを行うことが必要である。すなわち、健康障害を引き起こしている疾患を理解し、その疾患が患者の身体的、精神的、社会的側面にどのような影響を与えているかを分析・判断することが看護職には求められている。この講義科目では器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の疾患についてその原因・病態・診断のための検査・治療について学ぶ。治療は、内科的治療法と外科的治療法について学ぶ。				
授業の計画	<p>1-6 消化器疾患（主に食道がん、胃がん、大腸がん、イレウス、クローン病、胃・十二指腸潰瘍、膵炎、肝炎、食道静脈瘤、肝がん、肝硬変）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>7-10 呼吸器疾患（主に肺がん、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>11-14 循環器疾患（主に虚血性心疾患、心不全、大血管疾患、末梢血管疾患）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>15-17 腎・泌尿器疾患（主に腎不全、腎腫瘍、膀胱がん、前立腺がん、前立腺肥大症）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>18 血液・造血器疾患（主に白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>19-22 脳神経疾患（主に脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、神経難病）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>23-26 骨関節筋肉疾患（主に骨折、椎間板ヘルニア、脊髄損傷、変形性関節症）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>27-28 内分泌・代謝疾患（主に糖尿病、高脂血症、高尿酸血症）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>29-30 免疫疾患（主に関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、AIDS）の原因・病態・診断のための検査・治療</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章に関連する教科書を読み込んでおく。			30分
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			150分
授業の留意点	すでに履修済みの人体形態学、人体機能学を復習しておくことが望ましい。				
学生に対する評価	<p>&lt;試験の採点と再試験について&gt;</p> <p>1) 循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、脳神経疾患、骨関節筋肉疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、血液・造血器疾患、免疫疾患の9つの領域を3つのグループに分けて3回の試験を行う。各グループは100点満点とし、1つのグループで60点未満の場合はそのグループの領域分が再試となる。再試験となった場合は、再試験の点数が60点以上でも「60点」として計算される。小テストの点数は、領域①では循環器10点、呼吸器10点、領域③では消化器15点満点で換算する。</p> <p>2) 「臨床治療学Ⅰ」の成績評価は、300点満点で判定（3つの試験の合計点）。最終成績評価は、100点に換算する。</p> <p>例：270～300点⇒秀、240～269点⇒優、210～239点⇒良、180～209点⇒可、180点未満⇒不可</p> <p>1つのグループでも再試験となった場合は、合格しても最終評価は「可」となる。</p>				
教科書（購入必須）	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳神経、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症、医学書院</p> <p>今日の治療薬 2022 解説と便覧、 南江堂</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	臨床治療学Ⅱ		担当教員名	市立病院医師		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。					
学習到達目標	本講義は、成人期に高頻度に見られる疾患の原因・病態・診断・治療についての基礎的知識を学ぶことを目標とする。					
授 業 の 概 要	健康障害のある患者を看護するためには、健康障害についてアセスメントを行う必要がある。すなわち、健康障害を引き起こしている疾患を理解し、その疾患が患者の身体的、精神的、社会的側面にどのような影響を与えているかを分析・判断することが看護職に求められている。ここでは、感覚器系・女性生殖器系・歯科口腔系で高頻度に見られる疾患についてその原因・病態・診断・治療について学ぶ。					
授 業 の 計 画	1-2 主な皮膚疾患の原因・病態・診断・治療 3-4 主な眼疾患の原因・病態・診断・治療 5-6 主な歯・口腔疾患の原因・病態・診断・治療 7-8 主な耳鼻咽喉疾患の原因・病態・診断・治療 9-15 主な女性生殖器系疾患の原因・病態・診断・治療					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90分	
授業の留意点	人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくこと。					
学生に対する評価	①歯科疾患について、試験もしくはレポート課題（20点） ②皮膚疾患について、試験もしくはレポート課題（20点） ③眼疾患について、試験もしくはレポート課題（20点） ④耳鼻咽喉科疾患について、試験もしくはレポート課題（20点） ⑤女性生殖器系疾患について、試験もしくはレポート課題（70点） 合計150点満点で評価する。 各領域で6割未満の場合はその領域分が再試となる。					
教科書（購入必須）	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[9]	女性生殖器、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[12]	皮膚、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[13]	眼、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[14]	耳鼻咽喉、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[15]	歯・口腔、医学書院	
参考書（購入任意）	必要時、指示する。					

科 目 名	臨床治療学Ⅲ		担当教員名	市立病院医師		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。					
学習到達目標	本講義は、母性および小児看護に必要な医学の基礎知識を学ぶことを目的とする。周産期ではハイリスクおよび異常と治療、小児では小児に特有な疾病の症状・治療・予後を中心に学修する。					
授 業 の 概 要	母性および小児の健康状態をアセスメントするためには、対象の解剖学的・生理学的特徴に関する知識の活用が不可欠である。また、母性および小児看護においてはウェルネスからハイリスク・健康障害の各ステージに応じた看護が要求される。そのため、妊娠・分娩・産褥の生殖生理、周産期母子の病態とハイリスク、周産期および小児期に高頻度に見られる疾病の原因・病態・診断・治療・予後などに関する基礎的知識を学ぶ。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（1）妊娠の成立、胎児、胎児付属物</li> <li>2 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（2）妊娠による母体・胎児の変化</li> <li>3 妊娠期の病態と異常（1）ハイリスク妊娠と妊娠合併症</li> <li>4 妊娠期の病態と異常（2）異常妊娠</li> <li>5 分娩期の病態と異常（1）産道・娩出力・胎児・胎児付属物の異常、新生児仮死</li> <li>6 分娩期の病態と異常（2）分娩時の損傷、異常出血、産科処置と産科手術</li> <li>7 産褥期の病態と異常（子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産褥血栓症、マタニティブルーズ）</li> <li>8 新生児とその疾患、小児の神経・筋疾患</li> <li>9 染色体異常・先天異常</li> <li>10 小児の感染症</li> <li>11 小児のアレルギー疾患</li> <li>12 小児の循環器疾患、川崎病</li> <li>13 小児の呼吸器・消化器疾患、血液疾患</li> <li>14 小児の免疫疾患、膠原病</li> <li>15 小児の内分泌・代謝疾患、腎疾患</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90分	
授 業 の 留 意 点	人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくこと。					
学 生 に 対 す る 価 値	①妊娠・分娩・産褥期について、試験もしくはレポート課題（100点） ②小児期について、試験もしくはレポート課題（100点） 合計200点満点で評価する。 教員領域ごとの試験で60点未満の場合はその領域分が再試となる。					
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論、医学書院					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	必要時、指示する。					

科 目 名	感染微生物学		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学習到達目標	感染とは何か、感染成立の3要素、検査、化学療法について説明できる。 感染制御、感染対策について説明できる。 主要な感染症について、原因となる病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。					
授業の概要	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な知識を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。					
授業の計画	1 微生物総論 2 細菌総論 3 ウイルス総論 4 真菌・寄生虫総論 5 免疫とアレルギー 6 感染症総論 7 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 8 呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 その他の感染症 15 感染制御					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90分	
	復習	配布資料や自分がとったノートを参考にして教科書を再読して知識を確認すること。			90分	
授業の留意点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単に知識を暗記するのではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後やムードルで担当教員に質問すること。					
学生に対する評価	定期試験（100点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教科書（購入必須）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020年）					
参考書（購入任意）	神谷茂監修『標準微生物学 第14版』医学書院 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院					

科 目 名	薬理学		担当教員名	長多 好恵・山端 孝司・結城 幸一		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師が薬の作用機序、薬物動態等薬物療法の基礎となるメカニズムを教授する科目					
学習到達目標	薬物治療の基礎となるメカニズムを理解する。					
授 業 の 概 要	総論では、薬の作用機序と生体内情報伝達、薬物動態、薬効に影響を与える各種の要因、薬の作用・副作用が現れる原理、アドヒアランスなどについて解説する。また、医薬品添付文書の読み方を習得するとともに関連する法律の概要を解説する。各論では実際の臨床治療で使われている各種薬物（自律神経作用薬、筋弛緩薬、麻酔薬、麻薬、向精神薬、抗てんかん薬、抗不安薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、解熱鎮痛薬、副腎皮質ステロイド、抗高血圧薬、狭心症治療薬、強心薬、抗不整脈薬、利尿薬、高脂血症治療薬、貧血治療薬、喘息治療薬、糖尿病治療薬、抗感染症薬、消毒薬、抗がん薬など）の作用および作用メカニズムと副作用について解説する。					
授 業 の 計 画	1 総論： アドヒアランス、医薬品医療機器等法、医薬品添付文書の読み方 2 総論： 薬の作用機序、薬物動態 3 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅰ 4 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅱ 5 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅰ 6 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅱ、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬 7 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅰ 8 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅱ、呼吸器に作用する薬物 9 各論： 高脂血症治療薬、貧血治療薬、血液凝固・線溶系に作用する薬物 10 各論： 消化器・生殖器に作用する薬物 11 各論： 物質代謝に作用する薬物 12 各論： 生物学的製剤、皮膚・眼科用薬 13 各論： 抗感染症薬 14 各論： 消毒薬、抗がん薬 15 各論： 生薬、漢方薬					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90分	
授 業 の 留 意 点	生理学（人体機能学）、生化学、病態生理学（臨床治療学）、微生物学など関連科目の内容との関連を考えながら履修する。内容が膨大であるので、受講後必ずテキストや参考書を読む、図書館やインターネットで詳しく調べるなど復習をして、そのつど整理しておくこと。					
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験（マークシート方式、配点100点）により評価する。					
教 科 書 （購入必須）	吉岡充弘編『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 第14版』医学書院（2021年） 浦部晶夫ら編『今日の治療薬 2018』南江堂（2021年）					
参 考 書 （購入任意）	MJ Neal、佐藤俊明訳『一目でわかる薬理学 第5版』メディカル・サイエンス・インターナショナル（2007年） 鈴木正彦 パワーアップ問題演習 薬理学 新訂版 サイオ出版（2013年）					

科 目 名	臨床薬理学		担当教員名	本郷 文教																									
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義																							
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件																								
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。																												
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師が、薬物療法の施行過程及び医薬品の取り扱いに必要な知識、薬剤師及び看護師の役割等を教授する科目																												
学習到達目標	適正な薬物療法を遂行するための基礎知識を習得する。																												
授業の概要	総論では、薬剤師の役割と業務内容を解説する。また医薬品を取り扱う上で必要となる法律の概要を解説し、服薬アドヒアランスの重要性を理解する。各論では、患者に薬が届けられるまでのプロセスから薬物療法の施行過程を解説し、その中で看護師として医薬品を取り扱う際に必要な知識を解説する。主な項目としては患者への与薬時に注意すべき点と服薬指導、注射薬の混注業務と輸液療法、血液製剤の取り扱い、病棟・処置室等における麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の管理、感染症治療薬等が挙げられる。																												
授業の計画	<table border="0"> <tr><td>1</td><td>総論</td><td>薬剤師の役割と業務内容及び医薬品を扱う上で遵守すべき法律等</td></tr> <tr><td>2</td><td>総論</td><td>薬物療法の施行過程、医薬品の作用原理と有害作用</td></tr> <tr><td>3</td><td>各論</td><td>医薬品管理と麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の取り扱い</td></tr> <tr><td>4</td><td>各論</td><td>がんを使用する薬、および血管外漏出について</td></tr> <tr><td>5</td><td>各論</td><td>輸液療法とその他の注射薬、血液製剤の取り扱いについて</td></tr> <tr><td>6</td><td>各論</td><td>感染症に使用する薬について</td></tr> <tr><td>7</td><td>各論</td><td>薬物血中濃度モニタリングの有用性と医薬品情報の利用の仕方</td></tr> <tr><td>8</td><td>各論</td><td>生活習慣病治療薬の種類と使い方</td></tr> </table>					1	総論	薬剤師の役割と業務内容及び医薬品を扱う上で遵守すべき法律等	2	総論	薬物療法の施行過程、医薬品の作用原理と有害作用	3	各論	医薬品管理と麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の取り扱い	4	各論	がんを使用する薬、および血管外漏出について	5	各論	輸液療法とその他の注射薬、血液製剤の取り扱いについて	6	各論	感染症に使用する薬について	7	各論	薬物血中濃度モニタリングの有用性と医薬品情報の利用の仕方	8	各論	生活習慣病治療薬の種類と使い方
1	総論	薬剤師の役割と業務内容及び医薬品を扱う上で遵守すべき法律等																											
2	総論	薬物療法の施行過程、医薬品の作用原理と有害作用																											
3	各論	医薬品管理と麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の取り扱い																											
4	各論	がんを使用する薬、および血管外漏出について																											
5	各論	輸液療法とその他の注射薬、血液製剤の取り扱いについて																											
6	各論	感染症に使用する薬について																											
7	各論	薬物血中濃度モニタリングの有用性と医薬品情報の利用の仕方																											
8	各論	生活習慣病治療薬の種類と使い方																											
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90 分																								
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90 分																								
授業の留意点	臨床薬理学で学ぶ薬物療法の内容は基礎となる生理学、病態生理学、薬理学、微生物学、栄養学など関連科目を理解しておく必要がある。特に受講に際して薬理学のテキストを十分に読み、各々の医薬品の作用、副作用を整理しておくことが重要である。																												
学生に対する評価	選択式・論述式の試験により評価 (90 点) するが、場合によっては授業態度 (10 点) を加味する。必要によりレポートの提出を求めることがある。																												
教科書 (購入必須)	古川裕之、赤瀬智子、林正健二編 ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 2021 年 (第5版)																												
参考書 (購入任意)	河合眞一、島田和幸、浦部晶夫編 今日の治療薬 2021 南江堂 高久史麿、矢崎義雄 監修 治療薬マニュアル 2021 医学書院																												

科 目 名	生涯発達論		担当教員名	結城 佳子																																														
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義																																												
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件																																													
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。																																																	
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師等として出生から看取りまでの心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助において必須である生涯発達に関する基本的知識と考え方を指導する科目																																																	
学 習 到 達 目 標	<p>生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉、教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的考え方、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とする。</p> <p>1. 生涯発達とは何か、基本的な考え方を述べることができる。  2. 主な生涯発達理論について、説明できる。  3. 各発達段階における危機について、発達段階の特徴、背景となる社会のありようと関連付けて具体的に述べるができる。</p>																																																	
授 業 の 概 要	E. H. エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について学ぶ。また、発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを学ぶ。生涯発達の理解をふまえ、人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を検討する。																																																	
授 業 の 計 画	<table border="0"> <tr><td>1</td><td>生涯発達とは</td><td>発達段階と発達課題</td></tr> <tr><td>2</td><td>生涯発達の基本的理解</td><td>E. H. エリクソンの考え方を中心に</td></tr> <tr><td>3</td><td>胎生期から乳児期前期</td><td>信頼 対 不信</td></tr> <tr><td>4</td><td>乳児期後期</td><td>信頼 対 不信</td></tr> <tr><td>5</td><td>幼児期前期</td><td>自律性 対 恥・疑惑</td></tr> <tr><td>6</td><td>幼児期後期</td><td>積極性 対 罪悪感</td></tr> <tr><td>7</td><td>学童期</td><td>勤勉性 対 劣等感</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間まとめ</td><td>子どもという存在と重要他者</td></tr> <tr><td>9</td><td>思春期・青年期</td><td>同一性 対 拡散 (1) 思春期・青年期のからだところの変化</td></tr> <tr><td>10</td><td>思春期・青年期</td><td>同一性 対 拡散 (2) アイデンティティとその危機</td></tr> <tr><td>11</td><td>思春期・青年期</td><td>同一性 対 拡散 (3) 成年期へ</td></tr> <tr><td>12</td><td>成年前期</td><td>親密性 対 孤独感</td></tr> <tr><td>13</td><td>成年期</td><td>生成継承性 対 停滞</td></tr> <tr><td>14</td><td>成熟期</td><td>統合 対 絶望</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>人が生きるということ</td></tr> </table>					1	生涯発達とは	発達段階と発達課題	2	生涯発達の基本的理解	E. H. エリクソンの考え方を中心に	3	胎生期から乳児期前期	信頼 対 不信	4	乳児期後期	信頼 対 不信	5	幼児期前期	自律性 対 恥・疑惑	6	幼児期後期	積極性 対 罪悪感	7	学童期	勤勉性 対 劣等感	8	中間まとめ	子どもという存在と重要他者	9	思春期・青年期	同一性 対 拡散 (1) 思春期・青年期のからだところの変化	10	思春期・青年期	同一性 対 拡散 (2) アイデンティティとその危機	11	思春期・青年期	同一性 対 拡散 (3) 成年期へ	12	成年前期	親密性 対 孤独感	13	成年期	生成継承性 対 停滞	14	成熟期	統合 対 絶望	15	まとめ	人が生きるということ
1	生涯発達とは	発達段階と発達課題																																																
2	生涯発達の基本的理解	E. H. エリクソンの考え方を中心に																																																
3	胎生期から乳児期前期	信頼 対 不信																																																
4	乳児期後期	信頼 対 不信																																																
5	幼児期前期	自律性 対 恥・疑惑																																																
6	幼児期後期	積極性 対 罪悪感																																																
7	学童期	勤勉性 対 劣等感																																																
8	中間まとめ	子どもという存在と重要他者																																																
9	思春期・青年期	同一性 対 拡散 (1) 思春期・青年期のからだところの変化																																																
10	思春期・青年期	同一性 対 拡散 (2) アイデンティティとその危機																																																
11	思春期・青年期	同一性 対 拡散 (3) 成年期へ																																																
12	成年前期	親密性 対 孤独感																																																
13	成年期	生成継承性 対 停滞																																																
14	成熟期	統合 対 絶望																																																
15	まとめ	人が生きるということ																																																
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回でテーマとする発達段階について調べ、疑問点等を明らかにする。			90分																																													
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を1編以上読む。			90分																																													
授業の留意点	少人数でのグループワークを取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。																																																	
学生に対する評価	レポート課題：中間、最終各50点、計100点 以下の5段階で評価する。 S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下 C以上の評価について単位を認定する。D評価の者は課題再提出とし、再提出は素点69点までとする。																																																	
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。																																																	
参考書（購入任意）	必要時指示する。																																																	



科 目 名	家族社会学		担当教員名	小野寺 理佳		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	1. 現代家族の成立の歴史について基本的知識を取得し説明することができる。 2. 家族とは何かを考え、自分の家族観を相対化することができる。 3. 将来の実践者として、家族の多様化をふまえて人々の生活を考えることができる。					
授 業 の 概 要	家族社会学は社会学の一分野であり、様々な家族問題を深く理解し、実践に活かすために参照される学問である。授業では、社会そして家族集団において人々が多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なることをまず理解する。そして、身近で具体的な事柄を取り上げながら、愛情、自由、選択、責任、血縁、法律、制度、人権、福祉、倫理など様々な視角から家族事象を考察し、家族の多様化とそれにまつわる諸問題を社会構造に関わらせながら理解、解明していく力を養うことを目指す。					
授 業 の 計 画	1 家族ってなに？家族って誰？ (1) あなたの家族は誰ですか 2 家族ってなに？家族って誰？ (2) 誰が家族を決めるのか 3 近代家族の誕生 (1) 近代家族の特徴 4 近代家族の誕生 (2) 近代家族を支える思想 5 近代家族の揺らぎ (1) 家族の変容 6 近代家族の揺らぎ (2) 家族を選択する時代 7 家族の現在 (1) 家族に何を求めるか 8 家族の現在 (2) 自由と選択 9 恋愛結婚と近代家族 (1) 恋愛の定義 10 恋愛結婚と近代家族 (2) 近代家族における恋愛の意味 11 生殖補助医療における親子関係 (1) 生殖補助医療とは何か 12 生殖補助医療における親子関係 (2) 父は誰か、母は誰か 13 生殖技術と市場 (1) 自由を制限するもの 14 生殖技術と市場 (2) 自由と自己責任 15 コ・ハウジング					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	テキストの該当箇所・関連箇所を読む。				
	復習	テキストの該当箇所・関連箇所を確認しながら、配布資料をもとに授業内容を振り返る。配布資料内で示した URL から関連情報 (統計データや新聞記事など) を取得し、授業内容の理解を深める。				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の関心動向によって、内容構成や順序を調整する場合がある。</li> <li>・リアクションペーパーの提出を求めることがある。</li> <li>・公的統計・新聞記事・調査研究報告など、家族に関して、インターネット上で得られる情報はたくさんある。それらの情報を活用して問題意識を育ててほしい。</li> </ul>					
学 生 対 する 評 価	レポートにより評価する (100 点)。					
教 科 書 (購入必須)	神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著 やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ 『よくわかる現代家族』[第2版] ミネルヴァ書房 2016年					
参 考 書 (購入任意)						

科 目 名	人間工学		担当教員名	若林 齊・李 相逸・傳法谷 郁乃	
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学習到達目標	人間工学の目的は、人間の形態、生理、心理学的諸特性を、道具や装置などの操作に反映させることによって、その使い易さや作業効率・快適性の向上、作業者の負担軽減、ヒューマンエラー（誤動作、誤操作）の防止等をはかることにある。				
授業の概要	看護や介護は、直接、人に触れ、また、道具や装置を使って人を支援する行為の過程ともいえる。この基礎として、人間の生理・心理学的諸特性を含む人間工学の知識を学ぶ。それらによって、質の高い看護および介護活動が実現される。				
授業の計画	1 ガイダンス 2 人間工学の概要（1） 3 人間工学の概要（2） 4 人間と環境—温熱環境（1）— 5 人間と環境—温熱環境（2）— 6 人間と環境—温熱環境（3）— 7 人間と環境—温熱環境（4）— 8 人間と環境—光環境（1）— 9 人間と環境—光環境（2）— 10 人間と環境—光環境（3）— 11 人間と環境—空気環境（1）— 12 人間と環境—空気環境（2）— 13 人間と環境—音環境— 14 まとめ（1） 15 まとめ（2）				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	「解剖学」や「生理学」の知識に加え、「心理学」に関する知識も必要なので、これらに関係する科目を履修していることが望ましい。また、受講後の復習に心がけ、不明な点は質問すること。				
学生に対する評価	小テスト（40点）、試験（60点）				
教科書（購入必須）	教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布して行う。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	カウンセリング・コミュニケーション論		担当教員名	未定	
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学習到達目標	<p>①カウンセリングやコミュニケーションに関する理論と方法について学び、対人援助職者に必要なカウンセリングマインドとコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>②保健・医療・福祉・教育各領域における専門家に必要な資質（心構え、態度、関係性等）を涵養する。</p>				
授業の概要	<p>スライド（PowerPoint）の提示及び板書をしながら講義形式ですすめるが、一部グループ（またはペア）ワークも取り入れる。</p> <p>毎講義資料を配布し、講義の最後にリアクションペーパーを提出する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 対人援助に求められるコミュニケーション技術</li> <li>2 カウンセリング理論による信頼関係づくりの効用</li> <li>3 対人援助者に求められる自己覚知の重要性</li> <li>4 自身の思考・行動傾向に気づくために</li> <li>5 精神分析療法</li> <li>6 来談者中心療法</li> <li>7 行動療法</li> <li>8 その他の理論－認知行動療法を中心に</li> <li>9 コミュニケーションの仕組み－非言語の重要性</li> <li>10 傾聴・面接技法の展開</li> <li>11 マイクロカウンセリングに学ぶ－かかわり技法を中心に</li> <li>12 アサーションでチーム力を高める</li> <li>13 クライアントへの支援および人材育成のためのコーチング</li> <li>14 対人援助職のメンタルケア</li> <li>15 多職種連携の課題と展望</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	<p>各領域における有為な対人援助者を育成することを目的としているため、ある程度他者に対して自分自身があらわになることを了解のうえで受講すること。</p> <p>グループ（またはペア）ワークではシェアリングを行うので、積極的に発言・参加してくれるよう望む。</p>				
学生に対する評価	<p>期末レポート（50%）、リアクションペーパー（30%）、小レポート（20%）を総合的に評価する。</p>				
教科書（購入必須）	<p>教科書は使用せず、適宜資料を配布する。</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	保健医療福祉連携論		担当教員名	保健福祉学部教員		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>専門職連携の実践者として今後携わっていく上で必要な実践例について多く触れることで、自身の職における立ち位置や役割を把握するとともに、地域課題や対象者のニーズに触れながら、連携実践に対する具体的なイメージを高めることを目標とする。このため、様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、グループワークで各専門職の業務や役割を共有するとともに、専門職連携の推進に向けての課題や取組の方向性を明らかにして、保健医療福祉連携に対して総合的かつ幅広い視野を持つことが出来るようになる。</p>					
授業の概要	<p>様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、各専門職の役割を互いに理解し、そこから専門職連携の実践に向けての課題や取組の方向性について考察する。</p> <p>地域コミュニティあるいは保健医療福祉分野における連携実践の例を複数紹介し、IPW を実践する際の自らの役割や連携協働のあり方について考える。最後にグループワークを実施し、連携教育の総括として、連携実践のイメージを高め、保健医療福祉連携に対して総合的かつ幅広い視野を持つように講義展開を行う。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 本学連携教育のあゆみ</li> <li>3 保健医療福祉連携活動の実践例①</li> <li>4 保健医療福祉連携活動の実践例②</li> <li>5 保健医療福祉連携活動の実践例③</li> <li>6 保健医療福祉連携活動の実践例④</li> <li>7 全体カンファレンス①</li> <li>8 全体カンファレンス②</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。			45 分	
	復習	自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。			45 分	
授業の留意点	<p>配信日の間隔が一定では無いため、視聴・課題提出漏れに注意すること。グループワーク（対面講義）においては複数日に分散して実施するため、各自が出席するべき日時と教室を把握すること。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>					
学生に対する評価	毎回の小レポート 40 点および最終レポート 60 点により評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）						

科 目 名	社会福祉概論		担当教員名	輪倉 一広		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>1. 社会福祉の基本理念や制度、現状を歴史的な歩みの視点を通して理解できる。</p> <p>2. 看護を専門に学びつつも、一人の生活者として人間の福祉についての理解が深まる。</p>					
授業の概要	社会福祉の歴史をたどりながら、社会福祉の理念や制度が社会の変化などと相まって発展してきたことを学習し、21世紀をむかえての社会福祉の動向と課題を現実の中で考察する。また、看護職として知っておくべき生活支援の知識と技術、福祉職との関連についても言及する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉を学ぶにあたって(オリエンテーション)</li> <li>2 社会福祉の誕生</li> <li>3 明治期の社会福祉 恤救規則と慈善事業</li> <li>4 大正期の社会福祉 社会事業の成立</li> <li>5 戦前・戦中の社会福祉</li> <li>6 戦後直後の社会福祉</li> <li>7 地域福祉 戦後地域社会の変化とコミュニティ</li> <li>8 高度経済成長と社会福祉</li> <li>9 公的扶助</li> <li>10 高齢者福祉</li> <li>11 子ども福祉</li> <li>12 社会福祉実践と医療・看護</li> <li>13 社会福祉の援助技術(ケースワーク)</li> <li>14 社会福祉の援助技術(グループワーク・コミュニティワーク)</li> <li>15 総まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。			45分	
	復習	授業で扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。			135分	
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書にもとづいて授業を進める。</li> <li>・看護の専門家に求められる多くの知識のなかに社会福祉(社会保障)関連の知識があることを意識し、受講してほしい。</li> <li>・授業で学ぶ範囲の予習・復習を確実に行うこと。</li> </ul>					
学生に対する評価	期末レポート90%、リアクションペーパー10%					
教科書(購入必須)	系統看護学講座『社会福祉 健康支援と社会保障制度③』医学書院					
参考書(購入任意)	なし					

科 目 名	地域との協働 I		担当教員名	保健福祉学部教員		
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	IPE（専門職連携教育）は、三年間の積み上げ型教育となる。その最初の講義となる「地域との協働 I」では、①IPE の概念および本学の連携教育の特徴である「地域型 IPE」を理解し説明することが出来る②「地域との協働 II」以降地域コミュニティと連携する際の基礎となる本学の歩みと地域との関係性について理解し説明することが出来る③IPE を進める上で基礎的な能力となる、「人物や物事を先入観なく捉え、相手（地域）に関心を持つ」能力を養成する。					
授業の概要	全体講義では IPE に必要な概念の理解、本学連携教育の流れについて解説した後、「地域との協働 II」以降で必要となる地域コミュニティとの連携協働の際に必要な、本学と地域との関係性について本学発展の歴史から概観する。次いで複数の教員による多様な内容のゲストトークを視聴し、先入観無く人物を捉え、多様な考え方を受け入れ・理解する素地を養う。最後に IPE および IPW（多職種連携）において必須のスキルとなるグループワークの進め方について講義する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（オンデマンド講義もしくは対面講義）</li> <li>2 本学の歴史的経緯と地域との関わり①：市立名寄短期大学の開学と発展（オンデマンド講義もしくは対面講義）</li> <li>3 本学の歴史的経緯と地域との関わり②：短大から名寄市立大学への改組と発展（オンデマンド講義もしくは対面講義）</li> <li>4 多種多様な分野の理解①（オンデマンド講義）</li> <li>5 多種多様な分野の理解②（オンデマンド講義）</li> <li>6 多種多様な分野の理解③（オンデマンド講義）</li> <li>7 グループワーク演習：グループワークの進め方（オンデマンド講義：0.5 コマ）</li> <li>8 グループワーク演習（対面講義）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。			45 分	
	復習	自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。			45 分	
授業の留意点	配信日の間隔が一定では無いため、視聴・課題提出漏れに注意すること。グループワーク（対面講義）においては複数日に分散して実施するため、各自が出席するべき日時と教室を把握すること。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけで無く、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。					
学生に対する評価	毎回の小レポート 40 点、最終レポート 60 点により評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）						

科 目 名	地域との協働Ⅱ		担 当 教 員 名	保健福祉学部教員		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が“その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。本学連携教育全体では「地域住民の生活上の課題やニーズに対する幅広いケアを多職種連携で行うこと」を到達目標としている。</p> <p>地域との協働Ⅱでは、これらの定義と全体目標に基づき、以下の2点の能力を養成する。</p> <p>第1に、この IPW の基盤となる“専門職間の成熟した人間関係”を形成する。</p> <p>第2に、「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」できるようになる。</p>					
授業の概要	<p>本講義は3つのパートから構成される。</p> <p>①IPW および IPE の概念を講義によって学び、地域活動の意義・目的について理解する。</p> <p>②少人数・学科混成グループを編成し、テーマ別に地域活動を行う。地域活動を実施する際に地域系 IPE として、対人援助職としての自身の視点を持ちつつ、地域コミュニティをフィールドとした実践的活動を行う。その際二つのコアドメインである「協働する職種で患者や利用者、家族、地域にとっての重要な関心事/課題に焦点を当て、共通の目標を設定することができる」、「職種背景が異なることに配慮し、互いに、互いについて、互いから職種としての役割、知識、意見、価値観を伝え合うことができる」および、コア・ドメインを支え合う四つのドメイン「職種としての役割を全うする能力」「自職種を省みる能力」「他職種を理解する能力」「関係に働きかける能力」について学ぶことが出来るよう、ねらいを提示する。</p> <p>1) 教員が提示した大テーマの中から各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する</p> <p>2) グループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する。</p> <p>3) 地域活動から得た学びを発表・討議し、専門職連携の意義と効果を全体で共有する。 指導は担当教員のほか、地域との協働Ⅲを履修する3年生も補助として参加し、活動を円滑に取り組めるよう支援する。</p> <p>③学びを深める共通コンテンツにより講義・演習を行う。 自らが参加した地域活動による“一つの学び”に加えて、複数の「地域をフィールドとした連携・協働の実践活動」を講義・演習を通じて学び、その成果を受講者間で共有することで、より多くの事例から IPE を行う。</p>					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション：講義方法の説明と地域活動のグループ分け</p> <p>2 IPW および IPE の概念について</p> <p>3 地域活動の意義と目的について</p> <p>4 グループ別ガイダンス</p> <p>5-11 グループ別地域活動</p> <p>12-13 グループ別地域活動のまとめ</p> <p>14 共通コンテンツによる学びの拡張</p> <p>15 まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。			45分	
	復習	自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。			45分	
授業の留意点	<p>グループ別の地域活動では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるため、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。</p> <p>一部オンライン講義を活用するため対応できる視聴機材を準備しておくこと（詳細はガイダンス等で説明する）。</p> <p>地域活動は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための名寄市立大学の行動指針」（以下行動指針）に基づき、開講形態および日時を変更する場合がある。連絡はメールや Moodle 等で行うため、日々大学メールの確認を行うこと。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけで無く、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>					
学生に対する評価	オンライン講義にあたっては毎回の小レポート（20点）、地域活動においては活動日誌の提出およびまとめレポート（40点）、および最終レポート（40点）で評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）						

科 目 名	地域との協働Ⅲ		担当教員名	保健福祉学部教員		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	地域との協働Ⅰ・Ⅱにおける学びを踏まえ、①IPW (Inter-professional Work) の基盤となる“専門職間の成熟した人間関係”を形成するためのコーディネーターとして活動できる能力を養成する。②「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」するための環境づくりができる能力を養成する。 具体的にはリーダーシップ性、コミュニケーション力、マネジメント力を総合的に高め、フィールド活動に主体的に参加する姿勢を身につけることを目標とする。					
授業の概要	①全体講義でリーダーシップ論、マネジメント論などについて学ぶ。一部ロールプレイングやグループワークなどを取り入れて、連携実践をコーディネートするために必要な能力を養成する。 ②協働ゼミ・社会活動を通じて連携実践をコーディネートするために必要な能力を養成する。与えられた大テーマのもとで、PBL (Problem Based Learning : 問題解決型学習) の手法を用いて自ら課題の析出を行い、既存研究の確認・事例調査・分析・考察・発表 (学びの共有) を行う。自ら多様な地域行事に参画あるいは自ら企画することで、連携協働の実践と考察を行う。 ③「地域との協働Ⅱ」の地域活動に連携実践のコーディネーターとして参加し、2年生のサポート役として必要な援助を行う。 ④まとめとして、自らのコーディネーション能力について、全体講義で学んだマネジメント論等の観点から振り返りを行い、グループワークを行う。その結果を最終レポートとして提出し、成果を受講者間で共有することで学びの共有を行う。					
授業の計画	1-2 オリエンテーション 3 専門職連携におけるマネジメント① ((全体講義) 4 専門職連携におけるマネジメント② (全体講義) 5 専門職連携におけるマネジメント③ (全体講義) 6 専門職連携におけるマネジメント④ (全体講義) 7-8 専門職連携におけるマネジメント⑤⑥ (グループワーク) 9 協働ゼミ・社会活動のガイダンス 10-16 協働ゼミグループ別活動・個人別社会活動 17-23 地域活動におけるマネジメント実践 24-26 共通コンテンツによる学びの拡張 27 リーダーシップおよびマネジメント実践 28-29 マネジメント実践の振り返り 30 まとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。			90 分	
	復習	自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。			90 分	
授業の留意点	グループ別の地域活動では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるため、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。一部オンライン講義を活用するため対応できる視聴機材を準備しておくこと (詳細はガイダンス等で説明する)。 地域活動は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための名寄市立大学の行動指針」(以下行動指針) に基づき、開講形態および日時を変更する場合がある。連絡はメールや Moodle 等で行うため、日々大学メールの確認を行うこと。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけで無く、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。					
学生に対する評価	全体講義にあたっては毎回の小レポート (20 点)、地域活動においては活動日誌の提出およびまとめレポート (40 点)、および最終レポート (40 点) で評価する。					
教科書 (購入必須)						
参考書 (購入任意)						



科 目 名	公衆衛生学		担当教員名	荻野 大助		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	公衆衛生学の基本的概念を学び、今日的課題についても、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。					
授業の概要	<p>「公衆衛生学」は、人を社会生活者と捉え、社会や環境との関連から人の健康障害の原因を明らかにし、健康を保持増進し、疾病・障害を予防し、すべての人がよりよく生きる社会の実現に寄与する学問である。健康の概念、公衆衛生の目的について理解し、健康に関連する要因（宿主要因、環境要因、病因）と病気の発生、特に、どのような環境およびライフスタイル（栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など）が生活習慣病を引き起こす危険性（リスク）を高めるのかについて学ぶ。さらに、健康指標としての各種の保健統計、健康増進施策、少子高齢化や国民医療費などの今日的課題について、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆衛生の歴史</li> <li>2 疫学の基本事項</li> <li>3 衛生統計／健康水準・健康指標</li> <li>4 感染症とその予防</li> <li>5 食品と栄養</li> <li>6 生活環境（衣服と住居、水道、廃棄物）</li> <li>7 医療制度（行政、資源、医療費）</li> <li>8 地域保健（保健所と市町村保健センター）</li> <li>9 母子保健（母子保健事業、少子化対策）</li> <li>10 学校保健</li> <li>11 生活習慣病①</li> <li>12 生活習慣病②</li> <li>13 難病と精神保健</li> <li>14 産業保健（労働衛生）</li> <li>15 健康危機管理（災害と健康）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書を事前に目を通す。			60分	
	復習	課題に取り組み、整理ノートを活用して整理する。			60分	
授業の留意点	<p>他の授業科目とも関連する重要な事柄が、それぞれの単元の学習において頻出する。ただ単にキーワードを暗記するのではなく、きちんと内容を理解するよう努めることが大事である。</p> <p>予習は講義前に教科書の赤字キーワードなどを確認しておくこと。課題を取組んだ後は、見直し復習すること。</p> <p>※ 感染症（covid-19）の状況によって講義形式が対面から遠隔（ハイフレックス形式）へ変更の場合有。</p>					
学生に対する評価	<p>課題（25点）と期末試験（75点）で成績評価を行う。</p> <p>※ 極端に点数（期末試験と課題取組状況）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる。</p>					
教科書（購入必須）	清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2023/2024年）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	人間関係論		担当教員名	結城 佳子・中島 泰葉		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師等として多様な場面での心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助の基盤となる人間関係に関する基本的知識と考え方を指導する科目					
学習到達目標	<p>看護の担い手は、対人援助専門職として対象者との間に援助の人間関係を構築し、維持することが求められる。人の発達、成長、成熟に深く関わる人間関係の基礎的理論を学び、自己理解・他者理解を通じて、看護実践の基礎となる人間関係について理解を深めることを目標とする。</p> <p>1. 自己理解及び他者理解の基本的な考え方を説明することができる。  2. 人の各発達段階における人間関係の様相について、要点を述べることができる。  3. 集団における人間関係の様相について、要点を述べることができる。  4. チームワーク、メンバーシップ、リーダーシップについて、基本的な考え方を説明できる。</p>					
授業の概要	講義とともに小課題、ワークなどに取り組み、体験を通して人間関係について理解を深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション/人間関係の基礎① 人間関係の基本的視点</li> <li>2 人間関係の基礎② 自己理解</li> <li>3 人間関係の基礎③ 他者理解</li> <li>4 自己と他者のコミュニケーション① 話す/聴く</li> <li>5 自己と他者のコミュニケーション② 観る/感じる</li> <li>6 人間関係の生涯発達① 乳幼児期～学童期</li> <li>7 人間関係の生涯発達② 思春期・青年期～老年期</li> <li>8 人間関係の諸相① 家庭</li> <li>9 人間関係の諸相② 学校/職場</li> <li>10 集団の人間関係① 支配と権威</li> <li>11 集団の人間関係② 親和と同調</li> <li>12 集団の人間関係③ 攻撃と敵対</li> <li>13 集団の人間関係④ 援助と協調</li> <li>14 対人援助における人間関係① 医療チームにおける人間関係</li> <li>15 対人援助における人間関係② 患者一看護師関係</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて調べ、疑問点等を明確にしておく。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を1編以上読む。			90分	
授業の留意点	少人数でのグループワークを積極的に取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。					
学生に対する評価	レポート課題：中間、最終各50点、計100点 以下の5段階で評価する。 S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下 C以上の評価について単位を認定する。D評価の者は課題再提出とし、再提出は素点69点までとする。					
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。					
参考書（購入任意）	必要時指示する。					

科 目 名	疫学		担当教員名	荻野 大助		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	疫学に関する基礎概念を知ること。疫学研究デザインの使い分けを知ること。疫学指標（リスクの指標、疾病頻度の指標、スクリーニングの指標）の計算ができること。					
授 業 の 概 要	「公衆衛生 Public Health」は人間集団における「疾病の予防」と「健康およびQOLの増進」を目指し、「疫学 Epidemiology」はそのためのツールである。疫学の基礎概念・疫学研究デザインの考え方と使い分けについて知り、疫学指標の計算練習をする。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 疫学の定義・歴史上の疫学の業績</li> <li>2 疾病の発生原因解明の追及までの流れ</li> <li>3 疫学指標（1）～「頻度の測定」</li> <li>4 疫学指標（2）～「頻度の比較」</li> <li>5 疫学研究を始める前に</li> <li>6 疫学研究方法の種類・記述疫学（1）</li> <li>7 記述疫学（2）</li> <li>8 分析疫学（1）～「横断研究と生態学的研究」</li> <li>9 分析疫学（2）～「症例対照研究」</li> <li>10 分析疫学（3）～「コホート研究」</li> <li>11 介入研究</li> <li>12 因果関係・交絡因子</li> <li>13 スクリーニング</li> <li>14 疾病登録・サーベイランス</li> <li>15 疫学研究と倫理</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に配布した問題集や教科書の関連した章に目を通す。			60分	
	復習	問題集や講義内に出てきた問題に取り組む。			60分	
授 業 の 留 意 点	教科書や配布資料をよく読んで、重要事項を整理し、配布した問題集等の計算練習をしておくこと。 計算練習の時は、電卓（関数電卓でも可）を持参すること。 試験の時は、携帯電話・スマートフォン・タブレット・電子辞書・パソコンを使用禁止とする。 ※ 感染症（covid-19）の状況によって講義形式が対面から遠隔へ変更の場合有。					
学生に対する評価	期末試験（100点満点）で評価する。 ※ 極端に点数（期末試験）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる。					
教 科 書 （購入必須）	日本疫学会（監修）『はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第3版』南江堂 授業に必要なプリントはその都度配布する。					
参 考 書 （購入任意）	公衆衛生学受講時（1年生）に購入した 清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2022/2023年）					

科 目 名	保健医療福祉行政論 I		担当教員名	播本 雅津子・野村 陽子・室矢 剛志		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	行政機関での実務経験を有する教員が担当する。保健医療福祉行政で必要とされる法律や制度について解説する。					
学習到達目標	<p>保健・医療・福祉に関する法律や制度などを理解できる。</p> <p>さまざまな対象者の健康と生活を支える保健医療福祉行政の役割について理解できる。</p>					
授業の概要	保健医療福祉行政に関する理念や仕組みを学んだ上で、あらゆる対象者の健康を支えるための根拠となる法律や制度について理解する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健医療福祉行政の理念</li> <li>2 保健医療行政の仕組み</li> <li>3 社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷</li> <li>4 社会保障制度の理念と仕組み</li> <li>5 医療法と医療提供体制</li> <li>6 母子保健に関する法律と制度</li> <li>7 成人保健に関する法律と制度</li> <li>8 高齢者保健に関する法律と制度</li> <li>9 地域包括ケアシステムにおける保健師の役割</li> <li>10 精神保健に関する法律と制度</li> <li>11 難病保健に関する法律と制度</li> <li>12 障害者福祉に関する法律と制度</li> <li>13 感染症対策に関する法律と制度</li> <li>14 健康危機管理に関する法律と制度</li> <li>15 保健医療福祉計画と根拠法</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			90 分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			90 分	
授業の留意点	これまで学んだ科目の内容との関連を考えながら履修すること。受講後には必ず教科書等を読み、そのつど知識を整理しておくこと。詳細は、開講時に配布するスケジュールを確認すること。					
学生に対する評価	筆記試験（70 点）・レポート課題（30 点）により評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。					
教科書（購入必須）	野村陽子編『最新保健学講座 7 保健医療福祉行政論』メヂカルフレンド社					
参考書（購入任意）	<p>藤内修二他編『標準保健師講座別巻 1・保健医療福祉行政論 第 5 版』医学書院</p> <p>厚生統計協会編『厚生指針・国民衛生の動向』厚生統計協会</p>					

科 目 名	保健医療福祉行政論Ⅱ		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	行政機関での実務経験を有する教員が担当する。保健師が実践している保健医療福祉行政での活動の実際について解説する。					
学習到達目標	保健・医療・福祉に関する法律や制度などを活用して健康課題に応じた活動を実践するプロセスを学習し、保健医療福祉行政における保健師の役割を理解できる。					
授業の概要	保健医療福祉行政の立場から、さまざまな健康課題に応じた活動を展開するために必要な制度や保健医療福祉サービスの立案・実施・評価の流れについて学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域保健行政と地方自治の理念</li> <li>2 地域保健行政の体系</li> <li>3 地域保健行政の予算の仕組み</li> <li>4 地域保健行政における保健師の役割(1)-都道府県の保健師活動</li> <li>5 地域保健行政における保健師の役割(2)-市町村の保健師活動</li> <li>6 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(1)-母子保健</li> <li>7 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(2)-成人・高齢者保健</li> <li>8 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(3)-感染症対策</li> <li>9 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(4)-健康危機管理</li> <li>10 保健医療福祉計画の策定と評価</li> <li>11 保健事業の立案と評価(1)-健康課題の検討</li> <li>12 保健事業の立案と評価(2)-事業内容の検討（企画の全体像）</li> <li>13 保健事業の立案と評価(3)-事業内容の検討（保健指導方法）</li> <li>14 保健事業の立案と評価(4)-評価方法の検討</li> <li>15 保健事業の立案と評価(5)-立案内容の報告と共有</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			90 分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			90 分	
授業の留意点	これまで学んだ科目の内容との関連を考えながら履修すること。受講後には必ず教科書等を読み、そのつど知識を整理しておくこと。詳細は、開講時に配布するスケジュールを確認すること。					
学生に対する評価	筆記試験（70 点）・レポート課題（30 点）により評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。					
教科書（購入必須）	野村陽子編『最新保健学講座 7 保健医療福祉行政論』メヂカルフレンド社					
参考書（購入任意）	藤内修二他編『標準保健師講座別巻 1・保健医療福祉行政論 第 5 版』医学書院 厚生統計協会編『厚生指針・国民衛生の動向』厚生統計協会					

科 目 名	福祉環境論		担当教員名	小林 浩		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>高齢者及び傷病者の適切な生活環境の設定や改善に向けて以下を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>療養環境を主体とする福祉住環境改善の場面においての社会福祉士や保健師・看護師に期待される役割を理解する。</li> <li>日常生活動作における基礎的な身体機能と動作の連環を理解する。</li> <li>高齢者や傷病者の疾病特性を理解し、介護手法や福祉用具、住宅改修のポイントを理解する。</li> <li>介護保険制度などの活用法を理解する。</li> </ol>					
授業の概要	<p>福祉住環境は、高齢者の事故防止、介護予防、介護負担の軽減などを図る上で必須の課題になる。この改善のための支援プロセスにおいて、社会福祉士、保健師・看護師などの保健医療福祉スタッフには、対象者の生活の場に臨んで活動する職種であるがゆえの役割に対する期待がある。住環境に存在している問題・課題を発見すること、対象者に対し改善に向けて適切な援助を行うこと、改善後にフォローアップするという役割である。上記を目標にして、これらの期待される役割にかかわる基礎的知識及び手法を解説する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢期における福祉住環境改善の役割と改善プロセスにおける在宅ケア支援職への期待</li> <li>2 身体機能の理解 (1) 動作分析における基礎的な解剖学・運動学</li> <li>3 身体機能の理解 (2) 生活動作の分解</li> <li>4 身体機能の理解 (3) 生活動作の分解と目標設定の方法</li> <li>5 建築空間理解のための基礎事項 (建築図面、平面記号、動線)</li> <li>6 住宅平面図作成 (演習) 住宅及び近隣地域作図</li> <li>7 住宅平面図作成 (演習) 住宅改修・福祉用具導入検討</li> <li>8 バリアフリー化の共通基本手法(1) 段差の解消、床材の選択、手すりの取付け</li> <li>9 バリアフリー化の共通基本手法(2) 建具への配慮、スペースへの配慮、家具・収納への配慮</li> <li>10 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(1) 外出、屋内移動 (アプローチ・外構、玄関)</li> <li>11 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(2) 屋内移動 (廊下、階段、出入口)</li> <li>12 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(3) 排泄 (トイレ)</li> <li>13 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(4) 入浴 (浴室)</li> <li>14 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(5) 着脱衣・洗面・整容、調理と食事、団らん、就寝 (洗面・脱衣室、台所・食堂、居間、寝室)</li> <li>15 建築空間にかかわる大型福祉用具 (段差解消機、階段昇降機、リフト) と介護保険対象の改修工事、福祉用具</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業テーマ及び関連項目の事前学習を行う。			60分	
	復習	授業内での課題テーマの検討及び授業の復習を行う。			120分	
授業の留意点	授業中、平面図作成など課題がある。					
学生に対する評価	各課題レポート (100点) で評価する。					
教科書 (購入必須)	テキストは指定しない。授業時に資料プリントを配付する。					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	人権と法		担当教員名	栞山 茂樹		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	現代日本で話題の人権問題と、その法的争点について理解し、論じられるようになる。 憲法人権分野について、法学の専門的水準の知見を身につける。					
授 業 の 概 要	人権に関する重要判例・トピックをとりあげ、その法的争点を解説していく。現代日本の人権問題について、ジャーナリスティックな時事評論ではなく法学の専門的見地から議論していく。現代社会では人権理念が普及する一方で、それに反動する民族主義・差別主義等も台頭してきている。その渦中にあるわれわれは、人権についての見識や公共心をどれだけ備えているかが試されているのである。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス</li> <li>2 人権と法制度：人権思想、人権と実定法</li> <li>3 人権と憲法</li> <li>4 憲法上の権利</li> <li>5 外国人の人権①：入管法のしくみ</li> <li>6 外国人の人権②：最高裁判例の動向</li> <li>7 外国人の人権③：ヘイトスピーチの現況</li> <li>8 三菱樹脂事件ほか：私人間効力論</li> <li>9 公安テロ情報流出事件：プライバシー権ほか</li> <li>10 生命・身体・リプロダクション：自己決定権</li> <li>11 婚外子差別：法の下での平等</li> <li>12 夫婦同氏訴訟：婚姻の自由</li> <li>13 同性婚訴訟ほか：LGBTQ+の人権</li> <li>14 立川反戦ビラ訴訟ほか：政治的表現の自由</li> <li>15 二風谷ダム事件：少数民族の権利</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定参考書を読む。			90分 以上	
	復習	講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。政府機関、裁判所などのWebサイトに目を通す。			90分 以上	
授 業 の 留 意 点	本講義は私の担当科目「日本国憲法」を補完するものでもある(そのため、一部内容が重複することをお断りしておく)。併せて受講してもらうことを強く望む。「法学(国際法を含む)」「子どもの権利」「教育法概論」とも関連がある。 授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。					
学生に対する評価	期末試験(100%)					
教 科 書 (購入必須)	なし。毎回パワーポイントとハンドアウトで講義をおこなう。各自しっかりノートをとること。					
参 考 書 (購入任意)	<p>独習用のテキストとして、以下を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018)</li> <li>・中村睦男編著『はじめての憲法学 第4版』(三省堂、2021)</li> <li>・棟居快行ほか『基本的人権の事件簿 第6版』(有斐閣、2019)：旧版も参照。</li> </ul> <p>そのほか、参考文献を適宜紹介する。</p>					

科 目 名	ソーシャルインクルージョン論		担当教員名	堀 智久		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>ソーシャルインクルージョンとは、これまで何らかの理由で社会から排除されてきた人、たとえば、障害者や貧困層、高齢者、女性、移民など、社会的不利益を被るすべての人を社会が包摂するという意味である。たとえば、障害者領域では、2006年に障害者権利条約が成立し（日本も2014年に批准）、その第3条「一般原則」では「社会への完全かつ効果的な参加及びインクルージョン」が掲げられている。本講義では、とくに障害者領域を議論の出発点として、障害の社会モデルの考え方やインクルージョンの視点、さらには、障害者に限らず、能力という面において不利な立場に置かれている人が、つつがなく生きていける社会とはどのような社会か。近年問題になっている若者の失業問題や高齢者、女性、移民等の貧困問題等について検討を行い、多角的かつ複眼的な視点から社会的排除について議論を深めていくことをねらいとする。</p>					
授 業 の 概 要	<p>授業の計画にあるように、前半では、障害の社会モデルや障害者権利条約に見られるインクルージョンの視点など、障害と社会の関係性について、多角的かつ複眼的な視点から学習する。後半では、障害者に限らず、若者、高齢者、女性、移民問題など、貧困や社会的排除について議論を行い、誰もがつつがなく生きていける社会はいかにして構想され得るのかについて、複眼的な視点から考察を深めていく。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 社会的排除とは何か</li> <li>3 障害をどう捉えるのか、社会モデルの考え方</li> <li>4 障害者権利条約におけるインクルージョンの視点</li> <li>5 障害者基本法・障害者差別解消法におけるインクルージョンの視点</li> <li>6 インクルーシブ教育とは何か</li> <li>7 インクルーシブ教育と日本の特別支援教育の違い</li> <li>8 戦後日本の社会保障制度システム</li> <li>9 貧困と社会的排除</li> <li>10 若者、高齢者、女性、移民問題と社会的排除</li> <li>11 ケア労働</li> <li>12 複合差別</li> <li>13 機会の平等と結果の平等</li> <li>14 メリトクラシーとハイパーメリトクラシー</li> <li>15 ベーシックインカム (basic income)</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容の理解を高めるため、指定されたテキストの事前学習を行う。			90分間	
	復習	授業内容の理解を高めるため、配布資料の事後学習を行う。			90分間	
授業の留意点	配布資料の自己管理をしっかりと行うこと。必ず復習しましょう。					
学生に対する評価	リアクションペーパー（40点）、レポート課題（30点）、期末試験（30点）					
教科書（購入必須）	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する。					
参考書（購入任意）						



科 目 名	医療福祉論		担当教員名	榊原 次郎		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。その経験を通して、医療ソーシャルワーカーの援助技術および地域を基盤とする多職種・多機関の連携・協働について授業を行う。					
学習到達目標	①医療福祉領域のソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を学び、保健医療に係る政策、制度、サービスについて、福祉との関係性を含め理解し習得する。 ②保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解し、保健医療の中で疾病や疾病に伴う課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援の実践方法を習得することを到達目標とする。					
授業の概要	医療現場における医療ソーシャルワーカー（MSW）の業務理解を通して、活用できるフォーマル・インフォーマルな社会資源やその連携方法を学ぶ。 病院だけでなく、診療所（クリニック）や在宅医療等地域の中で機能を発揮する MSW の具体的実践内容を知り、各種実習や社会生活で活用できるコミュニケーションスキル・面接技術を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割</li> <li>2 疾病構造の変化に伴う保健医療の動向</li> <li>3 保健医療における福祉的課題</li> <li>4 保健医療の課題を持つ人（病者および家族）の理解</li> <li>5 医療倫理と保健医療に係る倫理的課題</li> <li>6 患者の権利と保健医療における意思決定支援</li> <li>7 保健医療サービスを提供する施設とシステム（地域医療計画・医療施設・保健所の役割）</li> <li>8 保健医療に係る政策・制度（医療保険制度・診療報酬制度）</li> <li>9 介護保険制度と地域包括ケア</li> <li>10 保健医療における社会福祉士の役割</li> <li>11 医療ソーシャルワーカー業務指針（業務の範囲と方法）</li> <li>12 保健医療における専門職と多職種連携実践（IPW）</li> <li>13 地域の関係機関との連携・協働</li> <li>14 医療ソーシャルワーカーの支援事例（入院中・退院時・災害現場における支援）</li> <li>15 医療ソーシャルワーカーの支援事例（外来・在宅医療・終末期ケアにおける支援）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画の項目に沿った医療福祉に関する資料を読み込む。			90 分	
	復習	授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめる。講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出する。			90 分	
授業の留意点	保健医療福祉領域の広がりや連携に重要な役割を果たす医療ソーシャルワークの業務について、保健医療サービスの現状について関心を持ち、各種資料や報道される内容を分析し、予習・復習に努めること。 毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求める。					
学生に対する評価	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する。					
教科書（購入必須）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 5、保健医療と福祉』（中央法規）					
参考書（購入任意）	参考書については別途指示する。					

科 目 名	看護学概論		担当教員名	畑瀬 智恵美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が、看護の本質、看護学の学問特性、職業的看護の歴史的経緯・法的基礎、社会のニーズと看護の機能など、実践学を成立させる基本的要素について教授する科目					
学習到達目標	<p>1. 看護とは何かについて説明できる。</p> <p>2. 看護学の構成要素である看護、人間、健康、環境の概念および概念間の関連性について説明できる。</p> <p>3. 看護理論の複数のキーワードについて説明できる。</p> <p>4. 保健医療福祉分野における看護の役割について説明できる。</p> <p>5. 看護における倫理の重要性について説明できる。</p>					
授業の概要	看護の本質、看護学の学問特性、職業的看護の歴史的経緯・法的基礎、社会のニーズと看護の機能など、実践学を成立させる基本的要素について理解する。そのために中心的な看護概念を把握し、主な看護理論を学ぶ。また、近年の保健医療福祉分野における看護職の役割と機能を理解する。さらに、看護の対象者である人間を理解するための倫理的態度やケアリングを学び、看護職としての看護観を培う。					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、看護の変遷ー看護の原点、看護の語源</p> <p>2 看護の変遷ー看護の歴史</p> <p>3 「看護覚え書」からナイチンゲールの述べる看護について グループでまとめる</p> <p>4 看護学の主要概念 看護とは</p> <p>5 看護学の主要概念 看護の対象である人間</p> <p>6 看護学の主要概念 看護における健康、人間と環境の関係</p> <p>7 ナイチンゲール「看護覚え書」講読の発表</p> <p>8 看護理論の変遷と概要</p> <p>9 看護理論の講読（グループワーク）</p> <p>10 職業的看護の発展</p> <p>11 看護の役割と機能</p> <p>12 看護制度と政策、看護サービス</p> <p>13 看護における倫理・法</p> <p>14 看護理論の講読（グループワーク） 発表資料作成</p> <p>15 看護理論の講読（グループ発表）</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	看護覚え書や看護理論の講読および事前課題として提示するものを読み込んだり調べる。			90分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめるなどして復習する。			90分	
授業の留意点	看護に関するさまざまな文献を読むなど積極的に学習し、「看護とは何か」について、主体的に考えていきましょう。また、グループワークの際は協力しましょう。事前課題に示したものは、授業までにまとめましょう。授業で配布した資料やグループでまとめた資料は、ファイリングしてください。					
学生に対する評価	定期試験 80点と提出物 20点の合計点で評価します。尚、試験 6割（48点）以上、提出物 6割（12点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。					
教科書（購入必須）	<p>①茂野香おる代表：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論、第17版、医学書院</p> <p>②フローレンス・ナイチンゲール著『看護覚え書』（改訳第7版）現代社</p> <p>③ヘンダーソン.V（湯楨ます・小玉香津子訳）：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会</p>					
参考書（購入任意）	・城ヶ端初子編：新訂版 実践に生かす看護理論 19、サイオ出版					

科 目 名	看護技術論		担当教員名	畑瀬 智恵美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的に、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について教授する科目					
学習到達目標	1. 看護技術の特徴について説明することができる。 2. 看護技術における安全性・安楽性・自立支援について説明することができる。 3. 科学的根拠に基づいた看護を展開する技術について説明することができる。 4. 看護の専門性と看護技術の発展について説明することができる。 5. 看護技術の修得過程における課題を述べるることができる。					
授業の概要	看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について理解する。看護技術は、科学的根拠に基づいて、個性性を重視して実践されること、看護技術の修得過程における課題について考察していく。					
授業の計画	1 看護技術の特徴 2 看護技術の特徴：サイエンスでありアートであるという意味について 3 看護技術の要素：安全性、安楽性、自立支援 4 看護技術の要素：グループワーク 5 看護技術の要素：グループワークの発表 6 看護技術と看護過程 7 看護技術と看護理論 8 看護の専門性と看護技術の発展					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に提示した課題について調べてまとめる。			90分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめるなどして復習する。			90分	
授業の留意点	授業で提示した参考資料は熟読しましょう。 事前課題に示したものは、授業までにまとめましょう。 授業で配布した資料やグループでまとめた資料は、ファイリングしてください。 グループワークでは、メンバーの考えをきいて、学習を深めてください。					
学生に対する評価	定期試験 80点と提出物 20点の合計点で評価します。尚、試験6割（48点）以上、提出物6割（12点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。 以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。					
教科書（購入必須）	深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社					
参考書（購入任意）	授業中に提示する。					

科 目 名	看護共通技術 I		担当教員名	鈴木 朋子・岩田 直美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術を教授する科目					
学習到達目標	<p>1. 看護実践の基本となる感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術について、科学的根拠を踏まえて説明することができる。</p> <p>2. 看護実践に共通する感染予防技術、安楽促進技術に関する基本的な看護技術を実施できる。</p>					
授業の概要	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、看護実践に共通して必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、感染予防技術（感染予防の原則、スタンダードプリコーション）</p> <p>2 感染予防技術（感染経路別予防策、感染源対策、無菌操作）</p> <p>3 感染予防技術の実際：手洗い、個人防護用具の装着①</p> <p>4 感染予防技術・スタンダードプリコーション（認定看護師）</p> <p>5 安楽促進技術（安楽の概念、体位保持、ボディメカニクス）</p> <p>6 安楽促進技術（安楽をもたらす看護技術）</p> <p>7-8 安楽促進技術の実際：ボディメカニクスの基本、安楽な体位、体位変換</p> <p>9 安楽促進技術の実際：温罨法、冷罨法</p> <p>10-11 病院見学</p> <p>12-13 感染予防技術の実際：消毒、滅菌、個人防護用具の装着②</p> <p>14 安全管理技術（看護における安全、ヒューマンエラー）</p> <p>15 安全管理技術（転倒転落事故、誤薬、患者誤認）</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。			20分	
	復習	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。			25分	
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p> <p>提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。</p> <p>また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。</p>					
学生に対する評価	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。なお、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。					
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社</p> <p>②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院</p>					
参考書（購入任意）	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ					

科 目 名	看護共通技術Ⅱ		担当教員名	鈴木 朋子・齋藤 千秋		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要なコミュニケーション技術、終末期における援助を教授する科目					
学習到達目標	<p>1. コミュニケーションについて説明できる。</p> <p>2. 看護場面における効果的なコミュニケーション技法について実施できる。</p> <p>3. 援助的なコミュニケーションについて自己の課題を説明できる。</p> <p>4. 死の看取りにおける技術の目的、留意点、方法について説明できる。</p>					
授業の概要	<p>1. 看護の基本となる援助的人間関係の構築について学ぶ。コミュニケーション理論を基礎に、コミュニケーションに必要な技法を体験的に学ぶ。ロールプレイングを通して、自己のコミュニケーションの傾向や援助者としてのコミュニケーションスキルをリフレクションし、自己の課題を見出す。</p> <p>2. 終末期における援助を学ぶ。</p>					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、コミュニケーション技術</p> <p>2 看護職として必要な接遇・マナー</p> <p>3 看護職として必要な接遇・マナーの実際</p> <p>4 コミュニケーション技術（看護師と患者の関係、対人関係の成立に不可欠な要素）</p> <p>5 コミュニケーション技術（コミュニケーションの構成要素と成立過程）</p> <p>6 コミュニケーション技術（効果的なコミュニケーションの実際）</p> <p>7 コミュニケーション技術の実際（自身のコミュニケーションを振り返る）</p> <p>8 コミュニケーション技術の実際（伝える・伝わる経験）</p> <p>9 コミュニケーション技術の実際（ロールプレイ）</p> <p>10 コミュニケーション技術の実際（動画を視聴し、グループワーク）</p> <p>11 コミュニケーション技術の実際（看護場面の再構成）</p> <p>12 コミュニケーション技術の実際（看護場面の再構成をもとにグループワーク）</p> <p>13 コミュニケーション技術（自己課題の明確化）</p> <p>14 死の看取りの技術（悲嘆へのケア）</p> <p>15 死の看取りの技術（死後のケア）</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。			20分	
	復習	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。			25分	
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p> <p>提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。</p> <p>また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。</p>					
学生に対する評価	<p>定期試験 50 点と提出物 50 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（30 点）以上、提出物 6 割（30 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。</p> <p>以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。</p>					
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社</p> <p>②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第2版、医学書院</p>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	基礎看護技術 I		担当教員名	岩田 直美・畑瀬 智恵美・齋藤 千秋	
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、基本的な生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を教授する科目				
学習到達目標	<p>1. 看護における環境調整の意義およびその援助方法について説明できる。</p> <p>2. 人間にとっての活動と休息の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>3. 人間にとっての栄養と食事の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>4. 環境調整、活動と休息、栄養と食事に関する基本的な看護技術を実施できる。</p>				
授業の概要	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、基本的な生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活の援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるように、実践できるための基盤を学習する。				
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、環境調整技術</p> <p>2 環境調整技術</p> <p>3 活動・休息援助技術</p> <p>4 活動・休息援助技術・廃用症候群の予防（認定看護師）</p> <p>5-6 環境調整技術の実際：ベッドメイキング</p> <p>7 食生活と栄養摂取の技術</p> <p>8-9 食生活と栄養摂取の技術の実際：食事の援助・口腔ケア</p> <p>10-11 技術試験（ベッドメイキング）</p> <p>12-13 環境調整技術の実際：リネン交換</p> <p>14-15 活動・休息援助技術の実際：車椅子・ストレッチャーの移乗・移送</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定した教科書の該当する単元を読み込み、教員から動画視聴の指示があった場合はイメージが付くまで視聴する。技術項目に対して看護技術実践ノート(目的、実施内容、手順、根拠、留意点他)を作成する。			20 分
	復習	授業内容を教科書やレジユメを使用し振り返る。教員から指示があった場合はリフレクションシートを作成する。			25 分
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して看護技術実践ノート(目的、実施内容、手順、根拠、留意点他)を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学生に対する評価	<p>定期試験 60 点、技術試験 20 点、提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割 (36 点) 以上、技術試験 6 割 (12 点) 以上、提出物 6 割 (12 点) 以上を取得した場合に合格となります。</p> <p>提出物の期限は厳守すること。</p> <p>以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。</p>				
教科書 (購入必須)	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社</p> <p>②深井喜代子編：基礎看護技術 II、メヂカルフレンド社</p> <p>③任和子・井川順子編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院</p>				
参考書 (購入任意)	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ				

科 目 名	基礎看護技術Ⅱ		担当教員名	齋藤 千秋・岩田 直美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、基本的な生活援助技術である排泄、清潔の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を教授する科目					
学習到達目標	<p>1. 人間にとっての清潔・衣生活の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>2. 人間にとっての排泄の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>3. 清潔、排泄に関する基本的な看護技術を実施できる。</p>					
授業の概要	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、基本的な生活援助技術である排泄、清潔の援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるように、実践できるための基盤を学習する。					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、清潔・衣生活の援助技術：清潔の意義、入浴</p> <p>2-3 清潔・衣生活の援助技術の実際：足浴</p> <p>4 清潔・衣生活の援助技術：部分浴、清拭、洗髪</p> <p>5-6 清潔・衣生活の援助技術の実際：全身清拭・寝衣交換</p> <p>7-8 清潔・衣生活の援助技術の実際：洗髪</p> <p>9 排泄援助技術：排泄の意義、尊厳を踏まえた援助の基本</p> <p>10 技術試験</p> <p>11-12 排泄援助技術の実際：ベッド上の排泄介助・おむつ交換・陰部洗浄</p> <p>13 排泄援助技術：排泄障害と、処置が必要な患者への援助</p> <p>14-15 排泄援助技術の実際：導尿・浣腸</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を予習する。教科書を参照し、看護技術実践ノートを作成する。			20分	
	復習	教科書や講義資料を振り返り、授業内容をまとめる。リフレクションシートを作成して、演習内容を振り返る。			25分	
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>					
学生に対する評価	<p>定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。</p> <p>以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。</p>					
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社</p> <p>②深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社</p> <p>③任和子・井川順子・秋山弥弥編：基礎・臨床看護技術、第2版、医学書院</p>					
参考書（購入任意）	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ					

科 目 名	基礎看護技術Ⅲ		担当教員名	鈴木 朋子・齋藤 千秋・岩田 直美	
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査・診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を教授する科目				
学習到達目標	<p>1. 診療に伴う援助技術における看護師の役割を説明できる。</p> <p>2. 栄養、呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術について、安全・安楽を配慮した援助方法について説明できる。</p> <p>3. 栄養、呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術を安全・安楽で確実に実施できる。</p> <p>4. 紙上事例を用いて、看護過程を展開することができる。</p>				
授業の概要	検査、診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術、支援・相談的技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。				
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、栄養摂取の援助技術</p> <p>2-3 栄養摂取の援助技術の実際：経鼻胃チューブ経管栄養法</p> <p>4 栄養摂取の援助技術・摂食嚥下障害看護（認定看護師）</p> <p>5 呼吸・循環を整える技術（姿勢・呼吸法、酸素吸入療法、吸入療法、気道分泌物排出の方法）</p> <p>6 呼吸・循環を整える技術（胸腔ドレナージ、人工呼吸療法、末梢循環促進の援助）</p> <p>7-8 呼吸・循環を整える技術の実際：酸素吸入、気道内加湿法、口腔内・鼻腔内吸引、弾性ストッキング</p> <p>9 創傷管理技術</p> <p>10 創傷管理技術の実際：創傷処置、包帯法</p> <p>11 創傷管理技術・褥瘡予防のためのケア（認定看護師）</p> <p>12 看護過程演習：アセスメント</p> <p>13 看護過程演習：看護上の問題の特定</p> <p>14 看護過程演習：計画立案</p> <p>15 看護過程演習：実施・評価</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。			20分
	復習	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。			25分
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な練習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して、看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んでください。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p> <p>事例検討では、提示された課題について個人学習をして授業に臨み、グループワークなどを通して学びを深めましょう。</p>				
学生に対する評価	定期試験 70 点、看護過程レポート 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、看護過程レポート 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、看護過程レポート、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社</p> <p>②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院</p>				
参考書（購入任意）	<p>・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰ、インターメディカ</p> <p>・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第4版、学研</p> <p>・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版</p>				



科 目 名	基礎看護技術Ⅳ		担当教員名	鈴木 朋子・畑瀬 智恵美・岩田 直美	
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査、診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を教授する科目				
学習到達目標	<p>1. 生命の危機状態と救命救急処置の意義および看護師の役割を説明できる。</p> <p>2. 救命救急処置を確実に実施できる。</p> <p>3. 検査の基本的な知識および看護師の役割と検査時の看護における留意事項について説明できる。</p> <p>4. 血液検査の静脈血採血の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。</p> <p>5. 与薬に関する基本的な知識および看護師の役割、留意事項について説明できる。</p> <p>6. 注射法の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。</p> <p>7. 輸血法に関する基本的な知識および留意事項について説明できる。</p>				
授業の概要	検査、診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。				
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、救命救急処置</p> <p>2 救命救急処置の実際：名寄消防署救急隊員</p> <p>3 検査・治療に関わる技術（検体の採取と扱い方、尿・便検査 他）</p> <p>4 検査・治療に関わる技術（血液検査、血液検体の取り扱い）</p> <p>5-6 検査・治療に関わる技術の実際：静脈血採血</p> <p>7 与薬の技術（薬理作用、薬物療法、経口与薬）</p> <p>8 与薬の技術（外用薬の与薬法）</p> <p>9 与薬の技術（皮下・皮内・筋肉内注射）</p> <p>10 与薬の技術の実際：注射器・注射針の取り扱い、薬剤の準備</p> <p>11-12 与薬の技術の実際：皮下・筋肉内注射</p> <p>13 与薬の技術（静脈内注射・点滴静脈注射、輸血療法）</p> <p>14-15 与薬の技術の実際：静脈内注射・点滴静脈注射</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。			20分
	復習	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。			25分
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p> <p>提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。</p> <p>また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。</p>				
学生に対する評価	定期試験 90点と提出物 10点の合計点で評価します。尚、試験 6割（54点）以上、提出物 6割（6点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社</p> <p>②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院</p>				
参考書（購入任意）	<p>・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰ、インターメディカ</p> <p>・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第4版、学研</p> <p>・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版</p>				

科 目 名	ヘルスアセスメント		担当教員名	岩田 直美・畑瀬 智恵美	
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が、フィジカルアセスメントの基本技術と系統的な知識と技術を身につけるための、具体的な看護援助を教授する科目				
学習到達目標	<p>1. ヘルスアセスメントの概念と意義について説明できる。</p> <p>2. ヘルスアセスメントの一つであるフィジカルアセスメントの基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診）について説明できる。</p> <p>3. バイタルサインの基本的な知識と正確な測定方法について説明できる。</p> <p>4. バイタルサイン測定を正確に実施できる。</p> <p>5. 系統的フィジカルアセスメントの基本的な知識と方法について説明できる。</p> <p>6. 系統的フィジカルアセスメントの方法を実施できる。</p>				
授業の概要	ヘルスアセスメントとは、対象者が身体的に、心理・社会的に健康であるといえるかどうか、健康問題があるとすればその要因は何かを明らかにする行為である。フィジカルアセスメントの基本技術（問診・打診・聴診・視診・触診）と系統的な知識と技術を身につけ、臨床判断やコミュニケーション技術を用い具体的な看護援助を見出ししていく。				
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントにおける技術（問診・視診・触診・打診・聴診）</p> <p>2 バイタルサイン測定（体温、脈拍、呼吸、血圧、意識）</p> <p>3 バイタルサイン測定の実際：体温、脈拍、呼吸、血圧</p> <p>4-5 技術試験：バイタルサイン測定</p> <p>6 系統的フィジカルアセスメント：呼吸器系</p> <p>7 系統的フィジカルアセスメントの実際：呼吸器系 問診・視診・触診・打診・聴診</p> <p>8 系統的フィジカルアセスメント：循環器系</p> <p>9 系統的フィジカルアセスメント：腹部</p> <p>10-11 系統的フィジカルアセスメントの実際：循環器系・腹部 問診・視診・触診・打診・聴診</p> <p>12 系統的フィジカルアセスメントの実際：事例についてのアセスメント演習</p> <p>13 系統的フィジカルアセスメント：皮膚・リンパ系、排泄系（認定看護師）</p> <p>14 系統的フィジカルアセスメント：運動系・脳神経系（認定看護師）</p> <p>15 系統的フィジカルアセスメント：感覚器系（認定看護師）</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定した教科書の該当する単元を読み込み、教員から動画視聴の指示があった場合はイメージが付くまで視聴する。技術項目に対して看護技術実践ノート(目的、実施内容、手順、根拠、留意点他)を作成する。			20分
	復習	授業内容を教科書やレジュメを使用し振り返り、教員から指示があった場合はリフレクションシートを作成する。			25分
授業の留意点	<p>この科目は、講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって、講義を受けた上で、事前学習、演習に臨み、事後学習として、リフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的に練習を繰り返して看護技術を修得していく必要があります。</p> <p>自己学習として、看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学生に対する評価	定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術 I</p> <p>②横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント、メヂカルフレンド社</p> <p>③任和子・井川順子編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院</p>				
参考書（購入任意）	<p>・田中裕二編：わかって身につくバイタルサイン、学研</p> <p>・藤野智子監修：基礎と臨床をつなげるバイタルサイン、学研</p> <p>・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版</p> <p>・守田美奈子監修：写真わかる看護のためのフィジカルアセスメント、インターメディカ</p>				

科 目 名	看護過程演習		担当教員名	齋藤 千秋		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が看護実践に必要な看護過程の展開技術を教授する科目					
学習到達目標	<p>1. 看護実践における看護過程の意義および看護過程の構成要素を説明できる。</p> <p>2. 紙上事例を用いて、科学的根拠・臨床判断を基に、対象者のニーズや看護上の問題を明らかにし、対象者の目標とそれを達成するための看護ケアを具体的に立案できる。</p> <p>3. 対象者の安全・安楽・自立を考慮した個別的な看護ケアを模擬実施し、評価できる。</p> <p>4. 計画立案・看護ケア実施において、コミュニケーション技術、倫理的判断や行動についてリフレクションできる。</p>					
授業の概要	看護における看護過程の意義を理解し、クリティカルシンキングとリフレクションを用いながら、看護上の問題を解決するために論理的看護実践ツールとしての看護課程を学ぶ。紙上事例を用いて、科学的根拠・臨床判断に基づくアセスメントを行い、看護上の問題の特定、目標の設定、計画立案、実施、評価について学ぶ。さらに、対象者の安全・安楽・自立を考慮した個別的看護ケアを模擬実施する過程においては、コミュニケーション技術、倫理的判断に基づいた行動を併せて学ぶ。個人学習、グループ学習、発表会による学びの共有、模擬実施と評価から、看護実践の過程を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護過程の展開技術</li> <li>2 ゴードンの11の機能的健康パターン</li> <li>3 アセスメント：健康知覚-健康管理パターン</li> <li>4 アセスメント：栄養-代謝パターン、排泄パターン</li> <li>5 アセスメント：活動-運動パターン、睡眠-休息パターン</li> <li>6 アセスメント：認知-知覚パターン、自己知覚-自己概念パターン</li> <li>7 アセスメント：セクシュアリティ-生殖パターンなど</li> <li>8 看護上の問題の特定</li> <li>9 関連図・全体像</li> <li>10 計画</li> <li>11 実施・評価</li> <li>12 紙上事例の計画立案</li> <li>13 看護記録</li> <li>14 紙上事例の計画に基づく実践</li> <li>15 紙上事例の記録と評価</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前課題の看護過程記録を作成する。			20分	
	復習	講義内容をもとに、看護過程記録を見直し修正する。			25分	
授業の留意点	看護過程の展開技術は、生活援助技術のアセスメントや基礎看護学実習Ⅱで実際に活用します。提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。またグループワークなどを通して自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。					
学生に対する評価	定期試験40点と看護過程レポート40点および提出物20点の合計点で評価します。尚、定期試験6割（24点）以上、看護過程レポート6割（24点）以上、提出物6割（12点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、定期試験、看護過程レポート、提出物の全ての合格により単位は認定されます。					
教科書（購入必須）	①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社 ②渡邊トシ子編：ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく看護実践アセスメント、第3版、ヌーヴェルヒロカワ					
参考書（購入任意）						

科 目 名	地域看護学概論		担当教員名	播本 雅津子・伊藤 亜希子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師の経験を持つ教員と、市町村保健師と病院看護師の経験を持つ教員が担当する。地域看護の歴史の変遷およびその定義や理念、目的を学ぶ。様々な場における地域看護活動とその特徴を知り、地域看護の機能と役割について学習する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域看護の概念と機能を理解し、健康の保持増進と疾病予防における看護の役割を知る。</li> <li>・ 地域における看護職の活動および求められる役割について説明できる。</li> <li>・ 在宅ケアにおける看護職の活動および求められる役割について説明できる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	地域包括ケアの時代に応じた地域看護および在宅ケアの視点や方法を学ぶ					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域看護学の概念と機能</li> <li>2 地域看護の歴史（1）明治～平成初期</li> <li>3 地域看護の発展と今後の展望</li> <li>4 公衆衛生の考え方（プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション）</li> <li>5 地域看護を支える専門職と活動の場（1）保健所・市町村の活動</li> <li>6 地域看護を支える専門職と活動の場（2）産業保健・学校保健</li> <li>7 地域看護を支える専門職と活動の場（3）訪問看護</li> <li>8 継続看護と退院調整</li> <li>9 地域で療養生活をする人々を支える社会資源</li> <li>10 地域包括ケアシステムと多職種連携</li> <li>11 地域で療養する人々に関する制度</li> <li>12 地域看護の歴史（2）平成～令和</li> <li>13 在宅療養者の権利擁護と倫理</li> <li>14 災害時の看護活動（自然災害・感染症蔓延時）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	社会のニュース、地域社会の情報について常に関心を持って暮らすこと。			60分	
	復習	授業に関する教科書および資料を読んでおくこと。また関連する社会や地域の情報を確認すること。			120分	
授業の留意点	授業は2人の教員によるオムニバスで進め、一部は協力して進める。欠席や遅刻のないよう健康管理に留意すること。欠席・遅刻時は必ず連絡をすること。					
学生に対する評価	筆記試験 100点で評価する。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）	厚生省の指標 国民衛生の動向 2023/2024 河野あゆみ編 新体系看護学全書在宅看護論 メヂカルフレンド社					

科 目 名	地域看護活動論 I		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所または市町村での保健師実務経験を有する教員が担当する。この科目では地域住民を対象とした看護実践に必要な基本技術について学習する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で暮らす人々を理解するための地域診断の要素について説明できる。</li> <li>・家庭訪問に必要な基本的留意事項について説明できる。</li> <li>・電話相談の特徴を知り、電話対応の留意事項について説明できる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	地域看護活動の基本となる地域診断および家庭訪問の基本技術等について学習する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 地域看護活動に必要な技術について</li> <li>2 地域診断：コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて</li> <li>3 コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域紹介①</li> <li>4 コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域紹介②</li> <li>5 啓発活動：ポピュレーションアプローチについて</li> <li>6 ポピュレーションアプローチの実際</li> <li>7 地域診断・啓発活動演習① グループ分けとテーマ選定</li> <li>8 地域診断・啓発活動演習② テーマ別基本学習その1</li> <li>9 地域診断・啓発活動演習③ テーマ別基本学習その2</li> <li>10 地域診断・啓発活動演習④ 報告会準備</li> <li>11 地域診断・啓発活動報告会 テーマ別学習の共有</li> <li>12 家庭訪問活動の基礎</li> <li>13 家庭訪問活動の応用</li> <li>14 電話相談の基礎</li> <li>15 電話相談の応用</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	予習復習としてグループ演習では講義時間以外にも教員に個別指導を受けること。			45分	
授 業 の 留 意 点	欠席や遅刻のないよう健康管理に留意して下さい。欠席・遅刻時は必ず連絡して下さい。					
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験 80 点、レポート試験 20 点で評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。					
教 科 書 (購入必須)	公衆衛生看護学 第2版 (中央法規)					
参 考 書 (購入任意)						

科 目 名	地域看護活動論Ⅱ		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	担当教員は保健所または市町村での保健師実務経験を有している。この科目では地域住民を対象とした看護実践に必要な基本技術について学習する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域で暮らす人々を対象とした看護技術について理解できる。</li> <li>・ 健康相談・健康教育に必要な技術や態度について説明できる。</li> </ul>					
授業の概要	地域看護活動のうち、集団への健康教育および個人・家族への健康相談や問診・面談等の技術について演習を通して学習する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 地域で暮らす人々を対象とした看護活動</li> <li>2 健康教育について</li> <li>3 演習：健康教育 先輩によるデモンストレーション</li> <li>4 演習：健康教育① グループ分けとテーマ選定</li> <li>5 演習：健康教育② テーマ別基本学習 情報収集</li> <li>6 演習：健康教育③ テーマ別基本学習 媒体と原稿の作成</li> <li>7 演習：健康教育④ 報告会準備</li> <li>8 健康教育報告会 テーマ別学習の共有</li> <li>9 健康相談・問診について</li> <li>10 演習：健康相談・問診① グループ分けとテーマ選定</li> <li>11 演習：健康相談・問診② テーマ別基本学習 情報収集</li> <li>12 演習：健康相談・問診③ テーマ別基本学習 原稿作成</li> <li>13 演習：健康相談・問診④ 報告会準備</li> <li>14 健康相談・問診報告会 テーマ別学習の共有</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	予習復習としてグループ演習では講義時間以外にも教員に個別指導を受けること。			45分	
授業の留意点	欠席や遅刻のないよう健康管理に留意して下さい。欠席・遅刻時は必ず連絡をして下さい。					
学生に対する評価	筆記試験 80点・レポート試験 20点で評価する。いずれも6割以上の評価を必要とする。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	在宅看護活動論 I		担当教員名	伊藤 亜希子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師および保健師として実務経験を持つ教員が、在宅看護活動に関する具体的な支援方法や技術、疾病者に対するセルフケアの指導、家族ケアなど在宅看護学の基本的な方法論について指導する科目					
学 習 到 達 目 標	<p>1. 在宅療養者とその家族の生活について理解できる</p> <p>2. 在宅療養者とその家族に必要な生活援助を考えることができる</p> <p>3. 在宅看護に必要な生活援助技術を習得できる</p> <p>4. 対象別在宅療養者の看護について理解できる</p>					
授 業 の 概 要	訪問看護の対象と基盤となる概念をもとに、在宅療養者の生活を支える看護技術を学ぶ。また、在宅看護の日常生活援助の技法について演習で取り組み在宅看護の実践能力を培う。さらに、在宅における医療管理と医療依存度が高い療養者への看護について学びを深める。					
授 業 の 計 画	<p>1 在宅看護とは</p> <p>2 在宅看護援助の対象と基盤となる概念</p> <p>3 在宅看護援助の対象と基盤となる概念</p> <p>4 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>5 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>6 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>7 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>8 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>9 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>10 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>11 在宅療養生活を支える看護</p> <p>12 在宅における医療管理と看護</p> <p>13 在宅における医療依存度が高い方への看護 1</p> <p>14 在宅における医療依存度が高い方への看護 2</p> <p>15 在宅療養生活を支える看護</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義に関する内容について、主に教科書を用いて予習を行い講義に臨むこと。			25分以上	
	復習	講義後は、教科書およびレジュメで復習を行い、知識を定着させていくこと。			20分以上	
授 業 の 留 意 点	授業は、講義、グループワーク、ロールプレイを行います。積極的に自分の考えや意見を述べること。授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。					
学 生 に 対 す る 評 価	試験 90 点 演習・レポート 10 点					
教 科 書 (購入必須)	河野あゆみ編 新体系 看護学全書『地域・在宅看護論』 メヂカルフレンド社 石垣和子上野まり編 看護学テキスト 『在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして』 南江堂					
参 考 書 (購入任意)	押川眞喜子監修「写真でわかる訪問看護」 インターメディカ					

科 目 名	在宅看護活動論Ⅱ		担当教員名	伊藤 亜希子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師および保健師として実務経験を持つ教員が、在宅看護活動を展開するために、疾病者に対するセルフケアの指導、家族ケアなど在宅看護学の基本的な方法論について指導する科目					
学習到達目標	1. 小児や終末期、医療処置等が必要な療養者・家族への支援を理解する 2. 在宅療養における口腔ケアの必要性を理解し支援方法の実際を学ぶ 3. 地域包括ケアシステムにおける在宅ケアを支える他職種・他機関の役割や連携・協働について考えることができる 4. 在宅における看護過程を理解する					
授業の概要	在宅療養者やその家族の生活および健康上の課題は多様であり、その支援にも様々な展開がある。その中で、在宅療養において医療処置等の必要な在宅療養者について理解し、その対象に応じた在宅看護活動の展開について学ぶと共に、在宅看護における看護過程の展開を考え必要な看護支援について考える。 また、地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携や協働について、演習を通して実践力を養う。					
授業の計画	1 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者への看護 2 在宅療養者への様々な支援 1 他職種の役割と支援 知識編 3 在宅療養者への様々な支援 2 技術編 4 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割と機能1 5 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割と機能2 6 地域包括ケアシステムにおける多職種や多機関の役割と機能3 7 在宅看護における看護過程 8 在宅看護における看護過程の展開1 演習 9 在宅看護における看護過程の展開2 演習 10 在宅看護における看護過程の展開3 演習 11 在宅看護における看護過程の展開4 演習 12 在宅看護における看護過程の展開5 演習 13 在宅看護における看護過程 発表 14 在宅看護における看護過程の展開5 15 在宅看護における看護過程の必要性と評価 まとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義に関する内容について、主に教科書を用いて予習を行い講義に臨むこと。			25分以上	
	復習	講義後は、教科書およびレジュメで復習を行い、知識を定着させていくこと。			20分以上	
授業の留意点	在宅看護は各看護領域と関連が深く応用看護学領域とされています。これまでに学習した看護の基本をベースに在宅看護の展開を考えて取り組むこと。 また、授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。					
学生に対する評価	試験 80 点、演習の取り組みに関する記録 20 点合計 100 点中 60 点以上の者について、単位を認定する。					
教科書（購入必須）	河野あゆみ編集：新体系看護学全書「地域・在宅看護論」メヂカルフレンド社 石垣和子他編集：看護学テキスト 在宅看護論自分らしい生活の継続をめざして 南江堂					
参考書（購入任意）	河原加代子著者：系統看護学講座統合分野『在宅看護論』医学書院					



科 目 名	成人看護学概論		担当教員名	長谷部 佳子・南山 祥子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医療の実践、および実践に必要な知識について指導する科目					
学習到達目標	個人としての成人期の身体的・精神的・社会的特徴、および集団としての国民衛生の動向について理解を深める。これらの知識と諸理論を活用しながら、成人を対象とした看護におけるアセスメント方法を習得する。					
授業の概要	ライフサイクルにおける成人の位置づけと、対象者を取り巻く生活環境、社会環境、保健医療情勢、および看護の礎となる概念や理論について学ぶ。グループワークなどの演習を通じて、学んだ知識を活かしたアセスメント方法を習得する。					
授業の計画	1 成人看護学の位置づけと特徴、成人期にある人の特徴 2 成人の生活と健康問題 3 保健・医療・福祉システムの概要 4 保健・医療・福祉システムの連携 5 成人保健の動向（人口静態、人口動態） 6 成人保健の動向（保健増進対策、感染症対策） 7 成人看護学で用いる概念と理論①ニード論、ケアリング・アンドラゴジー、エンパワメント 8 成人看護学で用いる概念と理論②自己効力理論、危機理論、ストレス理論、セルフケア 9 成人看護学で用いる概念と理論③ロイの適応モデル、死の受容理論、病みの軌跡 10 先進医療と看護 11 リハビリテーションと看護 12 老年期に向かう過程での身体機能の変調 13 終末期医療 14 患者と家族への教育支援 15 多様なケア環境とチーム医療、看護における倫理および法的責任					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章に関連する教科書を読み込んでおく。			30分	
	復習	①講義内容を振り返りノートにまとめる。 ②レポート作成に取り組む。			150分	
授業の留意点	成人期の対象者を看護する際には、対象者を取り巻く家族環境や社会・医療情勢など背景要因の分析が欠かせません。日頃から新聞などに目を通すとともに、両親や祖父母などの生活行動に高い関心を寄せると、講義内容の理解が深まります。					
学生に対する評価	定期試験 70点、グループワーク/レポート 30点					
教科書（購入必須）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論, 医学書院 成人看護学概論 第3版, ヌーヴェルヒロカワ 厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向, 厚生労働統計協会					
参考書（購入任意）						

科 目 名	成人看護活動論 I		担当教員名	長谷部 佳子・中谷 美紀子	
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>講義・演習を担当する教員は、臨床経験が豊富で特に急性期治療に関する見識が高い。そのため、講義・演習は周手術期における看護実践を中心に系統的に組み立てていく予定である。</p>				
学習到達目標	<p>この講義科目では、周手術期を中心とした急性期から回復期までの過程における対象者理解と看護の役割、援助の方法について学ぶ。</p> <p>具体的には、手術療法および集中治療や検査にまつわる看護技術を理解するとともに、周手術期における対象者の健康問題を解決するための看護過程の展開方法について実践力を養うことを目標に学ぶ。</p>				
授業の概要	<p>この科目は演習科目であるため、講義と演習を組み合わせながら進めていく。周手術期などでの急性期治療や検査に関する総論を学びながら、各論としての技術・観察方法の実際を演習で体験し、成人看護学概論や臨床治療学で得た知識との統合を図れるように学んでいく。そして、成人看護学活動論 I での学びを、実践的に成人看護学実習 I に活かせるように学習を進める。</p>				
授業の計画	<p>1 今日の外科看護の特徴と課題、外科患者の病態の基礎</p> <p>2 外科的患者の病態の基礎、手術侵襲と生体反応</p> <p>3 外科的治療を支える分野①（麻酔方法、手術体位）</p> <p>4 外科的治療を支える分野②（体液・栄養管理、輸血等）</p> <p>5 外科的治療の実際（低侵襲手術）</p> <p>6 外科的治療の実際（術後合併症の予防のための看護）</p> <p>7 術前／検査前の看護 総論</p> <p>8 術後／検査後の看護 総論</p> <p>9 看護過程①（情報の分析）【演習】</p> <p>10 看護過程②（看護問題の抽出）【演習】</p> <p>11 看護過程③（看護計画の作成）【演習】</p> <p>12 看護過程④（看護計画の評価・修正）【演習】</p> <p>13 手術／検査を受ける対象者への看護①（輸液管理）</p> <p>14 手術／検査を受ける対象者への看護②（各種ドレーン管理）</p> <p>15 手術／検査を受ける対象者への看護③（心電図モニター）</p>	<p>16 手術／検査を受ける対象者への看護④（全身の観察）</p> <p>17 手術／検査を受ける対象者への看護⑤（全身の観察）</p> <p>18 手術／検査を受ける対象者への看護⑥（全身の観察）</p> <p>19 手術／検査を受ける対象者への看護⑦（輸液管理の実際）</p> <p>20 手術／検査を受ける対象者への看護⑧（輸液管理の実際）</p> <p>21 手術／検査を受ける対象者への看護⑨（清潔ケアの実際）</p> <p>22 手術／検査を受ける対象者への看護⑩（清潔ケアの実際）</p> <p>23 手術／検査を受ける対象者への看護⑪（栄養管理の実際）</p> <p>24 手術／検査を受ける対象者への看護⑫（栄養管理の実際）</p> <p>25 手術／検査を受ける対象者への看護⑬（胸腔ドレナージおよび低圧持続吸引装置の取り扱い）</p> <p>26 手術／検査を受ける対象者への看護⑭（創部のケア、ストーマパウチ交換）</p> <p>27 手術／検査を受ける対象者への看護⑮（創部のケア、ストーマパウチ交換）</p> <p>28 手術／検査を受ける対象者への看護⑯（創部のケア、ストーマパウチ交換）</p> <p>29 手術中の看護①（手洗い、ガウンテクニック、滅菌手袋装着、等）</p> <p>30 手術中の看護②（手洗い、ガウンテクニック、滅菌手袋装着、等）</p>			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各講義に該当する教科書のページを読み、質問事項などをまとめておく。			90分
	復習	再度教科書を読み、講義内容に追記をしながらノートにまとめる。			120分
授業の留意点	<p>すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学 I）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくことが望ましい。また、本授業の際には指定された教科書 2冊を両方とも持参して、参加すること。</p>				
学生に対する評価	レポート：30点、講義・演習の受講態度：10点、定期試験：60点				
教科書（購入必須）	<p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院</p> <p>新訂版 看護技術ベーシックス 第2版、サイオ出版</p> <p>今日の治療薬 南江堂</p>				
参考書（購入任意）	<p>（臨床治療学 I で購入済）</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器、医学書院</p>				

科 目 名	成人看護活動論Ⅱ		担当教員名	南山 祥子・中谷 美紀子																
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習															
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件																
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>																			
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目																			
学習到達目標	慢性的な健康障害をもつ人々とその家族の特徴を捉え、その人らしく生活するための自己管理や生活の再構築にむけた援助方法を理解することができる。さらに、ライフサイクル上の背景をふまえた看護過程の展開について理解することができる。																			
授業の概要	慢性的な身体機能障害を持ちながら生活する人々とその家族が、症状をコントロールし、障害と生活の制限を受け入れながら健康的な生活を営むことを支える看護の役割、援助の方法について学ぶ。また、セルフケアを支援する観点から教育的アプローチや QOL を重視した支援についての知識と援助方法について学習する。																			
授業の計画	1 オリエンテーション、慢性疾患をもつ人と家族の特徴	2 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開①	3-4 呼吸器系の障害をもつ人への看護①—気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患など	5-6 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開②【演習】	7-8 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護①—糖尿病	9 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護②—糖尿病	10 消化器系の障害をもつ人への看護—慢性肝炎、肝硬変	11-12 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開③【演習】	13-14 循環器系の障害をもつ人への看護—慢性心不全	15-16 脳・神経系の障害をもつ人への看護—脳梗塞、筋委縮性側索硬化症	17 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開④【演習】	18 慢性腎臓病患者への看護、透析療法を受ける患者の看護	19 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑤【演習】	20 がん患者への看護①—がん患者の特徴、放射線患者の看護	21-22 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑥【演習】	23-24 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護③【演習】自己血糖測定	25-26 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護④【演習】退院指導（ロールプレイング）	27-28 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑦【演習】	29 がん患者への看護②—緩和ケアについて～認定看護師	30 がん患者への看護③—化学療法を受ける患者の看護～認定看護師
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章に関連する教科書を読み込んでおく。				20 分														
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめ、看護過程も随時追加修正する。				70 分														
授業の留意点	すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくことが望ましい。看護過程は、講義で説明を受けた内容をもとに主体的に考えすすめていくことを求める。																			
学生に対する評価	看護過程 30 点、レポート 10 点、定期試験 60 点																			
教科書（購入必須）	鈴木久美、簗持知恵子、佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改定第 3 版 南江堂 江川 隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 [第 6 版]、ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 がん看護学、医学書院																			
参考書（購入任意）	（臨床治療学Ⅰで購入済） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳神経、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院																			

科 目 名	老年看護学概論		担当教員名	高儀 郁美		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の意義と役割、老年期を生きる方の特徴とともに老年看護の実践に必要な知識について指導する。					
学習到達目標	<p>1. 老年期の発達とその課題について身体・心理・社会的側面から理解し、高齢者を全人的に理解する基礎を育むことができる。</p> <p>2. 老年期を生きる人の生活と健康の特徴を理解できる。</p> <p>3. 老年期を生きる人とその家族が地域で生活するためのケアシステムについて理解できる。</p> <p>4. 老年看護における倫理的課題について理解できる。</p>					
授業の概要	老年期の自我発達を基盤に置いた上で、高齢者を環境との相互作用する存在と位置づけ、老年期を生きる人とその家族の多様性・個別性を理解するとともに、病を抱えながらも「健やかに老い、安らかに永眠する」ことを目指す老年看護の理念、高齢者を取り巻く社会について修得する。講義、教材、体験学習を通して、自分とは異なる文化・生活背景を持つ人々への理解を深め、皆さん自身の高齢者観をよりいっそう豊かに育むことを期待する。					
授業の計画	<p>1 老年看護学の歩み、老年看護の意義と役割</p> <p>2 高齢者の理解（ライフステージとしての老年期／加齢に伴う生理的・身体的変化の特徴）</p> <p>3 統計からみた高齢者の健康と暮らし、高齢者の健康課題</p> <p>4 高齢者の保健医療・福祉の変遷（高齢者を支える制度、介護保険制度、地域包括ケア）</p> <p>5 高齢者を支えるための連携・協働</p> <p>6 老年看護における看護理論、生活機能評価に活用するスケール</p> <p>7～8 高齢者疑似体験</p> <p>9 高齢者の生活機能を支える看護</p> <p>10 健康逸脱からの回復を促す看護①症候アセスメント、身体疾患のある高齢者</p> <p>11 健康逸脱からの回復を促す看護②認知機能障害のある高齢者</p> <p>12 治療を必要とする高齢者の看護（検査、薬物療法、入院治療を受ける高齢者）</p> <p>13 高齢者の権利擁護</p> <p>14 老年期のヘルスプロモーション、高齢者と医療安全</p> <p>15 最終段階にある高齢者の看護、老年看護学概論まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	講義に関連する教科書の章を読み込む。			90分	
	復習	講義内容を振り返り、ノートにまとめる。また、講義内容に関連した書籍を読む。			90分	
授業の留意点	<p>高齢者を理解するために、以下の2つのレポート課題があります。</p> <p>課題1：高齢者疑似体験（体験後のレポート：加齢に伴う身体的変化が、生活にどのような不自由さとなっているかを考察する）</p> <p>課題2：高齢者の権利擁護に関するレポート</p>					
学生に対する評価	レポート、定期試験により評価する。（レポート：20%、出席：20%、定期試験：60%）					
教科書（購入必須）	<p>北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版、医学書院、2018</p> <p>鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 第5版、医学書院、2018</p> <p>厚生労働統計協会：厚生指針増刊 国民衛生の動向（購入済みのもので可）</p>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	老年看護活動論 I		担当教員名	高儀 郁美・澤田 知里・上原 主義		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方や、高齢者に多い疾患とその看護等を、実践を踏まえながら指導する。					
学習到達目標	<p>1. 加齢に伴う生理的老化や老年期に特徴的な疾病に関する理解を深め、様々な健康状況下にある高齢者への基本的看護について学びを深めることができる。</p> <p>2. 健康障害や生活機能障害を有する高齢者に対して、全人的・包括的にアセスメント・評価するための基本的知識を理解することができる。</p> <p>3. 高齢者の生活機能を維持・向上するための看護支援方法について理解することができる。</p> <p>4. 演習を通して、高齢者看護に必要なケア技術を習得することができる。</p>					
授業の概要	平均寿命の延伸に伴い健康寿命が延びている一方で、平均寿命と健康寿命の差（日常生活に制限のある不健康な期間）は男性では約9年、女性では約12年にも及んでいる。「長く生きる」だけではなく、「より良く生きる」ことを前提に、加齢変化や老年期に特有な疾患と生活機能障害についての理解を深め、疾患や障害を抱えながらも豊かで多様な高齢者の生き方を支援するための、高齢者の自立・自律・尊厳に配慮した「生活機能を整える看護」について学習を行っていく。					
授業の計画	<p>1 授業オリエンテーション・健康障害をもつ高齢者の看護 (1) 認知症の歴史・中核症状とBPSD</p> <p>2 健康障害をもつ高齢者の看護 (2) 認知症の原因疾患</p> <p>3 健康障害をもつ高齢者の看護 (3) 認知症の人の思いと関わり方 (DVD 視聴・グループディスカッション)</p> <p>4 健康障害をもつ高齢者の看護 (4) 認知症ケア</p> <p>5 健康障害をもつ高齢者の看護 (排泄) /腎・泌尿器・消化器系の疾患</p> <p>6 健康障害をもつ高齢者の看護 (コミュニケーション) /感覚器の疾患</p> <p>7 健康障害をもつ高齢者の看護 (身じたく) /皮膚の疾患</p> <p>8 健康障害をもつ高齢者の看護 (食事) /口腔機能低下症・誤嚥性肺炎</p> <p>9～10 高齢者の生活機能を整える看護 (睡眠・休息) /マッサージケア演習</p> <p>11～12 高齢者の生活機能を整える看護 (活動) /運動器の疾患 (フレイル予防演習)</p> <p>13 治療・療養の場における高齢者の看護 (1) 急性期治療を受ける高齢者の看護</p> <p>14 治療・療養の場における高齢者の看護 (2) 高齢者介護施設の特徴と看護の役割</p> <p>15 老年看護活動論 I まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	講義・演習に関連する教科書の章を読み込む。			合計 45分	
	復習	講義・演習内容を振り返り、ノートにまとめる。また、講義・演習内容に関連した書籍を読む。				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の関連箇所について事前に教科書を読み、老年看護学概論で学んだ内容も復習しておきましょう。</li> <li>・看護技術演習については、事前課題・事後課題があります。</li> <li>・グループディスカッションは積極的に参加し、自己の考えを深めましょう。</li> <li>・積極的な自己学習への取り組みや日々の復習がなければ身につくものも身につけません。ぜひ主体的な学習姿勢を望みます。</li> </ul>					
学生に対する評価	課題提出・受講態度：20点、定期試験：80点で評価する。					
教科書 (購入必須)	北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版、医学書院、2018（老年看護学概論で購入済み） 鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 第5版、医学書院、2018（老年看護学概論で購入済み）					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	老年看護活動論Ⅱ		担当教員名	高儀 郁美・澤田 知里・上原 主義	
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、看護の展開方法、ケアの方法を、実践を踏まえながら指導する。				
学習到達目標	1. 生活機能が低下しやすい高齢者に対して、持てる力を引き出し、日々の生活がより豊かになれるよう、目標志向で看護過程を展開することができる。 2. 高齢者の疾病や加齢変化に基づいた病態生理学に関する理解を深め、様々な健康状況下にある高齢者の生活行動や家族を支えるための安全・自立・倫理的配慮を考えた援助知識や技術について理解が深まる。				
授業の概要	目標志向型思考である老年看護過程の考え方について学び、紙面事例にて看護展開を行う。また、老年看護技術の目的・方法・倫理的配慮、持てる力を活かした援助の工夫のあり方について理解を深め、高齢者の生活がよりいきいきとなる生活支援について学ぶ。高齢者の生活機能を整える看護として重要な、日常生活行動に関する援助技術について、演習を通して実践していく。				
授業の計画	1 授業オリエンテーション・老年看護過程の展開方法について① 2 老年看護過程の展開方法について②／「覚醒・活動」「休息・睡眠」「食事」について 3 老年看護過程の展開方法について③／「排泄」「身じたく」「コミュニケーション」について 4 生活機能を整える日常生活援助技術 /活動への援助（講義） 5～6 生活機能を整える日常生活援助技術 /活動への援助（演習） 7～8 生活機能を整える日常生活援助技術 /コミュニケーションへの援助（演習） 9～10 生活機能を整える日常生活援助技術 /排泄への援助（講義・演習） 11～13 老年看護過程の展開方法について④／グループワーク 14 老年看護過程の展開方法について⑤／発表 15 老年看護活動論Ⅱまとめ				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	講義・演習に関連する教科書の章を読み込む。			合計 45分
	復習	講義・演習内容を振り返り、ノートにまとめる。また、講義・演習内容に関連した書籍を読む。			
授業の留意点	・老年看護過程と老年看護技術演習を中心に展開していきますが、それぞれにおいて課題の提出があります。積極的な自己学習への取り組みや日々の復習がなければ身につくものも身につけません。ぜひ主体的な学習姿勢を望みます。わからないことは放置せずいつでも質問や相談にきてください。 ・何らかの事情で演習を欠席する際は、演習開始前までに担当教員まで連絡をお願いいたします。				
学生に対する評価	演習への取り組み（受講態度・課題提出）：60点、看護過程：40点で評価する。				
教科書（購入必須）	山田律子・内ヶ島伸也（編）：生活機能からみた老年看護過程＋病態生活関連図 第4版、医学書院、2020				
参考書（購入任意）	亀井智子（編）：根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版、医学書院、2020				

科 目 名	小児看護学概論		担当教員名	小児看護学教員		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもや家族を取り巻く社会の現状や子どもの成長発達段階における看護について教授する。さらに、子どもの利益にかなう看護について考察し、小児看護の理念と責務について指導する。					
学習到達目標	<p>1. 小児看護の対象である小児と家族の存在を環境との相互作用から理解する</p> <p>2. 母子保健の動向と小児の健康を支える社会資源、制度について理解する</p> <p>3. 小児看護を支える法的根拠から小児医療における子どもの権利について理解する</p> <p>4. 成長・発達の概念および小児各期の発達の特徴とその評価方法を理解する</p> <p>5. 現代の小児と家族の健康問題について社会の変化から捉え小児看護の役割・責務を理解する</p>					
授業の概要	現代の子どもや家族を取り巻く社会には、生活習慣病の増加、心の問題、育児不安、児童虐待など、様々な健康問題が顕在化している。本授業では、子どもや家族を取り巻く社会の現状を理解しながら、新生児・乳児・幼児・学童・思春期の各発達段階における成長・発達と看護について学ぶ。さらに、子どもの基本的権利と小児看護倫理から、子どもの利益にかなう看護とは何か、小児看護の理念と責務について共に考えていく。また、母子に関する様々な保健統計から小児保健の動向を知り、現代社会の健康問題を考察して、子どもの健康の保持増進、疾病の予防について学修していく。					
授業の計画	<p>1 小児看護とは 小児看護の対象、小児の範囲と区分、小児の成長発達を支える家族と発達</p> <p>2 小児看護の歴史と意義、小児看護の課題、小児を取り巻く社会</p> <p>3 子どもの権利と看護、子どもの最善の利益にかなう医療と看護 小児看護と倫理的配慮</p> <p>4 小児看護と法律・施策、子どもを取り巻く社会環境、母子保健施策、小児に関する法律など</p> <p>5 子どもの成長発達</p> <p>6 新生児・乳児期の子どもの成長発達1</p> <p>7 新生児・乳児期の子どもの成長発達2</p> <p>8 幼児期の子どもの成長発達1</p> <p>9 幼児期の子どもの成長発達2</p> <p>10 幼児期の子どもの成長発達3</p> <p>11 学童期の子どもの成長発達1</p> <p>12 学童期の子どもの成長発達2</p> <p>13 思春期の子どもの成長発達</p> <p>14 発育の評価</p> <p>15 小児看護学概論 まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	毎時、次回の授業の予告を行う。そこに関係する教科書の章または関連文献を読み込んでくる。			90分	
	復習	本時の授業目標を毎回提示する。その目標に沿って資料等から振り返りまとめる。			90分	
授業の留意点	積極的な参加態度を期待します。日ごろ、新聞・TV・映画・書籍などで子どもの生活や健康問題、子どもの社会的問題などに目を向けることで学修が深まります。また自身の成長過程や家族との関係性などを想起することで、より身近な学修となります。					
学生に対する評価	定期試験：学習内容の理解度を評価する（70点） 小テスト：成長・発達の理解（各10点×3）					
教科書（購入必須）	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院					
参考書（購入任意）	必要に応じて随時紹介する。					

科 目 名	小児看護活動論 I		担当教員名	小児看護学教員		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもの健康障害による影響、病時期に必要な看護、外来や在宅など場の違いにおける小児と家族への支援について講義を通して指導する					
学習到達目標	<p>1. 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響について理解する</p> <p>2. 急性期、周手術期、慢性期、終末期の子どもと家族の看護について理解する</p> <p>3. 外来や在宅など場の違いによる看護について理解する</p> <p>4. 障がいのある子どもと家族の看護について理解する</p>					
授業の概要	健康問題や入院が小児と家族に与える影響を理解して、安全で安楽な生活を送ることができるようにケアしていくことが小児看護の中心である。本講義では、健康障害や入院そのものが小児や家族に与える影響、小児の病時期の違いによる必要とされるケア、外来や在宅などの看護の場の違いにおける小児と家族の状況とケアについて学修していく。					
授業の計画	<p>1 病気・障害をもつ子どもと家族の看護</p> <p>2 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護</p> <p>3 症状を示す子どもの看護（1）</p> <p>4 症状を示す子どもの看護（2）</p> <p>5 検査・処置を受ける子どもの看護</p> <p>6 検査・処置を受ける子どもの看護</p> <p>7 急性期にある子どもと家族の看護</p> <p>8 周手術期のある子どもと家族の看護</p> <p>9 慢性期にある子どもと家族の看護（1）</p> <p>10 慢性期にある子どもと家族の看護（2）</p> <p>11 在宅療養を行う子どもと家族の看護</p> <p>12 発達に凸凹のある子どもと家族の看護</p> <p>13 子どもの虐待と看護</p> <p>14 終末期にある子どもと家族の看護（1）</p> <p>15 終末期にある小児と家族の看護（2）</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回の授業について提示する。関連する教科書の章・文献を読み込んでくる。			90分	
	復習	本時の目標に沿って、資料などを振り返りまとめる。			90分	
授業の留意点	講義や演習、自己学習を組み合わせた授業展開をしていく。グループ学習もとり入れるため積極的な参加態度を期待する。小児の入院環境、在宅における療養生活などイメージ化できるように視覚教材を取り入れていく。					
学生に対する評価	<p>1. 定期試験 80点</p> <p>2. 課題レポート 20点 講義中に課題を提示する</p>					
教科書（購入必須）	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院					
参考書（購入任意）	子どもの病気の地図帳 講談社					



科 目 名	小児看護活動論Ⅱ		担当教員名	小児看護学教員		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児専門病院や小児病棟で看護師として臨床経験をもつ教員が、小児の看護過程の展開と看護技術について講義と演習を行い実践的な技術を指導する科目					
学習到達目標	<p>1. 小児に関わることの多い疾患や症状を有する事例について、アセスメントし看護問題の明確化、看護計画の立案ができる。</p> <p>2. 小児特有の基本的な看護技術について習得することができる。</p> <p>3. 発達段階を考慮状況に応じたプレパレーションができる。</p>					
授業の概要	既修の小児看護学概論・小児看護活動論Ⅰを基に、健康障害のある小児と家族の看護展開技術、小児に特有な生活援助技術、診療に伴う援助技術について学修する。					
授業の計画	<p>1 小児看護活動論Ⅱガイダンス、小児看護に関連する技術について</p> <p>2 小児と家族の看護過程展開技術1</p> <p>3 小児と家族の看護過程展開技術2</p> <p>4 小児の遊びの意義と実際</p> <p>5 プレパレーションの指導技術、準備</p> <p>6 プレパレーション実際1</p> <p>7 プレパレーション実際2</p> <p>8 小児看護技術（バイタルサイン測定） / 看護過程の展開</p> <p>9 小児看護技術（バイタルサイン測定） / 看護過程の展開</p> <p>10 小児看護技術（身体計測） / 看護過程の展開</p> <p>11 小児看護技術（身体計測） / 看護過程の展開</p> <p>12 小児看護技術（輸液管理） / 看護過程の展開</p> <p>13 小児看護技術（輸液管理） / 看護過程の展開</p> <p>14 小児看護技術（救急救命） / 看護過程の展開</p> <p>15 小児看護活動論Ⅱまとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	技術演習項目の目的・留意点・手順など学習しておく。			30分	
	復習	演習問題を振り返りまとめる。			15分	
授業の留意点	事例の看護過程の展開・プレパレーションの準備と技術演習は、グループ毎交互に行われる。演習は、学習の進行状況により変更する場合がある。					
学生に対する評価	<p>1. 技術演習課題 50点</p> <p>2. 看護過程レポート 40点</p> <p>3. プレパレーションレポート 10点</p>					
教科書（購入必須）	小児看護学 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術（メディカ出版）					
参考書（購入任意）	子どもの病気の地図帳 講談社					

科 目 名	母性看護学概論		担当教員名	加藤 千恵子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、母性看護学の概観を教授する科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生は、母性の概念を、女性の生涯にわたる健康と権利の視点から捉えることができる。</li> <li>・学生は、女性の健康を身体・心理社会・文化的視点から理解することができる。</li> <li>・学生は、母子関連組織・法律、母子保健システムから看護のあり方を考察することができる。</li> <li>・学生は、女性のライフステージ各期の特徴を学び、母性の一生を通じた健康の維持増進、疾病予防のありかたについて考察することができる。</li> <li>・学生は、生命の尊重の意義を確認し自分なりの生命倫理についてを考察することができる。</li> </ul>					
授業の概要	<p>学生が、母性看護学の対象がすべての女性とその家族を含み、対象を取り巻く環境が大きく変化し、少子高齢化、晩婚化、晩産化が進んでいることを理解できるように授業を構成する。また、女性のライフステージの特徴を知り、女性の一生を通じた健康の保持増進と疾病の予防についても学習する。学生が、母性の概念、母子保健の変遷と統計指標、関連法規と施策などから、母子保健の現状と課題について学習できるように教授する。さらに、リプロダクティブヘルス、ライツの観点から周産期に至る思春期からの性教育のあり方や婚前学級、婚活、妊活などの現代社会で生きる若者の実情や医学情報のトピックスを紹介し、学生が、生命倫理や生命尊重について考えを深化させられるように教授する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 母性の中心となる概念</li> <li>2 母性看護実践を支える概念</li> <li>3 リプロダクティブヘルスに関する概念</li> <li>4 リプロダクティブヘルスに関する動向</li> <li>5 リプロダクティブヘルスに関する倫理</li> <li>6 命の大切さを考える DVD 視聴</li> <li>7 子どもと女性の保護に関する法律</li> <li>8 子育て支援に関する制度・施策 児童虐待</li> <li>9 性差医療 DVD 視聴</li> <li>10 生殖に関する生理</li> <li>11 生殖における健康問題と看護</li> <li>12 不妊症</li> <li>13 加齢とホルモン変化</li> <li>14 リプロダクティブヘルスケアー人工妊娠中絶と看護、性暴力を受けた女性に対する看護、喫煙女性の健康と看護</li> <li>15 周産期医療システム、母子保健の国際化 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	リプロダクティブヘルス/ライツの関係する章を読み込む。				90分
	復習	講義内容を振り返りポイントをまとめる。				90分
授業の留意点	<p>授業に参加するにあたり、予習、復習を行うこと。GWには積極的に参加すること。</p> <p>DVDは、欠席した場合も後日必ず視聴しレポートを提出すること。</p>					
学生に対する評価	GWやプレゼンテーション、授業中に課す提出物と授業への参加態度(30点)、試験(70点)を合算して評価する。					
教科書(購入必須)	ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護(メディカ出版)					
参考書(購入任意)	母子保健の主なる統計令和5年度刊行:母子保健事業団、令和5年版厚生労働白書:厚生労働省編、令和5年度版少子化社会対策白書:内閣府編、国民衛生の動向2022/2023:厚生労働統計協会					

科 目 名	母性看護活動論 I		担 当 教 員 名	加藤 千恵子・渡邊 友香		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師・助産師の実務経験のある教員が講義を行う。					
学習到達目標	<p>目的 本講義では、女性のライフサイクルの中で周産期の妊産婦と胎児およびその家族を対象とする。 学生は母性看護学における看護実践能力、周産期医療における問題解決力を高め、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊産婦の主体性を重んじた安全で安楽な出産及び役割獲得への援助に必要な知識と看護技術を習得できる。</li> <li>2. 妊婦・産婦の発達課題の達成や健康の保持増進、健康障害の予防に必要な母子看護の基礎知識を学び展開できる。</li> <li>3. 対象が正常な妊娠、分娩経過をたどるために必要な看護技術を習得できる。</li> </ol> <p>以上の3つの目標を達成するため、以下のA知識、B技術、C態度に関する学習到達目標を挙げる。</p> <p>A 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生は妊娠・分娩の経過に伴って変化する生理的現象や身体的特徴を説明できる。</li> <li>2) 学生は妊娠・分娩の経過に伴って変化する心理社会的特徴を説明できる。</li> <li>3) 学生は胎児の成長発達と健康度の評価、胎児の特徴を説明できる。</li> <li>4) 学生は親になることを支える援助、相談、教育について説明できる。</li> </ol> <p>B. 技術</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生は妊婦の経過を根拠に基づきアセスメントし、記述できる。</li> <li>2) 学生は胎児の経過を根拠に基づきアセスメントし、記述できる。</li> <li>3) 学生はウェルネスの視点から看護問題・看護目標が挙げ、記述できる。</li> <li>4) 学生は個別性のある看護計画を立案し、記述できる。</li> </ol> <p>C. 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生は積極的に学習し、自己の能力の向上に努めることができる。</li> <li>2) 学生は教員の支援を受けながら、多様な学習資源を活用した学習ができる。</li> <li>3) 学生はグループの一員としての自分の役割を遂行し、協力して演習を進めることができる。</li> </ol>					
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生は妊娠・分娩経過の女性および胎児と新生児に必要な知識と看護技術を習得する。</li> <li>1) 学生は妊婦・産婦・胎児・新生児の身体的・心理社会的特徴を学び、健康状態を観察する技術を学ぶ。</li> <li>2) 学生は母子の健康の保持・増進、健康障害の予防および健康障害からの回復を促す日常生活において必要なセルフケアとセルフケアを維持促進するための看護の方法を学ぶ。</li> <li>3) 学生は妊娠期、分娩期の母子事例を活用し、周産期の対象の身体的、心理的、社会的アセスメントの方法を習得し、対象の全体像を統合する。</li> </ol>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠期のアセスメント 1, 妊娠の成立と経過 (妊娠の定義, 妊娠の生理, 胎児の成長と発達)</li> <li>2 妊娠期のアセスメントとケア 1, 妊婦の身体的特徴と妊娠期の変化妊娠各期と保健指導 (健康管理の目的, 妊娠期の日常生活, 栄養管理, 乳房の手当)</li> <li>3 妊娠期のアセスメントとケア 2, 妊婦の心理的特徴と妊娠期の変化</li> <li>4 妊娠各期の胎児の成長と発達</li> <li>5 &lt;演習 1&gt; 妊娠期のケア: 子宮底・腹囲測定, レオポルド触診法, 妊産婦体操, 疑似体験 分娩期のアセスメントとケア (分娩が胎児に与える影響, 胎児の健康状態の把握)</li> <li>6 ハイリスク妊娠と看護 (妊娠悪阻, 胎状奇胎, 妊娠高血圧症候群, 切迫流早産, 前置胎盤, 常位胎盤早期剥離)</li> <li>7 妊婦の健康教育と育児準備サポート, 出産準備教育</li> <li>8 分娩期のアセスメント 1, 分娩の経過 (分娩の定義, 分娩の三要素と分娩機序, 分娩経過) 分娩期にある母子の理解, (分娩のメカニズム, 心理・社会的状況の理解) [分娩の視聴覚教材]</li> <li>9 分娩期のアセスメントとケア 1, (産痛のメカニズムと緩和法, 産婦の心理, 家族への包括的援助)</li> <li>10 分娩期の胎児の健康状態</li> <li>11 分娩期の母体と胎児のための安全安楽を考えたケア</li> <li>12 分娩室における各スタッフの役割分担と衛生管理および物品管理</li> <li>13 &lt;演習 2&gt; 分娩期のケア: 呼吸法, 弛緩法, 産婦の安全・安楽と主体性を育むための看護</li> <li>14 ハイリスク分娩の看護 (微弱陣痛・過強陣痛, 分娩時異常出血, 帝王切開)</li> <li>15 妊産婦の健康管理のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	妊娠期分娩期で関与する章の読み込み。			45 分	
	復習	講義内容を振り返り、ポイントをまとめる。			45 分	
授業の留意点	各単元におけるまとめを作成する。このまとめを母性看護学実習時に持参し、実習に臨むことになるため、ポイントを押さえてわかりやすくまとめる事。 受講に際して、教科書を読むなど予習および復習を行うこと。 授業態度として、講義、演習ともに真摯な姿勢で積極的に臨むこと。					
学生に対する評価	演習の2回の参加は必修で参加なき場合、母性看護学実習には参加できないこととする。 各単元のまとめの課題提出 (15 点)、ミニ模試や各授業の提出物 (15 点) とテスト (70 点) で知識とアセスメント能力について評価する。					
教科書 (購入必須)	(母性看護活動論Ⅱと共通) ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学各論 母性看護学 2 森恵美 (医学書院) ・ナースングラフィカ 母性看護技術 荒木奈緒ら (メディカ出版)					
参考書 (購入任意)	・カラー写真で学ぶ妊産婦褥婦のケア 第二版 櫛引美代子 (医歯薬出版株式会社) ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ 前原 澄子 (編集) (中央法規出版) ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅱ 前原 澄子 (編集) (中央法規出版)					

科 目 名	母性看護活動論Ⅱ		担当教員名	加藤 千恵子・渡邊 友香		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての臨床経験を持つ教員が、産褥期・新生児期の母子の看護を教授する科目					
学習到達目標	1. 学生は、妊娠期・分娩期の既習の知識を基に、産褥期、新生児期にある母子とその家族の身体・心理社会的特性を理解できる。 2. 学生は、産褥・新生児期にある母子への看護援助を行うために必要とされる基礎的知識と技術を習得できる。 3. 学生は、産褥・新生児期の母子関係確立のための援助に必要な知識と技術を習得できる。 4. 学生は、産褥・新生児期における主な異常とその看護を理解できる。					
授業の概要	学生は、母性看護活動論Ⅰで学習した妊娠期・分娩期の援助を踏まえて褥婦および新生児とその家族の特性を理解する。 学生は、産褥期では分娩の影響からの心身の回復と母子関係確立・母親役割獲得へのケアおよび産褥の異常を持つ産婦のケアについて学ぶ。 学生は、新生児については胎外生活への適応と生理的変化、正常からの逸脱時のケアについて学習する。また、母子の健康の保持増進・回復を促すためのセルフケアの方法および逸脱徴候を早期に発見できるための観察方法を習得する。 学生は、母子一対を対象として、母子関係形成のためのケアの重要性を理解し、褥婦・新生児の看護過程では、ウェルネスの視点を取り入れた展開方法を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 正常な産褥の基本的理解：産褥の定義、褥婦の全身の変化、進行性変化、退行性変化、心理・社会的変化</li> <li>2 産褥期のアセスメント：退行性変化、進行性変化、身体の回復状態家族の機能と役割の再編、サポート体制</li> <li>3 褥婦と家族のケア：セルフケアを高めるケア、母乳育児に向けてのケア、育児技術に関わるケア、家族関係再構築へのケア</li> <li>4 褥婦と家族のケア：母子関係確立への援助、母親役割、家族役割関係、産後のメンタルヘルスケア、産後の母子保健施策</li> <li>5 異常産褥の病態と看護：子宮復古不全、産褥感染症、精神障害、母子分離・死産</li> <li>6 &lt;演習1&gt;産褥期のケア：子宮復古状態の観察とケア 乳房観察とケア、産褥体操</li> <li>7 正常新生児の基本的理解：新生児の定義、胎外生活への適応過程、新生児の生理的変化、成熟度の評価</li> <li>8 新生児のアセスメント：出生直後の状、体格、哺乳状態、栄養状態、親子関係、家族関係</li> <li>9 新生児のケア：看護の原則、保育環境、出生直後の看護、日常生活への援助、栄養</li> <li>10 異常新生児の病態と看護：新生児仮死、分娩障害、高ビリルビン血症、低出生体重児、ディベロップメントケア</li> <li>11 &lt;演習2&gt;新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>12 &lt;演習2&gt;新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>13 &lt;演習2&gt;新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>14 &lt;演習2&gt;新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>15 褥婦・新生児の看護過程、学習ノートの提出 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各省の内容を読み込む。			45分	
	復習	授業を振り返り、ポイントのまとめを行う。			45分	
授業の留意点	講義は、テキスト・資料を読んで予習・復習をすること。 演習は講義内容を復習しテキストにて技術手順を確認して臨むこと。 看護過程は参考書を利用しウェルネス思考を取り入れて展開すること。 配布する学習ノート（産褥・新生時期）は教科書・参考書を利用して完成させること。					
学生に対する評価	ミニレポート 15点 課題；看護過程 15点 試験 70点					
教科書（購入必須）	（母性看護活動論Ⅰと共通） ・系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 森恵美（医学書院） ・ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術（メディカ出版） ・ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 太田操編（医歯薬出版株式会社）					
参考書（購入任意）	・病気がみえる VOL10 産科 第3版（メディックメディア） ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ 前原澄子（中央法規出版）					

科 目 名	精神看護学概論		担当教員名	結城 佳子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師等として広く心の健康にかかわるケアを実践した経験を有する教員が、心の健康とそのケアに関する基本的知識と考え方を指導する科目					
学習到達目標	<p>精神健康において支援を必要とする人を対象とする看護についての基本的考え方を理解し、精神科医療および精神保健福祉の課題に問題意識を持って取り組む姿勢を修得することを目標とする。</p> <p>1. 人の発達段階やさまざまな生活の場における精神健康の様相について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p> <p>2. さまざまな社会的背景と精神健康との関連について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p> <p>3. 精神健康において支援を必要とする人とそれを取り巻く環境について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p>					
授業の概要	<p>1. 心とは何か、心の健康とは何か、その基本的考え方を学ぶ。</p> <p>2. 心に関する諸理論、ライフサイクルと生活の場における心の健康について学ぶ。</p> <p>3. 精神保健福祉活動の実際とそれを支える法・制度のあり方、精神保健福祉の歴史を学ぶ。</p> <p>4. 精神科医療および精神保健福祉における人権と倫理について学ぶ。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション/心とは</li> <li>2 健康な心とは</li> <li>3 心を感じる/心にふれる</li> <li>4 生活の場と精神保健① 家庭</li> <li>5 生活の場と精神保健② 学校</li> <li>6 生活の場と精神保健③ 職場</li> <li>7 生涯発達と精神保健① 乳児期～思春期・青年期</li> <li>8 生涯発達と精神保健② 成人前期～老年期</li> <li>9 社会と精神保健① ストレス</li> <li>10 社会と精神保健② 危機</li> <li>11 社会と精神保健③ 自殺</li> <li>12 精神障害と精神保健① 精神疾患と精神障害/統合失調症</li> <li>13 精神障害と精神保健② 精神保健福祉の変遷と法/人権擁護</li> <li>14 精神障害と精神保健③ 地域精神保健福祉活動</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて調べ、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を1編以上読む。			90分	
授業の留意点	少人数でのグループワークやディスカッションを多く取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。精神科医療および精神保健福祉を取り巻く社会の動向にも関心を持ち、自ら考える姿勢が望ましい。					
学生に対する評価	<p>レポート課題：中間、最終各50点、計100点</p> <p>以下の5段階で評価する。</p> <p>S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下</p> <p>C以上の評価について単位を認定する。D評価の者は課題再提出とし、再提出は素点69点までとする。</p>					
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。					
参考書（購入任意）	参考文献は、必要時指示する。					

科 目 名	精神看護活動論 I		担当教員名	結城 佳子・中島 泰葉		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、精神疾患・精神障害に関する基本的知識と治療・看護・リハビリテーションについて指導する科目					
学習到達目標	精神疾患の病態や精神障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、支援を必要としている人とその家族に対する看護援助方法について基本的考え方を習得することを目標とする。 1. 主要な精神疾患の病態及び診断、治療について、要点を述べることができる。 2. 主要な精神症状のアセスメントについて、要点を述べることができる。 3. 主要な精神疾患及び精神症状に対する看護について、要点を述べるができる。					
授業の概要	1. 主要な精神疾患等の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響を学ぶ。 2. 主要な精神疾患等の治療およびリハビリテーションと看護援助を学ぶ。					
授業の計画	1 オリエンテーション/気分障害① 概念と病態 2 気分障害② 治療とリハビリテーション 3 気分障害③ 看護 4 ストレス関連障害群（PTSD 等） 疾患と治療、看護 5 不安障害群/強迫性障害群 疾患と治療、看護 6 解離性障害群/身体表現性障害群 疾患と治療、看護 7 摂食障害 疾患と治療、看護 8 物質関連障害群① 概念と病態 9 物質関連障害群② アルコール使用障害 10 物質関連障害群③ 治療と看護 11 パーソナリティ障害 疾患と治療 12 自閉症スペクトラム障害 13 認知症① 主な認知症とその特徴 14 認知症② 周辺症状とせん妄 15 認知症③ 治療と看護					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマとなる精神疾患等について調べ、疑問点等を明らかにする。			90 分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を 1 編以上読む。			90 分	
授業の留意点	具体的な事例等を通して、精神疾患・精神障害を適切に理解するとともに、精神疾患・精神障害を持つ人の生きる困難さや苦悩を共に感じ、看護援助の展開について主体的に考えることを期待する。					
学生に対する評価	筆記試験により評価する。 以下の 5 段階で評価する。 S：素点 90 点以上、A：素点 80～89 点、B：素点 70～79 点、C：素点 60～69 点、D：素点 59 点以下 C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者は再試験とし、再試験は素点 69 点までとする。					
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。					
参考書（購入任意）	必要時指示する。					

科 目 名	精神看護活動論Ⅱ		担当教員名	結城 佳子・中島 泰葉		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、関連する法・制度、安全管理、人権と倫理および質の高い看護実践について指導する科目					
学習到達目標	<p>精神疾患の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、精神健康上の問題に直面している人とその家族に対する看護援助方法と看護過程の展開について基本的考え方を習得する。また、精神科領域における治療・看護について理解し、対象者の安全を守り、人権を擁護する看護のあり方を学ぶ。</p> <p>1. 統合失調症の病態や後遺障害、診断や治療及び看護について、要点を述べることができる。</p> <p>2. 精神科領域における治療やリハビリテーションについて、要点を述べることができる。</p> <p>3. 精神科領域における治療等に関連する法や制度について、要点を述べることができる。</p> <p>4. 精神科領域において患者を守る医療安全、危機管理及び人権と倫理について、要点を述べることができる。</p> <p>5. 精神科領域における看護実践について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p>					
授業の概要	<p>1. 統合失調症や認知症について疾患・障害のありようと生活に与える影響、治療や看護について学ぶ。</p> <p>2. 精神科領域に特有の治療およびリハビリテーションと看護について学ぶ。</p> <p>3. 精神科領域における安全管理、法・制度、人権と倫理について学ぶ。</p> <p>4. 精神科看護の実践について、ゲストスピーカーによる講義から学ぶ。</p>					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション/統合失調症① 概念と病態</p> <p>2 統合失調症② 急性期～消耗期</p> <p>3 統合失調症③ 回復期</p> <p>4 統合失調症④ 治療と看護</p> <p>5 精神科領域における治療と看護① 薬物療法/電気けいれん療法他</p> <p>6 精神科領域における治療と看護② 心理療法</p> <p>7 精神科領域における法と制度① 精神保健福祉法</p> <p>8 精神科領域における法と制度② その他関連する法・制度</p> <p>9 精神科領域における医療安全・危機管理</p> <p>10 精神科看護における人権と倫理</p> <p>11 精神科看護における自己理解・自己活用/プロセスレコードの活用</p> <p>12 精神科看護の実践① 救急急性期看護</p> <p>13 精神科看護の実践② 退院支援</p> <p>14 精神科看護の実践③ 認知症看護</p> <p>15 精神科看護の実践④ 精神科訪問看護</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマとなる精神疾患等について調べ、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を1編以上読む。			90分	
授業の留意点	精神科看護の実践に不可欠な知識・技術を学ぶとともに、精神障害者を取り巻く社会のありようを理解するため、主体的に考える姿勢を求める。					
学生に対する評価	<p>筆記試験により評価する。</p> <p>以下の5段階で評価する。</p> <p>S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下</p> <p>C以上の評価について単位を認定する。D評価の者は再試験とし、再試験は素点69点までとする。</p>					
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。					
参考書（購入任意）	必要時指示する。					

科 目 名	基礎看護学実習 I		担当教員名	齋藤千秋・畑瀬智恵美・鈴木朋子・岩田直美	
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</li> <li>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</li> <li>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</li> <li>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</li> <li>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</li> </ol>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が臨地において対象者とのかかわりやケアを通して対象理解、看護の目的や役割について教授する科目。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の役割・機能、医療の場で働く看護者および他職種の専門職としての役割を説明できる。</li> <li>2. 対象者とのかかわりを通して、入院生活の過ごし方について知り、健康時の日常生活との相違や困難さについて説明できる。</li> <li>3. 対象者への援助を通して、健康の回復・維持・増進のために必要な看護援助を根拠に基づいて行う必要性を説明できる。</li> <li>4. 看護学生として、チームの一員としての責任を自覚し、自律した行動ができる。</li> <li>5. 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。</li> </ol>				
授業の概要	健康障がいを持つ対象者とのかかわりやケアを通して、入院している対象者の心身の状態、生活の場である療養環境について学習し、看護の目的や役割について学ぶ。同時に臨床診断・コミュニケーション技術・倫理的判断についても学ぶ。				
授業の計画	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設内を見学し、主要部署とその役割について説明を受ける。</li> <li>2. 実習病院の特徴や看護部の方針等についてオリエンテーションを受ける。</li> <li>3. 療養環境について、病棟の見学とオリエンテーションを受ける。</li> <li>4. 看護援助の実践に際しては、看護師・教員の説明や助言のもとに行う。</li> <li>5. カンファレンスで学習内容を整理し、学びを共有する。</li> <li>6. 学内演習では体験や学びを共有し、学びをまとめ、自己の課題を明確にする。</li> </ol> <p>詳細は、実習要項を参照</p> <p>※実習目標に基づき、臨地実習4日間、学内演習1日間の計画を予定している。</p> <p>※詳細な実習計画・資料等は、実習開始前オリエンテーションで説明する。</p> <p>※実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	<p>本授業科目は、看護学生として医療の現場で体験的に学ぶ学習であるので、医療の現場で学ぶ者として自覚を持ち、対象や医療従事者の信頼を得られる行動を心がけ実習することが必要である。実習課題到達のためには、実習オリエンテーションに出席すること・事前学習が必要である点を十分認識して実習に臨むことが求められる。</p> <p>本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅰの単位修得、ヘルスアセスメント、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅱ、看護過程演習の単位修得見込みである。計画的に学習し、体調を整えて実習に臨みましょう。</p>				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は実習記録一式が期限内に提出されることを前提とする。				
教科書（購入必須）	実習要項や必要な実習課題提出記録用紙等の関係資料は実習前に配布されるので、各自が既習科目の教科書を活用し、必要な事前準備を行うこと。				
参考書（購入任意）	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。				



科 目 名	基礎看護学実習Ⅱ		担当教員名	鈴木朋子・畑瀬智恵美・齋藤千秋・岩田直美	
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</li> <li>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</li> <li>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</li> <li>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</li> <li>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</li> </ol>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が、臨地において、既習の知識や技術を基に看護の対象、療養環境、人間関係を形成するためのコミュニケーション、看護ケアをもとに、対象に必要な看護を理解し、その対象の看護上の問題（健康問題）を解決するための看護過程を展開し、同時に問題解決思考能力を教授する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者とコミュニケーションをとることができる。</li> <li>2. 対象者を統合的に理解し、看護過程を展開できる。</li> <li>3. 医療チームの一員として、看護師の役割および医療・福祉チームにおける連携・協働について説明することができる。</li> <li>4. 看護の専門性、学問を探究する学習者として自己洞察し、今後の学習課題を明確にできる。</li> <li>5. 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。</li> </ol>				
授業の概要	看護学生として初めて一人の対象を受け持ち、健康に障がいをもつ人を理解すると共に、健康障がいをもつ対象の健康問題を解決するための看護過程を展開し、看護を実践する思考プロセスを学ぶ。また、他の専門職と連携・協働するチーム医療について学ぶ。同時に臨床判断、コミュニケーション技術、倫理的判断・行動についても学ぶ。これらを通して看護職に求められる知識・技術・態度についての学びを深める。				
授業の計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 実習目標に基づき、実習期間は2週間を予定している。</li> <li>* 成人期・老年期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>* 対象患者に実習依頼し、受け持つことに同意と署名を受ける。</li> <li>* 学生が立案した看護計画に基づいて実施する援助は、主に生活援助技術である。</li> </ul> <p>詳細は、実習要項を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 詳細な実習計画・資料等は、実習開始オリエンテーションで説明する。</li> <li>* 実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。</li> </ul>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習科目（専門基礎科目、専門科目）および看護過程の学習したことを復習し、実習に臨んでください。また、実習で体験する内容について事前学習を十分行ってください。学習は計画的に行い、体調を整えて実習に臨みましょう。</li> <li>2. 看護実践を通じて専門職業人を目指す看護学生としての責任を自覚し、看護の学習者として、主体的、自律的、真摯な姿勢で臨んでください。</li> <li>3. 本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、ヘルスアセスメント、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していることである。基礎看護技術Ⅲについては、単位修得見込みである。</li> </ol>				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は、実習記録一式が期限内に提出されたことを前提とする。				
教科書（購入必須）	既習科目（専門基礎科目、専門科目）および1年次に既習の教科書、参考図書、授業資料、その他全てを活用する。				
参考書（購入任意）	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。				

科 目 名	地域看護学実習		担当教員名	伊藤 亜希子		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	市町村保健師および病院看護師の経験のある教員が担当する。 地域で暮らす在宅療養者の様々な生活場面において、各実習施設の専門資格を有する実習指導者のもと、在宅看護活動に必要な支援方法や家族ケアの実施に必要な専門的知識と技術について学び、看護師の役割について教授する科目である。					
学習到達目標	1. 地域で暮らす在宅療養者と家族の特性や生活上の課題やニーズを理解する。 2. 在宅療養者の疾病や障害に対する気持ちの受け止めや価値観について考えることができる。 3. 在宅療養者や介護者である家族の健康や生活状態に応じた様々な支援のあり方について考えることができる。 4. 対象者が利用している社会資源について理解し、地域包括ケアシステムについて考えることができる。 5. 在宅療養者および地域全体の健康問題の解決に必要な保健・医療・福祉サービスの連携および協働から地域包括ケアシステムを理解する。					
授業の概要	訪問看護ステーション、地域包括支援センター、障害者支援施設において実習を行う。 訪問看護ステーションの実習では、在宅療養者の自宅に訪問看護師と同行し、在宅療養者の生活場面から訪問看護活動について学ぶ。地域包括支援センターの実習では、地域包括支援センターの役割の機能、支援の実際について学ぶ。障害者支援施設での実習では、地域で生活する障害者について、生活モデルを用いた支援の方法を学ぶ。 これらの実習を通して、地域で生活する人々に関する在宅ケアサービスと保健・福祉・医療・福祉の連携および協働について理解する。					
授業の計画	別途配布する「地域看護学実習要項」に基づいて、学内オリエンテーションを受けて実習を進める。  実習期間と実習施設 1 週目 訪問看護ステーション 2 週目 地域包括支援センター、障害者支援施設  実習方法と内容 数名ごとの小グループに分かれて、1 週目は訪問看護ステーション、2 週目は地域包括支援センターと障害者支援施設で実習を行う。実習最終日に、カンファレンスを行い、全員で各実習先での学びを発表し疑問点などを共有し学びの視点を広げるとともに学びを深める。 1. 訪問看護ステーション 在宅療養者の自宅に訪問看護師と同行し、在宅療養者の生活場面から訪問看護活動について学ぶ 2. 地域包括支援センター 地域包括支援センターの役割の機能、支援の実際について学ぶ。 地域包括支援センターの保健師や社会福祉士などに同行し対象者への訪問および事業などを見学する。 3. 障害者支援施設 障害者支援施設において、地域で生活する障害者および生活を理解し、様々なプログラムより生活モデルを用いた関わり方や支援の方法を学ぶ。  これらの実習を通して、地域で生活する人々に関する在宅ケアサービスと保健・福祉・医療・福祉の連携および協働について理解するとともに地域包括ケアシステムについて考える。					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習プログラムに沿って必要な学習をしてから臨むこと。				
	復習	実習後に専門知識や技術について復習を行うこと。				
授業の留意点	地域看護学および障害者福祉に関する制度や社会資源を復習して実習に臨むこと。実習では、在宅療養者の自宅や施設を訪問するため、学生として節度ある態度とマナーを大切に学ばせていただく姿勢で臨むこと。					
学生に対する評価	実習要項の評価表に準じる。					
教科書（購入必須）	河野あゆみ編 新体系看護学全書在宅看護論 メヂカルフレンド社					
参考書（購入任意）	石垣和子他編 看護学テキスト 在宅看護論自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 河原加代子筆者 系統看護学講座統合分野 在宅看護論 医学書院					

科 目 名	成人看護学実習 I	担当教員名	長谷部 佳子・南山 祥子・中谷 美紀子
学 年 配 当	3 年	単 位 数	3 単位
開 講 時 期	後期	必修選択	必修
		開 講 形 態	実習
		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。		
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目である。		
学習到達目標	周手術期にある成人期の患者とその家族に対する看護を、看護過程の展開を通して実践し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。健康障害の急性期にある対象を全人的にとらえ、外科的療法によってもたらされる心身への侵襲を最小限にとどめ、回復するための看護援助の実践を学ぶ。さらに、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。		
授業の概要	周手術期にある患者を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。外科的療法を受ける患者への看護援助を実施する。看護援助を通じて看護の継続性、関係職種間の連携と協働、看護職者としての姿勢を学ぶ。		
授業の計画	実習目標 1. 周手術期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2. 健康障害が患者および家族に及ぼす生活の変化を理解した援助的人間関係を形成することができる。 3. 急性期から回復期に至る対象とその家族に対し、生活の視点から回復促進のための働きかけができる。 4. 保健医療福祉チームの一員としてその役割を理解し、看護の継続性、関係職種間の連携・協働について理解することができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。 実習内容 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習方法 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習場所 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習期間 3 週間		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	形態機能学・病理学・薬理学・生化学などの疾患にまつわる予習。	90 分
	復習	受け持ち対象者の病態の復習、看護実践にまつわる内容の復習。	90 分
授業の留意点	既習の専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論 I）に関連した知識・技術の活用が必須となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行ったうえで臨んでください。		
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準じる。		
教科書（購入必須）			
参考書（購入任意）	藤野彰子・長谷部佳子・間瀬由記（編著）「看護技術ベーシックス、第 2 版」サイオ出版		

科 目 名	成人看護学実習Ⅱ		担当教員名	長谷部 佳子・南山 祥子・中谷 美紀子	
学 年 配 当	3年	単 位 数	3単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学習到達目標	慢性的な健康障害をもつ成人期の患者を受け持ち、看護過程を展開し、その看護実践を通して疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしく過ごせるような支援の実際を学ぶことができる。さらに看護の継続性、関係職種との連携と協働の実際について理解することができる。				
授業の概要	健康障害の慢性期にある成人期の患者を1名受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。そのなかで、疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしい生き方を支えるための看護の実際を学ぶ。また、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。				
授業の計画	実習目標 1. 健康障害の慢性期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2. 人間関係の重要性を認識し、健康障害の慢性期にある患者とその家族の心理的状态に応じた関わりをもつことができる。 3. 患者とその家族がその人らしく過ごせるように、生活の視点から教育指導を含む支援活動を考え、実践することができる。 4. 社会復帰に向けて、必要な保健医療・福祉サービスなど関係職種との連携・協働について理解することができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。 実習内容 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習方法 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習場所 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習期間 3週間				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論Ⅱ）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨んでください。				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）					

科 目 名	老年看護学実習		担当教員名	高儀 郁美・澤田 知里・上原 主義	
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、高齢者との関わり方、看護の展開方法、ケアの方法等を、実践を踏まえながら指導する。				
学習到達目標	老年期に生きる高齢者とその家族の生活と健康、および健康問題について理解するとともに、多職種と協働する中での看護師の役割について考察することができる。				
授業の概要	高齢者は医療施設だけでなく、保健福祉施設や在宅等さまざまな場で生活している。多様な健康状況下にある高齢者の特性を理解し、学内で学んだ知識・技術、専門職としての態度と倫理観を看護実践の場において統合的に応用する。				
授業の計画	<p>実習方法：老年看護学実習は、グループホーム・通所サービス実習（2週間）と、高齢者施設での実習（2週間）で構成される。</p> <p>I. グループホーム・通所サービス実習（2週間） 地域密着型施設を利用している高齢者とかかわりながら、グループホームや在宅生活維持に向けた生活のありようについて学ぶ。</p> <p>1. 認知症グループホーム</p> <p>1) 認知症に関する正しい知識を身につけることができる。</p> <p>2) 認知症グループホームの法的根拠、機能を理解することができる。</p> <p>3) 認知症グループホームで暮らす高齢者に人間的関心を向け、信頼関係を築くことができ、コミュニケーションについて理解することができる。特に加齢に伴う感覚器・精神機能の低下に配慮しつつ、認知症高齢者にとって安心できるコミュニケーションの特徴を理解することができる。</p> <p>4) グループホームで生活する高齢者にとって安心でき、居心地の良い場の提供の重要性について理解し「環境」を整える意味を理解することができる。</p> <p>2. 通所サービス</p> <p>1) 通所サービスの法的根拠、機能を理解することができる。</p> <p>2) 通所サービスで実施されている、心身機能維持・改善への取り組みの実際と、自立支援・重症化防止に向けた取り組みについて理解することができる。</p> <p>3) 要介護高齢者と家族介護者双方にとっての通所サービスの意義を理解することができる。</p> <p>II. 高齢者施設実習（2週間） 高齢者施設に入居している高齢者の生活と、高齢者の生活を整える意味について理解することができる。特に認知症高齢者のニーズの捉え方と生活からヘルスアセスメントを行う健康支援の視点を理解することができる。</p> <p>1. 看護過程の展開により、加齢や老年症候群等により不可逆的な老化の状態にある高齢者のからだを理解する一方で、高齢者を身体的、心理・霊的、社会・文化的な側面を有するホリスティックな存在としてとらえることができる。</p> <p>2. 高齢者とその家族の経年の生活史を考慮しつつ、その人が望む（あるいは望むであろう）生活のあり方を目標に、高齢者の持てる力を維持・継続させ、潜在している力を顕在化させるために生活機能を整え、生活環境に働きかける看護ケアを提供する、目標志向型思考を基盤とした看護過程を理解することができる。</p> <p>3. 多職種と協働して（介護士、医師、理学療法士、作業療法士、生活相談員、管理栄養士等と共に）生活を支える看護支援の視点を理解することができる。</p> <p>4. アセスメント後、ニーズ（看護）に沿った、かつ予防の視点を重視した看護援助を展開することができる。</p> <p>5. 一連の学びを通して、高齢者看護における自らの看護観について育むことができる。</p> <p>*実習場所 グループホーム・通所サービス実習：名寄市内（風連町）・士別市内 高齢者施設実習：名寄市内・美深町</p> <p>*事前ガイダンスや課題があります。</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	老年看護学概論、老年看護活動論Ⅰ・Ⅱで学習した内容について復習をする。			
	復習	毎日の実習内容を実習記録にて振り返り、翌日に向けた課題を明確にする。			
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は老年看護学概論、老年看護活動論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修できない。</li> <li>・インフルエンザワクチン接種の要請を受ける場合がある。罹患の場合は実習中断となる。</li> </ul>				
学生に対する評価	実習要項に本実習の目標に沿った評価項目・評価方法を提示、オリエンテーションで説明する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）					

科 目 名	小児看護学実習		担当教員名	小児看護学教員		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児とその家族が外来受診や入院している医療施設において臨床指導者のもと、看護職の責務を理解し、発達段階や家族のニーズに応じた看護援助を指導する科目					
学習到達目標	1. 保育所実習を通して、成長発達に応じた日常生活、遊びの支援ができる。 2. 小児看護における外来看護の役割を理解できる。 3. 入院している小児とその家族の看護問題を明らかにできる。 4. 発達段階や個別性を考慮した看護ケアを考え実施できる。 5. 小児看護における看護職の責務を考察できる。 6. 障害を持っている子ども（成人）の日常生活を理解して必要とされる看護を理解できる。					
授業の概要	保育所実習では、指導保育士と共に子どもの日常生活、遊びの実際を体験する。 外来受診および入院している小児とその家族を看護する病棟実習では、既習の知識・技術を基に、看護ケアの計画立案・実施・評価のプロセスを体験し小児看護の実際を学ぶ。 療育園実習では、主に見学実習であるが、実習指導者の指導を受けながら、日常生活の援助やコミュニケーションを通して利用者との関わり、必要とされる看護を考えていく。					
授業の計画	別途配付する「小児看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行い実習を進める。 実習施設：小児病棟、小児科外来、保育所、療育園 実習期間：2週間 実習方法：1グループ1週間単位で小児病棟と小児科外来・保育所に入る 1日療育園での実習  実習内容 1) 小児病棟 ・受け持ち患児を決め、看護計画を立案する ・受け持ち患児の看護ケアを実施する ・実施した看護ケアについて評価し看護計画の修正を行う 2) 小児科外来 ・受け持ち患児を決め、家庭で行っているケアについて情報収集を行い、必要な看護ケアについてアセスメントする ・健診や予防接種に来ている子どもや家族に必要なプレパレーションを実施する 3) 保育所 ・健康な子どもの日常生活や遊びについて発達段階に応じた支援を行う 4) 療育園 ・障害のある子ども（成人）に必要な支援について、様々な専門家から説明を受け学ぶ ・実習指導者の指導のもと、障害のある子ども（成人）の日常生活の援助（主に食事介助）を実施する					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	感冒や感染症の疑い・発症などは必ず報告してください。感染源・媒介の危険性がある場合は実習中止となる。予防接種の履行および日常生活・健康の管理に留意すること。 実習前には各自、既習の知識・技術の確認を行い、準備を整えて実習に臨むこと。					
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	子どもの病気の地図帳 講談社					

科 目 名	母性看護学実習		担当教員名	加藤 千恵子・渡邊 友香		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、妊娠分娩産褥期の母親と新生児の看護実践の基本を医療施設の臨床指導者と共に指導する科目					
学習到達目標	学生は、女性およびその家族を対象として、母性の健全な成長発達を促し、健康の維持・増進、発達課題の達成を促すための看護方法を学び、母性看護の役割について考えることができる。 1) 学生は、妊娠、分娩、産褥期における女性の特性を身体的、心理的、社会的側面から理解し、各期の過程に影響する要因について理解できる。 2) 学生は、母性意識の育成および母子関係、家族関係成立にむけての支援を学ぶことができる。 3) 学生は、妊産褥婦がセルフケア行動や養育行動を獲得していく過程の支援を学ぶ。 4) 学生は、新生児の生活を整える働きかけを通して、新生児が胎外生活に適応していく過程を理解することができる。 5) 学生は、生命の尊厳や母性の尊重について、自己の考えを深めることができる。 6) 学生は、母子保健活動の実践を通し、母子を継続して支援する方法を学び、その必要性を理解できる。					
授業の概要	1) 学生は、妊娠・分娩・産褥期にある母子を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより発達課題や発達危機、健康状態を把握し、母子の健康を維持促進するために必要な看護実践の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 2) 学生は、地域で生活する褥婦及び新生児の健康状態および地域が抱える課題について学ぶ。 3) 学生は、地域における母子保健活動の実際を学ぶ。					
授業の計画	実習内容(産科病棟実習・産科外来実習・地域母子保健実習)  周産期からの母性看護の対象が訪れる施設と地域を理解する。また、実習中に関わる1事例以上の対象の特性を理解し、看護過程のアセスメントを通して看護の方法を学ぶ。  実習方法 1) 実習場所(4か所) ・名寄市立総合病院3階西病棟、名寄市立総合病院産婦人科外来、野口母乳育児相談室、名寄市立大学タッチケアサロン 1グループ:1週間単位で病棟・分娩参加見学チームと外来・地域母子保健活動チームで交替する(16名) 2) 実習内容 (1) 周産期母子実習(病棟) ・褥婦と新生児の看護:1例受持ち ・産婦の看護は参加見学 (2) 産婦人科外来実習 ・妊婦健康診査・保健指導の見学及び一部実施(1例以上) ・地域母子保健活動実習(タッチケアサロン、母乳育児相談等)の参加見学  実習期間 2週間					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護活動論Ⅱをすべて履修済であること。事前に配布する実習要項、特に達成目標を読み、事前学習を行い、活動論Ⅰ・Ⅱで作成したまとめを実習で活用すること。					
学生に対する評価	実習方法の評価方法に準ずる。					
教科書(購入必須)	・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学各論 母性看護学 2 森恵美(医学書院) ・ナーシンググラフィカ母性看護学③母性看護技術 ・ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 太田操(医歯薬出版)					
参考書(購入任意)	・病気がみえるVOL10産科 第4版(メディックメディア) ・看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ、Ⅱ 前原 澄子(編集)(中央法規出版) ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学概論 母性看護学 1 森恵美(医学書院)					

科 目 名	精神看護学実習		担当教員名	結城 佳子・中島 泰葉		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科医療機関等において、看護師等として実務経験を持つ教員及び臨地実習指導者による指導のもとで看護援助を実践し、それを通じて対象理解、看護援助方法ならびに人権擁護等を学び、看護師の役割について指導する科目					
学 習 到 達 目 標	1. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、精神的・身体的・社会的側面等からアセスメントすることができる。 2. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、治療的コミュニケーション技法および精神科における看護援助方法を用いて、看護を実践することができる。 3. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、実践した看護を省察できる。 4. 精神科領域における医療チームの一員として、必要な報告連絡相談ができる。					
授 業 の 概 要	1. 精神科病棟において入院患者を受け持ち、看護過程を展開する。あわせて、施設見学、精神科における治療・リハビリテーションの見学を行う。 2. 受け持ち患者をはじめとする入院患者とのかかわりや受け持ち患者の看護過程の展開を通して、精神看護に必要な基礎的な知識・技術を習得し、精神科において看護職に求められる基本的な態度を養う。 3. 治療・リハビリテーションの見学や看護過程の展開を通して、他職種の役割と医療チームにおける看護職の役割を理解する。					
授 業 の 計 画	1 別途配布する「精神看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行う。 2 精神科救急急性期病棟、回復期病棟、慢性期病棟のいずれかにおいて2週間の実習を行う。患者を受け持ち、臨地実習指導者および教員の指導のもと看護過程を展開、実践する。 3 実習期間中にアルコール集団療法、SST、作業療法等の精神科における治療・リハビリテーションの実際を見学する。 4 実習中に受け持ち患者等とのかかわりをプロセスレコードに記録し、自己理解に活用する。 5 実習終了後、看護計画や記録類、総合レポートを提出する。					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	学習到達目標の達成には、日々の自己学習は必須である。				
	復習					
授業の留意点	履修には精神看護学概論、精神看護活動論Ⅰ、精神看護活動論Ⅱの単位を修得している必要がある。					
学生に対する評価	評価項目・評価方法を実習要項に提示、実習前に実施するオリエンテーションにて説明する。総合点60点以上を単位認定する。					
教科書（購入必須）	テキストは使用しない。					
参考書（購入任意）	必要時指示する。					



科 目 名	統合実習		担当教員名	看護学科教員		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健師・助産師・看護師としての実務経験を持つ教員が、より実践的な状況場面における看護の展開を教授する科目。					
学習到達目標	保健医療チームの一員としての看護職の役割を学び、他職種、他機関との連携・協働を通して主体的に看護を展開する実践的能力を修得する。また、既習の講義・実習の統合により看護実践能力の向上をめざし、看護学を探究する姿勢および態度を学ぶ。 1. 保健医療チームの組織・機能・管理及びチームの一員としての看護師の役割を具体的に説明できる。 2. 他職種、他機関等との連携・協働および統合的・継続的な看護実践の必要性について具体的に説明できる。 3. 看護実践に必要な知識・技術を統合し、より実践的な状況・場面における看護展開に取り組み、自己評価できる。 4. 看護職に求められる専門性とその責任、質の高い看護実践をめざして自己研鑽を継続する必要性を具体的に説明できる。					
授業の概要	各看護学領域または領域間の連携により実習する。各領域の専門性を反映した実習内容により実習目的・目標の到達をめざす。学生は、選択した領域の実習計画に基づき、配置された実習施設での実習を行う。					
授業の計画	1 別途配布する「統合実習要項」に基づき、学内でのオリエンテーションを行う。 2 オリエンテーションでは、各領域等の実習計画（実習方法、内容、実習施設等）について説明し、領域等の配置について希望調査を行う。 3 それぞれの希望に応じて、領域等ならびに実習施設の配置を調整する。各実習施設への学生配置数は2～4名を予定している。各グループには、担当の教員と臨地実習指導者を配置し、指導を行う。 4 実習内容は、より実践的な看護活動として看護管理、複数患者受持ち、夜間帯勤務の見学等、継続看護は退院支援や地域生活活動支援等他、他機関・他職種との連携、家庭訪問、地区組織活動等領域の専門性を反映している。 5 実習施設での実習中は、教員と臨地実習指導者が連携して指導にあたる。また実習終了後は、主に教員の指導に基づき、学内演習等により学びを深め、その統合を行う。					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	学習到達目標の達成には、日々の自己学習は必須である。				
	復習					
授業の留意点	4年間の学びの集大成の実習であり、主体的に学び、自己を研鑽する姿勢をもって実習に臨むこと、看護学生として責任ある行動をとることが期待される。					
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準じる。					
教科書（購入必須）	特に指定しない。					
参考書（購入任意）	必要時指示する。					

科 目 名	看護倫理		担当教員名	石垣 靖子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	緩和医療において、看護師および看護管理者として豊かな臨床経験を持つ教員が、実際の事例や看護場面を通して看護における倫理を教授する科目。					
学習到達目標	倫理が日常の実践と深く結びついていることを理解し、倫理の基本的な知識を学ぶ。 また、医療・ケアの目標である受け手のQOLを維持し、高めるために患者・家族のアドボケートとしての看護師の役割について学ぶ。					
授業の概要	看護師として、ケアの対象である患者・家族への倫理的な支援が行えるように、基本的な知識をグループワークやビデオ学習等を通して学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療倫理のはじまり、その背景について理解する。</li> <li>2 医療・ケアの質と倫理の位置づけを説明できる。</li> <li>3 看護倫理の特徴と倫理的ジレンマについて理解する。</li> <li>4 受け手と担い手との共同行為としての医療・ケアについて説明できる。</li> <li>5 倫理観が原点である“ケアリング”の概念について理解する。</li> <li>6 意思決定を支援するプロセスとその本質について理解する。</li> <li>7 倫理的事例検討の実際を理解する。</li> <li>8 院内倫理委員会とその役割について理解する。</li> <li>9 人間尊重の倫理原則とその実際について理解する。</li> <li>10 COVID-19 中での倫理的な課題について理解できる。</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90分	
授業の留意点	倫理がよい実践と同義語であることを授業を通して一緒に考えたいと思います。実習で出会った様々な場面を通して話し合ひましょう。					
学生に対する評価	授業態度 30点 レポート 70点					
教科書（購入必須）	石垣 靖子他：臨床倫理ベーシックレッスン、日本看護協会出版会、2012					
参考書（購入任意）	清水哲郎著 「医療現場に臨む哲学」 勁草書房 1997 (この本は臨床に出ても役立つ本です。)					

科 目 名	看護マネジメント論	担当教員名	原口 眞紀子・井戸川 みどり・久保 千夏・日下 玲子			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	現在、看護管理者として看護マネジメントを実践している教員が、看護を取り巻く法制度、マネジメントの知識・技術を教授する科目。					
学習到達目標	<p>看護サービスを提供するためには、看護職同士の協同、他職種との連携、対象者自身や家族の協力とともに、対象者を取り巻くあらゆる資源を十分に活用することが必要となる。人的・物的・財的資源は、自然発生的に無限にあるのではなく、多くの場合有限である。これらの資源をいかに有効利用するかが重要であり、それを維持・活用するための仕組みを理解することを目指す。</p> <p>1. 看護マネジメントの概念及び関連する法や諸制度について説明できる。</p> <p>2. 看護業務の実践のために必要なマネジメントについて説明できる。</p> <p>3. 看護サービスのマネジメントとその対象となるさまざまな資源について説明できる。</p> <p>4. 看護マネジメントに必要な知識・技術について説明できる。</p>					
授業の概要	<p>1. チームや組織をつくり動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供しているすべての看護職が担う役割であることを学ぶ。</p> <p>2. 看護を仕組みとしてとらえ、それがどのようにになっているのか、問題はなにか、どのような改善策があるのか、どのようにすればより良い看護が提供できるのか等を追及し、多数の人々が共に働くための「技」を学ぶ。</p>					
授業の計画	<p>1 看護とマネジメント</p> <p>2 看護ケアのマネジメント</p> <p>3 看護ケアのマネジメント</p> <p>4 看護ケアのマネジメント</p> <p>5 看護サービスのマネジメント</p> <p>6 看護サービスのマネジメント</p> <p>7 看護サービスのマネジメント</p> <p>8 看護サービスのマネジメント</p> <p>9 看護を取りまく諸制度</p> <p>10 看護を取りまく諸制度</p> <p>11 看護を取り巻く諸制度</p> <p>12 看護を取り巻く諸制度</p> <p>13 マネジメントに必要な知識と技術</p> <p>14 マネジメントに必要な知識と技術</p> <p>15 マネジメントに必要な知識と技術</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。				90分
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。				90分
授業の留意点	開講前の準備として、実習中に気づいた看護管理に関する問題・疑問・課題解決に向けて考えたことを整理しておくこと。					
学生に対する評価	レポート100点で評価する。					
教科書（購入必須）	上泉和子他 『系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践 [1]』 医学書院					
参考書（購入任意）	必要時指示する。					

科 目 名	看護教育学		担当教員名	定廣 和香子・松田 安弘		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての実務経験及び看護教育における豊富な実践、研究経験を持つ教員が、看護教育学の基本を教授する科目					
学 習 到 達 目 標	① 看護教育学の構造・基本概念を理解し、看護教育制度の特徴と課題を明らかにする。 ② 看護教育カリキュラム編成・授業展開・教育評価の基本を理解する。 ③ 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習し、その特徴と意義を明らかにする。 ④ ①から③を通して、大学において看護学を学習する上での自己の課題を明らかにする。					
授 業 の 概 要	看護教育学の構造・基本概念の理解を基本として、わが国における看護教育制度、看護学教育におけるカリキュラムのプロセス、教授＝学習過程、教育評価について学習することを通し、看護職養成教育の現状と今後の課題について考察する。また、専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習するとともに、これらの学習を通して、大学において看護学を学ぶ意義と課題を確認する。					
授 業 の 計 画	1 ガイダンス・看護教育学と看護学教育 2 看護教育制度（1）基礎 3 看護教育制度（2）発展 4 看護教育カリキュラム 5 看護学教育における授業展開（教授＝学習過程） 6 看護学教育における教育評価 7 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果 8 看護学教育の現状と今後の課題					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて調べ、疑問点等を明確にしておく。			90 分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を一編以上読む。			90 分	
授 業 の 留 意 点	看護教育学は、学生の皆様を含む看護職者の発達の支援を通して、看護の対象に質の高い看護を提供することを目指す学問です。また、その研究対象は、看護学教育の各領域に共通して普遍的に存在する要素（学習活動、教育活動、カリキュラム、教育評価、看護学実習 etc）です。講義では、様々な看護教育学の研究成果を紹介しながら授業を進めていきます。皆様が、看護学の学習を進める上での課題や問題を解決するヒントを見つけていただければ幸いです。					
学 生 に 対 す る 評 価	レポートで評価する。（100 点）					
教 科 書 （購入必須）	杉森みどり・舟島なをみ：看護教育学第6版、医学書院、2016					
参 考 書 （購入任意）						

科 目 名	災害看護学・国際看護学		担当教員名	播本 雅津子・長谷部 佳子		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>災害看護学では、大規模自然災害時および大規模感染拡大時に保健師として支援活動を実施した教員が担当する。</p> <p>国際看護学では、看護師資格を有し、JICA の草の根事業申請のためモンゴル国で活動した経験、および赤十字関連のインドネシアで活動した経験を通じて講義を展開する。</p>					
学習到達目標	<p>災害看護学では、災害の種類および災害に関する法令等を理解する、災害看護の歴史および基礎知識を理解する、災害時の医療・看護活動の実際について理解する、災害時を念頭においた日々の看護活動について考察する、の4点を目標とする。</p> <p>国際看護学では、グローバルな視点で看護活動を考えられるようになることを目標とする。</p>					
授業の概要	<p>授業は災害看護学部分と国際看護学部分のオムニバスである。</p> <p>災害看護学では、災害に関する基礎知識および災害看護学に関する実際の活動等について講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動についての体験談や演習を通じて、ひとり一人が災害時の看護活動について考える機会を持つことのできる授業とする。</p> <p>国際看護学も同様に、総論・各論の講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動に関する体験談を含む演習を通じて、国際看護の視座を養う。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害看護学オリエンテーション・災害について・災害看護学の歴史について</li> <li>2. 災害に関する法律・法令</li> <li>3. 様々な災害から生まれた支援活動の教訓について</li> <li>4. 災害時の看護活動について（DMAT の実際）</li> <li>5. トリアージについて</li> <li>6. 災害保健について（保健師活動の実際）</li> <li>7. 放射線災害について</li> <li>8. 国際看護を考えるうえでの理論・制度</li> <li>9. 国際協力の仕組み、日本との関係</li> <li>10. 世界の健康問題</li> <li>11. 海外での国際看護活動 1</li> <li>12. 海外での国際看護活動 2</li> <li>13. 日本における国際看護活動 1</li> <li>14. 日本における国際看護活動 2</li> <li>15. 統合学習</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			90 分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			90 分	
授業の留意点	<p>出席および成績評価は、災害看護学部分と国際看護学部分に分かれそれぞれ 6 割を必要とする。極力遅刻や欠席のないように臨む。</p> <p>COVID-19 感染拡大状況によっては一部または全部を遠隔授業で行う可能性がある。</p>					
学生に対する評価	災害看護学部分にはレポート評価を行う。国際看護学部分もレポート評価を行う。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）						

科 目 名	看護情報学		担当教員名	村上 正和		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が看護実践における情報の活用と情報倫理を含む情報管理の実際を教授する科目					
学習到達目標	①看護情報学における基礎的知識を理解する。 ②看護における情報の特徴とその扱い、看護者としての情報倫理を理解する。 ③今日、臨床で活用されている情報システムとその活用について理解する。					
授業の概要	本科目は、これまで学習してきたコンピュータリテラシーを再確認するとともに、看護が扱う情報についての基本的特徴、看護場面における情報の持つ意味・特徴、医療情報システムの概要と看護における活用について学習し、プライバシーに関する基本的知識と態度を習得し、自らが看護に関する情報をより効率的にのり的確に利用できる能力を涵養することを目指す。					
授業の計画	1 コースオリエンテーション・看護情報学の概要と看護師が身に着けるべき ICT 能力 2 コンピュータリテラシーと情報リテラシー 3 情報倫理と法 4 看護におけるデータ・情報の特徴 ※情報共有演習含む 5 医療情報システム ※電子カルテ演習含む 6 看護用語の標準化と標準看護計画 7 看護における情報システム活用例 8 統合学習					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回講義箇所の疑問点をまとめる。			90分	
	復習	配布された資料を再度読み返す。			90分	
授業の留意点						
学生に対する評価	試験(60点)、課題(30点)、授業態度・講義ごとのリアクションペーパー(10点)により総合的に評価する。					
教科書 (購入必須)						
参考書 (購入任意)	・中山和弘他：系統看護学講座 別巻 看護情報学/医学書院 2012 ・太田勝正他：看護情報学/医歯薬出版 2014 ・坂田信裕監修：だいじょうぶ？あなたの情報リテラシー (DVD)/医学映像教育センター					

科 目 名	看護統合演習		担当教員名	看護学科教員		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目					
学習到達目標	1. 患者の身体への侵襲が強く実習や学内演習では体験することができなかった診療補助技術や、実際臨床で行われている実践に近い看護技術のスキルを習得することができる。 2. 卒業生の講演や懇談から臨床現場の実際を知り、看護専門職として・社会人としての心構えができる。					
授業の概要	臨床に即した看護技術実践力の向上、専門的看護技術の向上、看護専門職者としての心構えの育成をめざし 1. 優先度や判断力を育成する多重課題を有する患者のロールプレイを行う。 2. 卒業生を含む臨床現場の看護師の指導を受けながら、実習や学内演習では体験できない診療補助技術の演習を行う。 3. 卒業生から「看護専門職者として求められていること」や「社会人としての心構え・新人としての臨床の体験」などの講演を聞く。					
授業の計画	1. 看護統合演習 オリエンテーション スケジュール説明など 2. 講演会 新人看護師に期待すること、社会から見た看護職者に求められること 3. 講演会 新人看護師に期待すること、社会から見た看護職者に求められること 4. 講義 点滴静脈内注射・筋肉注射、輸液ポンプ・シリンジポンプ、採血、胃管カテーテル挿入他 5. 講義 点滴静脈内注射・筋肉注射、輸液ポンプ・シリンジポンプ、採血、胃管カテーテル挿入他 6. 多重課題 ロールプレイ 7. 多重課題 ロールプレイ 8. 講演会（卒業生：看護師） 看護師として社会人として 9. 講演会（卒業生：新人看護師） 卒業1年を経過して 10. 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 11. 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 12. 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 13. 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 14. 卒業生や臨床NSとの交流会 15. 卒業生や臨床NSとの交流会					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	既習の知識、技術等を統合し、より実践的な看護実践とその評価を行う科目であるため、演習で実践する技術項目および関連する知識を必ず予習しておくこと。				
	復習	また、演習での実践を自己評価し、知識・技術を補足学習すること。				
授業の留意点	卒業直前の演習であり、看護師として働いている卒業生の指導も受けられるので、実習では体験できなかった現場のスキルを積極的に学ぶこと。先輩看護師に心配や不安なことを聞いて心の準備をする。					
学生に対する評価	レポート100点					
教科書（購入必須）	なし					
参考書（購入任意）	必要時紹介する					

科 目 名	看護研究の基礎		担当教員名	長谷部 佳子・南山 祥子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師資格を有し、病院での看護研究指導や講演、大学院での研究方法の教授および修士論文指導実績がある教員が基礎知識および研究について教授する。					
学習到達目標	看護における様々な事象について、専門的知識・技術の向上や開発につながる信頼性・妥当性の高い知見を導き出すために必要な看護研究の知識や研究方法への理解を深め、実践の場における研究活動を自立して行うための知識の基盤を習得することを目標とする。					
授業の概要	新しい知見を導き出すために必要な看護研究の方法論について、先行研究論文のクリティークや具体的な研究例等を通して学び、研究に重要な科学的かつ論理的な思考方法や研究者としての倫理について理解を深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護研究とは、看護における研究の必要性和意義</li> <li>2 看護研究の方法</li> <li>3 看護研究における倫理</li> <li>4 文献検索と検討①クリティークの視点</li> <li>5 文献検索と検討②自己の研究テーマへの活用</li> <li>6 研究計画の立て方①研究方法の決定方法</li> <li>7 研究計画の立て方②評価項目の決定方法</li> <li>8 調査研究①量的研究と質的研究</li> <li>9 調査研究②データ収集の方法と注意点</li> <li>10 実験研究</li> <li>11 調査研究③調査の実施</li> <li>12 調査研究④質的データの整理</li> <li>13 研究発表の仕方</li> <li>14 看護研究の実際①研究計画書の作成</li> <li>15 看護研究の実際②データ処理</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章に関連する教科書を読み込んでおく。			10分	
	復習	①講義内容を振り返りノートにまとめる。 ②レポート作成に取り組む。			35分	
授業の留意点	卒業研究での学習を進めるために必須な学習内容となっているので、必ず全講義に出席すること。積極的に講義に参加することを期待する。					
学生に対する評価	レポート100点で評価する。					
教科書（購入必須）	岡本和士，長谷部佳子：看護研究はじめの一步，第1版，医学書院，2006					
参考書（購入任意）	下記の他，必要時指示する。 黒田裕子：看護研究 step by step，第5版，医学書院，2017					



科 目 名	卒業研究		担当教員名	看護学科教員		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健師・助産師・看護師としての実務経験を持つ教員が、看護に関する研究のプロセスや方法を教授する科目。					
学習到達目標	<p>看護研究の基礎で学んだことをもとに、将来にわたって研究に対する関心を深め、科学的・論理的思考を学ぶとともに、研究的態度と姿勢を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既修の知識、経験から看護学に関する研究課題を明確化し、説明できる。</li> <li>2. 研究課題に関する先行研究を適切に収集、検討することができる。</li> <li>3. 自らが取り組む研究について、研究目的を説明できる。</li> <li>4. 研究目的に適した研究方法および倫理的配慮について説明できる。</li> <li>5. 研究方法にそってデータ収集することができる。</li> <li>6. 収集したデータを分析し、結果にまとめ、考察することができる。</li> <li>7. 研究成果を論文形式で記述することができる。</li> <li>8. 研究成果を報告会で発表し、討議することができる。</li> </ol>					
授業の概要	<p>本科目は、既習の知識や看護学実習から生まれた問題意識を研究課題へ発展させ、研究計画書作成から論文作成、発表までの過程について学ぶことを目的とする。小人数ゼミナール及び担当教員の指導により、研究課題に関する文献検索から目的を明確にし、適した研究方法を選択し研究計画書を作成する。必要時は倫理審査を受ける。研究計画に基づきデータ収集（実施）、分析、考察を行い、論文としてまとめていく。更に、報告会で発表と討議を行う。研究計画から実施、まとめ、発表の一連を通して、科学的・論理的思考を学ぶとともに、継続的に自己を研鑽する態度を養う。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 卒業研究に関する全体ガイダンス</li> <li>2 関心のある課題を設定して、その課題追求の可能性を探求する</li> <li>3 関心のある課題の周辺論文や先行研究などへのクリティークを行い、研究の目的や価値・意義を検討する</li> <li>4 研究するための文献をクリティークし、研究デザインを検討する</li> <li>5 研究目的に合った研究方法を検討し、データ収集するための資料を作成する</li> <li>6 研究計画書を作成する</li> <li>7 倫理的配慮を検討し、必要な倫理審査を受審する</li> <li>8 研究の実施施設、対象者に依頼・調整して協力を得る</li> <li>9 研究計画書に基づき、対象者へ倫理的配慮を行いながらデータを収集する</li> <li>10 収集したデータの整理を行い分析する</li> <li>11 分析したデータの結果を先行研究の結果と対比しながら、吟味や考察を行う</li> <li>12 研究の結論を明らかにして文章化に取り組む</li> <li>13 定められた体裁に整えて、研究成果を論文・抄録にまとめる</li> <li>14 研究成果の発表と討議を行う</li> <li>15 研究の全過程を振り返って自己課題の達成度および取り組みの態度への自己評価を行う</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各担当教員が指示する。				
	復習					
授業の留意点	<p>担当教員の指導のもと、研究対象者への倫理的配慮を十分に検討し、必要な倫理審査を受審する。調査等においては、研究対象者に対し十分な説明を行ったうえで、協力への同意を得て実施する。患者・看護職等外部者に協力を依頼する場合は特に倫理的配慮に留意し、必要であれば関係機関の倫理審査を受審する。</p>					
学生に対する評価	実施、論文作成などの課題の達成度（50点）、計画書、取組の姿勢・態度、倫理的配慮など（50点）から評価する。					
教科書（購入必須）	使用しない					
参考書（購入任意）	<p>南裕子編集：「看護における研究」、日本看護協会出版会</p> <p>小笠原千枝：これからの看護研究-基礎と応用-、ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>他、各教員から指示する。</p>					

科 目 名	公衆衛生看護学概論		担当教員名	播本 雅津子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を實踐できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師の実務経験を有する教員が担当する。					
学習到達目標	公衆衛生看護活動は、地域において、個人・家族・集団・組織等を対象に、人々の健康への援助を看護の立場から活動展開することである。公衆衛生看護の視点は、公衆衛生を基盤とし、対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指している。ここでは公衆衛生看護の活動の概要および、公衆衛生看護の専門職である保健師について学び、保健師という専門職の役割を理解することを目標とする。					
授業の概要	保健師という専門職を理解し、その活動分野および職種の役割について学ぶ。保健師という職業の成り立ちや時代背景、現代における役割期待など、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ導入とする。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 公衆衛生看護の理念と活動分野</li> <li>3 保健師の専門性について</li> <li>4 対象としての個人・家族</li> <li>5 対象としての集団・組織</li> <li>6 公衆衛生看護の歴史（1）保健師活動の源流</li> <li>7 公衆衛生看護の歴史（2）健康課題の解決と保健師活動（昭和時代）</li> <li>8 公衆衛生看護の歴史（3）健康課題の解決と保健師活動（平成時代）</li> <li>9 社会環境の変化と健康課題（1）人口・社会構造・文化的背景</li> <li>10 社会環境の変化と健康課題（2）社会情勢・政治経済等の変化</li> <li>11 公衆衛生看護活動の基本展開（1）個人・家族へのアプローチ</li> <li>12 公衆衛生看護活動の基本展開（2）集団・グループへのアプローチ</li> <li>13 保健師活動の基本姿勢（1）保健指導</li> <li>14 保健師活動の基本姿勢（2）保健師活動指針</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			90分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			90分	
授業の留意点	遅刻・欠席のないよう健康管理に努めた上で授業に臨むこと。遅刻・欠席をする場合は必ず連絡をすること。 COVID-19 感染拡大状況に応じて一部または全部を遠隔授業で行う可能性がある。					
学生に対する評価	筆記試験およびレポート試験を行う。筆記試験 80 点、レポート試験 20 点としそれぞれ 6 割以上の評価点が必要である。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	創成看護学活動論 I		担当教員名	播本 雅津子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護学科教員が看護実践および研究活動を通して精通している課題に則して講義を展開する。各看護学で学んだ内容の深まりを期待するとともに、新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する。					
学習到達目標	現代社会の課題と現状および現在の取り組みについて学び、今後看護職として果たすべき役割について各自が考える姿勢を持つことを目標とする。					
授業の概要	基本となる看護学から発展した看護実践活動から、看護学の深まりや発展に気づくと同時に、生来的に新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する科目である。現代社会の課題と現状および現在の取り組みについて学び、今後看護職として果たすべき役割について各自が考える姿勢を持つことを目標とする。看護学科教員が実務経験や研究活動を通して現代の社会問題や健康課題、看護活動の課題に関して教授する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 睡眠公衆衛生学および睡眠保健指導</li> <li>2 自殺予防対策とゲートキーパー活動</li> <li>3 看護カンファレンスの実際</li> <li>4 虐待予防への社会的取り組み</li> <li>5 健全な親子関係育成の取り組み</li> <li>6 Covid-19 対策の実際</li> <li>7 看護職員確保対策について</li> <li>8 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15 分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30 分	
授業の留意点	遅刻・欠席のないよう健康管理を心掛けて下さい。授業回数が少ないため 5 回以上の出席が必要です。					
学生に対する評価	レポート試験 50 点、各回の小レポート合計 50 点により評価する。レポート試験および小レポート合計それぞれ 6 割の評価点を必要とする。					
教科書（購入必須）	なし					
参考書（購入任意）						

科 目 名	創成看護学活動論Ⅱ		担当教員名	長谷部 佳子		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対称となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	医療施設や保健所で看護師、保健師の経験を有する教員が担当する。看護実践が今後さらに期待される場について、多面的な分析を加えながら討論する。					
学習到達目標	実践的な看護活動に触れることにより、看護職としての将来イメージを明確にすることを目標とする。					
授業の概要	看護学科教員の研究活動または、臨地で活躍する看護職をゲストに招き、実践活動に基づき講義を展開する。各看護学で学んだ内容の深まりを期待するとともに、新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 こどもに関わる分野の実践活動</li> <li>2 新たな命を育む活動</li> <li>3 移植医療における看護活動</li> <li>4 救命救急における看護活動</li> <li>5 へき地における看護活動</li> <li>6 ターミナルケア</li> <li>7 暮らしの中の心の看護（ひきこもり・とじこもり）</li> <li>8 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	図書や新聞などを活用した自己学習。			60分	
	復習	講義を振り返り、追加の情報収集とノートの整理。			60分	
授業の留意点	遅刻・欠席のないよう健康管理を心掛けて下さい。授業回数が少ないため 5 回以上の出席が必要です。					
学生に対する評価	レポート試験 50 点、各回の小レポート合計 50 点により評価する。レポート試験および小レポート合計それぞれ 6 割の評価点を必要とする。					
教科書（購入必須）	なし					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護技術論		担当教員名	播本 雅津子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師の経験を有する教員が担当する。保健師活動に必要な基本技術についての理論と実践活動例について教授する。					
学習到達目標	保健師活動の基本となる地域診断のモデルについて説明できる。 健康教育の理論を学び、場や対象に応じた方法を説明できる。 保健事業ごとに適した評価方法を選定することができる。					
授業の概要	保健師活動に必要な技術について学習する。地域診断、地区組織活動、グループ活動、家庭訪問の展開、地域包括ケアにおける保健師の役割、ネットワークづくりとシステム化・事業化、保健活動の評価について教授する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 様々な地域診断モデルについて</li> <li>3 コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて</li> <li>4 地域診断の応用</li> <li>5 住民活動・組織化の実際</li> <li>6 保健師が関わる地区組織活動・グループ</li> <li>7 グループ活動とその支援</li> <li>8 保健指導技術としての家庭訪問（1）理論</li> <li>9 保健指導技術としての家庭訪問（2）実践</li> <li>10 地域包括ケアにおける保健師の役割</li> <li>11 ネットワークづくりとシステム化（1）理論</li> <li>12 ネットワークづくりとシステム化（2）実践</li> <li>13 保健活動の評価について</li> <li>14 さまざまな評価方法</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			90分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			90分	
授業の留意点	他の演習科目の基本となる科目である。他の演習科目と合わせて学習を進めること。 授業の進行は、他の科目の進行と合わせて上記とは順番が変わることがあり、オリエンテーションで具体的な日時を説明する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。					
学生に対する評価	筆記試験 100点で評価する。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護技術論演習		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。保健師活動に必要な基本技術を活用した演習を実施する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域診断モデルを活用した地域の情報収集を行い、地域の特性を説明できる。</li> <li>・ 継続訪問活動を通じて、継続的な関わりの意義や必要性を説明することができる。</li> <li>・ カンファレンスを通じて、お互いの事例や学習を共有し、チームで課題解決に取り組むことの意義を説明できる。</li> <li>・ 地区組織活動の経験を通じて、住民自治組織の役割について説明することができる。</li> </ul>					
授業の概要	保健師活動に必要な技術について演習を通して学習する。地域診断・継続的な家庭訪問、住民自治組織における住民自治活動や安否確認・防災・減災活動について学習する。					
授業の計画	1 オリエンテーション 2 演習：地域診断の実際（1）名寄市を対象に－グループ分け 3 演習：地域診断の実際（2）名寄市を対象に－テーマ別情報収集 4 演習：地域診断の実際（3）名寄市を対象に－テーマ別地区踏査（市街地） 5 演習：地域診断の実際（4）名寄市を対象に－テーマ別地区踏査（農村部） 6 演習：地域診断の実際（5）名寄市を対象に－テーマ別報告準備 7 報告会（1）名寄市の地域診断 8 演習：様々な地域の地域診断（1）市町村別情報収集 9 演習：様々な地域の地域診断（2）市町村別報告準備 10 報告会（2）様々な市町村の地域診断 11 演習：継続訪問1回目 12 演習：継続訪問個別指導 13 演習：継続訪問カンファレンス1回目 14 演習：継続訪問2回目 15 演習：継続訪問個別指導		16 演習：継続訪問カンファレンス2回目 17 演習：継続訪問3回目 18 演習：継続訪問個別指導 19 演習：継続訪問カンファレンス3回目 20 継続訪問全体カンファレンス 21 名寄市町内会連合会との懇談会 22 名寄市内単位町内会との懇談会 23 演習：地区踏査 24 演習：地区組織活動への参加・夏季行事 25 地区組織活動カンファレンス1回目 26 演習：地区組織活動への参加：秋季行事 27 演習：地区組織活動への参加：冬季行事 28 地区組織活動カンファレンス2回目 29 地区組織活動全体カンファレンス 30 まとめ			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30分	
授業の留意点	グループ演習が中心であるため、積極的な態度で臨むこと。 授業の進行は上記とは順番が変わるため、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。					
学生に対する評価	レポート試験 60 点・演習記録 40 点で評価する。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護活動論 I		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志																															
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演習																													
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修																													
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>																																		
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。</p> <p>公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここではライフステージ別として、成人保健・高齢者保健、健康障害の種別として難病保健について教授する。</p>																																		
学習到達目標	<p>成人期の生活の特徴と健康課題について理解する。</p> <p>地域で暮らす高齢者の生活の特徴と健康課題および介護予防活動について理解する。</p> <p>難病患者の生活の特徴と、健康課題・社会課題について理解する。</p> <p>ライフステージ別・対象のもつ条件別の保健医療福祉制度の活用方法について説明できる。</p> <p>対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。</p>																																		
授業の概要	<p>成人保健、高齢者と介護予防活動、難病保健活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。</p>																																		
授業の計画	<table border="1"> <tr> <td>1 成人保健活動の変遷</td> <td>16 介護保険制度と保健活動</td> </tr> <tr> <td>2 成人保健の動向と健康課題</td> <td>17 地域包括支援センターの役割</td> </tr> <tr> <td>3 健康日本 21（第2次）</td> <td>18 介護予防活動とその制度</td> </tr> <tr> <td>4 データヘルス計画について</td> <td>19 演習：高齢者保健指導（1）個人・家族</td> </tr> <tr> <td>5 特定健康診査</td> <td>20 演習：高齢者保健指導（2）集団・組織</td> </tr> <tr> <td>6 特定保健指導</td> <td>21 演習：地域の関係機関を知る（1）社会福祉協議会・福祉事務所等</td> </tr> <tr> <td>7 健康増進事業</td> <td>22 演習：地域の関係機関を知る（2）介護保険施設・地域包括支援センター</td> </tr> <tr> <td>8 がん対策</td> <td>23 難病対策の変遷</td> </tr> <tr> <td>9 演習：個別を対象とした成人保健指導</td> <td>24 今日の難病対策</td> </tr> <tr> <td>10 演習：集団を対象とした成人保健指導</td> <td>25 高度経済成長期の公害・被害</td> </tr> <tr> <td>11 高齢者保健施策の変遷</td> <td>26 難病患者と家族が抱える課題</td> </tr> <tr> <td>12 高齢者保健活動について</td> <td>27 難病患者に対する社会の取り組み</td> </tr> <tr> <td>13 高齢者の現状の理解（元気高齢者）</td> <td>28 保健師と難病保健活動</td> </tr> <tr> <td>14 高齢者の現状の理解（虚弱高齢者）</td> <td>29 演習：難病保健指導（1）疾患の理解</td> </tr> <tr> <td>15 高齢者保健に関する制度</td> <td>30 演習：難病保健指導（2）保健指導の実際</td> </tr> </table>					1 成人保健活動の変遷	16 介護保険制度と保健活動	2 成人保健の動向と健康課題	17 地域包括支援センターの役割	3 健康日本 21（第2次）	18 介護予防活動とその制度	4 データヘルス計画について	19 演習：高齢者保健指導（1）個人・家族	5 特定健康診査	20 演習：高齢者保健指導（2）集団・組織	6 特定保健指導	21 演習：地域の関係機関を知る（1）社会福祉協議会・福祉事務所等	7 健康増進事業	22 演習：地域の関係機関を知る（2）介護保険施設・地域包括支援センター	8 がん対策	23 難病対策の変遷	9 演習：個別を対象とした成人保健指導	24 今日の難病対策	10 演習：集団を対象とした成人保健指導	25 高度経済成長期の公害・被害	11 高齢者保健施策の変遷	26 難病患者と家族が抱える課題	12 高齢者保健活動について	27 難病患者に対する社会の取り組み	13 高齢者の現状の理解（元気高齢者）	28 保健師と難病保健活動	14 高齢者の現状の理解（虚弱高齢者）	29 演習：難病保健指導（1）疾患の理解	15 高齢者保健に関する制度	30 演習：難病保健指導（2）保健指導の実際
1 成人保健活動の変遷	16 介護保険制度と保健活動																																		
2 成人保健の動向と健康課題	17 地域包括支援センターの役割																																		
3 健康日本 21（第2次）	18 介護予防活動とその制度																																		
4 データヘルス計画について	19 演習：高齢者保健指導（1）個人・家族																																		
5 特定健康診査	20 演習：高齢者保健指導（2）集団・組織																																		
6 特定保健指導	21 演習：地域の関係機関を知る（1）社会福祉協議会・福祉事務所等																																		
7 健康増進事業	22 演習：地域の関係機関を知る（2）介護保険施設・地域包括支援センター																																		
8 がん対策	23 難病対策の変遷																																		
9 演習：個別を対象とした成人保健指導	24 今日の難病対策																																		
10 演習：集団を対象とした成人保健指導	25 高度経済成長期の公害・被害																																		
11 高齢者保健施策の変遷	26 難病患者と家族が抱える課題																																		
12 高齢者保健活動について	27 難病患者に対する社会の取り組み																																		
13 高齢者の現状の理解（元気高齢者）	28 保健師と難病保健活動																																		
14 高齢者の現状の理解（虚弱高齢者）	29 演習：難病保健指導（1）疾患の理解																																		
15 高齢者保健に関する制度	30 演習：難病保健指導（2）保健指導の実際																																		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15 分																														
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30 分																														
授業の留意点	<p>3人の教員によるオムニバス授業である。3本立てで進行し、上記とは順番が変わる。オリエンテーションで具体的な日時を指定する。</p> <p>遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。</p>																																		
学生に対する評価	<p>試験 100 点により評価する。試験は成人保健、高齢者保健、難病保健の3つに分けて実施するため、各試験で 60 点以上を必須とする。レポート等の提出物を求める場合は評価に含める。</p>																																		
教科書（購入必須）	<p>公衆衛生看護学 第2版（中央法規） 対象別公衆衛生看護活動（医学書院）</p>																																		
参考書（購入任意）																																			

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅱ		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志・糸田 尚史		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	播本・室矢は保健所保健師または市町村保健師の経験を有する。糸田は児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所における心理判定員・地域活動福祉司の経験を有している。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここではライフステージ別として、親子保健活動に必要な知識と技術を教授する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子保健施策の体系と保健師の役割について説明できる。</li> <li>新生児訪問の準備・実施・報告までの一連の過程について説明できる。</li> <li>乳幼児健康診査の準備・実施・事後処理までの一連の過程について説明できる。</li> <li>こども虐待と保健師活動について理解する。</li> <li>こどもの発達相談の実際について説明できる。</li> <li>こどもの発達支援活動の実際について説明できる。</li> <li>親子保健における多職種連携について説明できる。</li> </ul>					
授業の概要	母子保健活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。					
授業の計画	1 母子保健施策の変遷 2 母子保健施策の体系 3 妊娠期の保健指導 4 乳幼児の健康観察 5 乳幼児期の予防接種 6 新生児・乳幼児訪問 7 乳児健康診査 8 幼児健康診査 9 演習：新生児訪問（1）デモンストレーション 10 演習：新生児訪問（2）家庭訪問の手順 11 演習：新生児訪問（3）新生児モデルを用いた演習 12 演習：乳幼児健康診査（1）案内・設営 13 演習：乳幼児健康診査（2）計測・問診 14 演習：乳幼児健康診査（3）結果説明・保健指導 15 母子保健包括支援		16 児童虐待の早期発見 17 児童虐待における親支援 18 近年の親子保健の課題（1）就労・生活 19 近年の親子保健の課題（2）健康課題と育児 20 母子保健活動と関係法令 21 子どもの発達支援・発達の理解 22 神経発達症とその理解 23 家族支援について 24 子どもの発達相談 25 演習：事例検討会 26 演習：発達相談の実際（1）知能発達検査の種類と特徴・検査セットの紹介 27 演習：発達相談の実際（2）保健師と心理判定員の連携実践 28 演習：発達支援の実際（1）絵本の読み聞かせ 29 演習：発達支援の実際（2）親子遊び・手遊び歌 30 まとめ			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30分	
授業の留意点	4人の教員によるオムニバス授業または複数で協力して教授する授業である。2本立てで進行し、上記とは順番が変わる。オリエンテーションで具体的な日時を指定する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。					
学生に対する評価	試験100点で評価する。試験は教員毎に実施する。各試験で60点以上取ること。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規） 対象別公衆衛生看護活動（医学書院） 子育ての発達心理学（同文書院）					
参考書（購入任意）						



科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅲ		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここでは健康障害の種別ごとの公衆衛生看護活動に必要な知識と技術について教授する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康障害の種別ごとの健康課題と公衆衛生看護活動について理解する。</li> <li>対象別の保健医療福祉制度の活用方法を理解する。</li> <li>対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。</li> </ul>					
授業の概要	健康障害の種別ごとの活動として、精神保健福祉、感染症予防、健康危機管理、災害時の保健師活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師としての具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。					
授業の計画	1 地域精神保健活動の歴史 2 地域精神保健活動①予防と早期発見 3 地域精神保健活動②受療から回復期 4 地域における自殺予防対策について 5 ゲートキーパー養成活動 6 触法精神障がい者への支援 7 睡眠と健康 8 睡眠保健指導について 9 感染症保健の動向 10 感染症保健施策と保健師活動 11 結核の基本知識 12 結核に対する保健師活動 13 結核集団感染発生時の保健活動 14 新興感染症について 15 新型インフルエンザ対策		16 HIV/AIDSの動向 17 HIV/AIDSに対する保健師活動 18 Covid-19感染症の動向 19 Covid-19に対する公衆衛生活動 20 Covid-19に対する保健師活動 21 新興感染症について 22 集団施設における感染症対策 23 腸管出血性大腸菌感染症について 24 大規模食中毒発生時の保健活動 25 健康危機管理とは 26 保健所における健康危機管理業務 27 災害時の健康危機管理 28 災害時の公衆衛生看護活動 29 災害時の健康課題とその予防 30 まとめ			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30分	
授業の留意点	授業の順番は上記とは異なる場合もあり、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。					
学生に対する評価	試験 100点により評価する。レポート等の提出を求める場合は評価に含める。					
教科書（購入必須）	対象別公衆衛生看護活動（医学書院）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅳ		担当教員名	播本 雅津子・井上 靖子・野口 直美		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>担当教員はそれぞれ保健所保健師・養護教諭・産業保健師の経験を有している。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここでは活動の場ごとの公衆衛生看護活動に必要な知識と技術について教授する。</p>					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業保健および学校保健の概要について理解する。</li> <li>・労働者の後口調と健康課題および産業保健師活動について理解する。</li> <li>・児童・生徒の特長と健康課題について理解する。</li> <li>・学校保健における養護教諭の活動について理解する。</li> <li>・地域の保健師と、養護教諭や産業保健師との協働について理解する。</li> </ul>					
授業の概要	<p>講義と演習を組み合わせながら進める。産業保健および学校保健に関する理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校保健の概要</li> <li>2 養護教諭の職務</li> <li>3 学校の目的・教育職の役割</li> <li>4 学校保健に関する法体系</li> <li>5 学童期・思春期における発達課題と健康</li> <li>6 発達障害における課題と教育支援</li> <li>7 学校保健計画と保健室経営</li> <li>8 疾患をもつ児童・生徒の健康管理</li> <li>9 児童虐待の早期発見と学校における取り組み</li> <li>10 児童・生徒の健康管理①（健康相談）</li> <li>11 児童・生徒の健康管理②（健康診断）</li> <li>12 感染症と学校保健</li> <li>13 自治体保健師と学校保健の関わり</li> <li>14 学校保健まとめ</li> <li>15 産業保健の役割と意義</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>16 産業保健の歴史</li> <li>17 産業保健行政</li> <li>18 労働安全衛生法</li> <li>19 社会における労働と健康</li> <li>20 労働衛生統計</li> <li>21 産業保健の組織的展開</li> <li>22 労働環境対策</li> <li>23 産業保健におけるメンタルヘルス対策</li> <li>24 ストレスチェックと保健活動</li> <li>25 労働安全衛生マネジメント</li> <li>26 安全衛生計画・産業保健計画の策定</li> <li>27 特殊健康診査</li> <li>28 特定健康診査・特定保健指導</li> <li>29 外国人労働者の健康課題</li> <li>30 産業保健まとめ</li> </ol>			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30分	
授業の留意点	<p>3人の教員によるオムニバス授業である。2本立てで進行するため順番は上記とは異なり、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。</p> <p>遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。</p>					
学生に対する評価	<p>試験 100点により評価する。試験は教員毎に実施する。各試験で60点以上取ること。</p>					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護活動Ⅱ 医歯薬出版株式会社					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護管理論		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護管理に必要な知識について学習した上で、地域診断に基づく情報から事業計画策定までの一連の過程について総合的に学習する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の人事管理・現任教育などについて理解できる。</li> <li>・健康な地域づくりを目指した保健活動計画の策定・実施・評価のプロセスについて理解する。</li> <li>・地域住民の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援するための保健師の基本姿勢を理解する。</li> </ul>					
授業の概要	講義を主軸に演習を取り入れながら進める。保健師教育の最終段階の科目として実習での実地体験および就業時のイメージを高めるよう工夫して授業を進める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆衛生看護管理とは</li> <li>2 人材育成・人事管理</li> <li>3 統括保健師について</li> <li>4 保健福祉計画の策定について</li> <li>5 総合計画・基本計画・実施計画</li> <li>6 業務管理</li> <li>7 保健事業の評価</li> <li>8 様々な評価方法</li> <li>9 統計資料の種類と活用方法</li> <li>10 演習：統計資料から健康課題を抽出する① データ収集</li> <li>11 演習：統計資料から健康課題を抽出する② データ分析</li> <li>12 演習：統計資料から健康課題を抽出する③ 資料作成</li> <li>13 演習：統計資料から健康課題を抽出する④ 健康課題の抽出</li> <li>14 報告会 各地域の健康課題</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30分	
授業の留意点	これまで公衆衛生看護学で学習した内容を復習しながら取り組むとより一層の成果が得られるため、予習復習を心掛けること。					
学生に対する評価	試験 100点により評価する。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護学実習 I		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。 公衆衛生看護学実習 I では保健師活動の基本となる個人・家族への保健指導および集団・組織等への保健指導について実習施設の指導者より対象者の紹介を受けて実施する。					
学習到達目標	個人・家族の健康課題の解決に向けて実施する家庭訪問の一連の過程を複数の事例に実施すること、および集団への健康教育を複数回実施し、その技術を習得すること、家庭訪問や健康教育は地域の健康課題の解決の方法の1つであることを理解することを目標とする。					
授業の概要	市町村で実習を行う。臨地において指導保健師の協力の下、家庭訪問および健康教育を実施する。内容は公衆衛生看護学実習Ⅱと連動するため、この2科目の実習は継続した日程で実施する。家庭訪問は継続的な取り組みを目指し、面接と家庭訪問、健康教育と家庭訪問、継続訪問など、同じ事例に複数回関わる。健康教育は企画・実施・評価の一連の過程に取り組む。					
授業の計画	1 臨地オリエンテーション・家庭訪問事例紹介<事例1・事例2> 2 事例1 指導者同行訪問・事例2 学生ペア訪問 3 事例1 学生単独訪問・事例2 継続訪問 4 訪問カンファレンス 5 事例検討会 6 健康教育見学・参加 7 健康教育準備・デモンストレーション 8 健康教育1 実施および評価 9 健康教育2 実施および評価 10 公衆衛生看護学実習 I カンファレンス					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習時間以外にも教員に個別指導を受けること。			45 分	
	復習					
授業の留意点	実習は日頃の学習の成果を最大活用して学習する場です。日々の学習および実習事前学習に丁寧に取り組む、実習期間中は積極的な態度で実習に臨みましょう。					
学生に対する評価	実習要項に評価表を示す。具体的な視点についてオリエンテーションで説明する。					
教科書（購入必須）	なし					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護学実習Ⅱ		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	4年	単 位 数	3単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。 公衆衛生看護学実習Ⅱでは保健所と市町村それぞれの活動について理解するとともに、地域診断を基盤とした公衆衛生看護管理および健康相談事業について学習する。					
学習到達目標	保健所の担う公衆衛生看護活動および保健所保健師の役割を理解する。 地域の健康問題を組織的に解決する方法を理解する。 地域保健活動における機関や職種の連携について理解する。					
授業の概要	保健所および市町村にて実習を行う。市町村での実習は公衆衛生看護学実習Ⅰと連動するためこの2科目の実習は継続した日程で実施する。保健所実習では公衆衛生の専門機関である保健所の機能および各専門職の役割を理解した上で保健所保健師活動の実際を学習する。市町村実習では、健康相談、地区組織活動、公衆衛生看護管理等、多様な活動について学習する。保健所実習は7～8人、市町村実習は2～4人のグループに分かれる。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健所の機能と役割</li> <li>2 保健所で働く様々な職種の理解</li> <li>3 保健所保健師の活動</li> <li>4 保健所保健師活動の実際1（家庭訪問・事例検討等）</li> <li>5 保健所保健師活動の実際2（集団指導・他機関連携等）</li> <li>6 市町村保健活動の概要</li> <li>7 地域診断1（既存資料からの情報収集・地区踏査）</li> <li>8 地域診断2（関係職種および住民へのインタビュー）</li> <li>9 地域診断3（分析・健康課題の抽出）</li> <li>10 地域診断4（事業計画策定・保健計画の見直し）</li> <li>11 健康相談1（母子保健）</li> <li>12 健康相談2（成人保健）</li> <li>13 健康相談3（高齢者保健）</li> <li>14 健康相談4（地区組織活動）</li> <li>15 公衆衛生看護学実習Ⅱカンファレンス</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習時間以外にも教員に個別指導を受けること。			45分	
	復習					
授業の留意点	実習は日頃の学習の成果を最大活用して学習する場です。日々の学習および実習事前学習に丁寧に取り組み、実習期間中は積極的な態度で実習に臨みましょう。					
学生に対する評価	実習要項に評価表を示す。具体的な視点についてオリエンテーションで説明する。					
教科書（購入必須）	なし					
参考書（購入任意）						

科 目 名	助産学概論		担当教員名	加藤 千恵子・常田 美和・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学の概観を教授する科目					
学習到達目標	<p>助産の基本概念を助産の歴史・文化からその意義を捉え、助産の対象、原理原則、役割、ケアと支援、職性と業務、倫理、助産師としてのアイデンティティや自律について理解する。</p> <p>母性保護の変遷と母子保健について助産師のあり方と将来を展望する。また、助産師教育（研究）や諸外国の助産師教育を学ぶ。</p>					
授業の概要	<p>助産実践の基礎となる助産の概念、理論を理解し、女性のライフサイクルに応じた性と生殖に関する女性の健康を支える助産師としての能力を養う。社会的責務を遂行するための助産師の役割や業務範囲、関係する法的基盤を理解する。助産ケアの基盤となる概念として、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史的背景、国内外の動向を学修する。</p> <p>助産の現状と動向、母子保健の変遷、助産師の責務、職業倫理、諸外国の動向を学修し、これからの助産学の方向と助産師のあり方について考える。</p>					
授業の計画	<p>1-3 助産の概念の変遷 リプロダクティブヘルス/ライツ・ジェンダー・性差医療 助産の定義・対象 助産の倫理 助産師の自律 助産学を支える理論：危機理論、セルフケア理論、アタッチメント理論</p> <p>4-6 助産の歴史（産育習俗の変遷）</p> <p>助産師教育 わが国における助産師教育の変遷 諸外国の助産師教育</p> <p>9-12 助産師に関わる関連法規 時代背景・母子保健施策に沿った理解 周産期各期に沿った理解</p> <p>13-14 産科医療の現状と今後の展望 助産師活動と将来</p> <p>15 まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	助産の概念や理論などの関係した章を読み込む。			45 分	
	復習	授業の内容のポイントをまとめる。			45 分	
授業の留意点	助産学を学ぶ上で根幹となる授業の 1 つです。科学的根拠に基づく助産実践について学びましょう。					
学生に対する評価	プレゼンテーション内容等（50%）、グループワークの発表内容（10%）、課題レポート（40%）にて総合的に評価する。					
教科書（購入必須）	我部山キヨ子武谷 雄二編集 助産学講座 1 助産学概論 第 5 版 医学書院 小海正勝編：新版 助産師業務要覧 1 基礎編 第 2 版 日本看護協会出版会 小海正勝編：新版 助産師業務要覧 2 実践編 第 2 版 日本看護協会出版会					
参考書（購入任意）						

科 目 名	リプロダクティブヘルス		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、リプロダクティブヘルスの概観を教授する科目					
学 習 到 達 目 標	周産期および Reproductive Health Rights の視点におけるライフサイクル各期の健康課題の特性や健康課題を解決するための概念・理論・最新の知見を活用して、助産・母性看護学領域の対象者への看護のあり方を考察する。					
授 業 の 概 要	<p>生殖器の形態・機能的特性、遺伝と遺伝疾患、性の分化と発達、胎児の発育・胎盤機能、母子と免疫など、助産学の基礎になる科学について学修する。</p> <p>女性の健康、性と生殖に関する健康に関する最新のエビデンスおよび社会的背景を学修する。</p> <p>思春期から老年期の女性のライフサイクルにおける健康問題や性と生殖の問題に対し、援助を行うための基本的知識を学修する。</p> <p>思春期では性感染症や性行動、セクシャリティ、やせ、月経問題について、成熟期では月経障害、不妊、家族計画、ドメスティックバイオレンスについて、更年期では更年期障害、子宮筋腫について学修する。</p>					
授 業 の 計 画	<p>1 科目概説、母性看護学の変遷と歴史</p> <p>2 ヘルスプロモーション理論、母親役割理論、母子相互作用、家族システム理論、親になるプロセス、Attachment に関する理論と研究</p> <p>3 子保健、リプロダクティブヘルス・ライツ、家族関係、生涯発達、ジェンダー等、周産期における妊産婦と家族の心理、周産期のメンタルヘルス</p> <p>4 Empowerment/Resilience</p> <p>5 母子保健活動の現状と課題、社会（日本と世界の現状）の在りよう、健やか親子 21 報告書、母性領域における統計資料等を分析、評価することができる</p> <p>6-8 周産期ケアと諸問題；出産の意味について考え、助産外来、院内助産、助産ケアと EBM について概説できる</p> <p>9-11 個々のテーマを決め、文献学習・プレゼンテーションを実施できる。母性・助産領域における各自の問題意識を基に今後の課題を報告できる。</p> <p>12 ハイリスク新生児と家族の支援に関する理論と研究</p> <p>13-14 子育て支援・子ども虐待予防・家族生成期に関する理論と研究 親子関係に関する理論と研究</p> <p>15 周産期におけるリプロダクティブヘルスの課題</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各テーマに関する情報収集などの準備。				45分
	復習	授業を振り返りポイントをまとめる。				45分
授業の留意点	母性看護学概論でのリプロダクティブヘルス・ライツの項目に関して復習し、助産学概論など並行して学び、不足した部分は復習しましょう。					
学生に対する評価	発表資料およびレポート（60点）、討議内容と討議参加度（40点）により評価する。					
教科書（購入必須）	特に定めない。必要資料は提示。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	妊娠期・分娩期の診断とケア		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、妊娠期分娩期のケアを教授する科目				
学習到達目標	妊産婦の正常経過を理解し、妊産婦へのケアを習得できる。 妊産婦の異常を予測し、逸脱予防の保健指導ができる。 ハイリスク妊娠・分娩を学び、診断に必要な基礎知識を持ち、ケアができる。				
授業の概要	妊婦の健康状態及び妊娠経過に関わる助産診断、妊婦の援助技術、妊娠期の異常と異常経過における妊婦のケアを学修し、妊婦に対して適切な助産診断と援助技術を実践できる基礎的能力を養う。 妊娠期の母体の生理的機能を学修し、妊婦と胎児の正常経過と異常を判断し、健康を支える必要な基本的知識（妊婦健康診査や保健指導含む）を学修する。 ハイリスク妊婦へのアセスメントとケアを学修する。 助産診断の意義、対象の理解に必要な概念を学び、妊娠期の診断・アセスメント・助産ケア立案・助産技術を修得する。 産婦の健康状態と分娩経過の助産診断、産婦の援助技術と分娩助産技術を学修し、産婦に適切な助産診断と分娩助産を含む助産技術を実践できる基礎的能力を養う。 分娩期の母体の生理的機能、正常経過と異常（ハイリスクを含む）の診断に必要な基本的知識を学修する。 分娩助産、主体性を尊重した産婦や家族への支援、異常分娩や産科医療処置等を学修する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産師が行う妊娠期のケア 妊娠期とは、妊娠期ケアの理念、妊婦（胎児）の全人的アセスメント、妊娠期ケアの特徴</li> <li>2 妊娠の整理と確定診断 妊娠の成立、妊娠の早期診断、妊娠に伴う全身の変化、胎児の発育と器官形成、胎児付属物</li> <li>3 妊娠経過と産科学的診断 妊娠経過の診断、妊娠に関連した検査、出生前検査とスクリーニング、血液型不適合に関する検査、母子感染症に関する検査、胎児の発育の診断、胎児モニタリング</li> <li>4 妊婦の心理社会的側面のアセスメント 日常生活状況、セルフケア・親になること・出生準備に関する・家族機能に関するアセスメント</li> <li>5 妊娠経過に対応したケア 妊娠経過のアセスメントとケア、異常の早期発見と予防、妊娠初期・中期・後期のアセスメントとケア</li> <li>6 妊娠の日常生活におけるケア マイナートラブル、不安など否定的な感情へのケア、食・衣・住生活、運動と安静、性生活</li> <li>7 妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 初産婦とその家族の親準備のケア、経妊婦と家族のケア、出産準備教育</li> <li>8 助産師が行う分娩期のケアの基本 助産師が行う分娩期的な考え方</li> <li>9 分娩経過の診断に必要な知識 分娩の概念、分娩の3要素、分娩経過と所要時間、分娩の機序、分娩が母体・胎児に及ぼす影響</li> <li>10 分娩経過の診断・アセスメントの視点 分娩開始の診断、分娩の3要素の関連性、娩出力の状態、産道および胎児の下降度の状態、胎児の発育・健康状態、胎児付属物の状態、産婦の心理的、社会的、文化的な状態</li> <li>11 分娩経過に伴う診断・アセスメントと助産過程の展開 分娩期の診断・アセスメントの特徴と助産過程の展開、入院時の診断・アセスメントとケア、分娩第1期、第2期、第3期、第4期の診断とアセスメントとケア</li> <li>12 分娩助産技術(1) 分娩助産の意義と原理、分娩助産に伴う技術</li> <li>13 分娩助産技術(2) 分娩体位と分娩助産法、胎児付属物の精査と計測</li> <li>14 分娩助産技術(3) 出生直後の新生児のアセスメント、新生児蘇生</li> <li>15 正常経過逸脱の予測と予防 身体的側面、緊急事態への対応準備</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の内容の読み込みを行う。			45分
	復習	授業の内容を振り返り、ポイントをまとめる。			45分
授業の留意点	学部内または看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。				
学生に対する評価	課題提出 (30%)、試験 (70%) により評価する。				
教科書 (購入必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師基礎教育テキスト 2021年版 第4巻 妊娠期の診断とケア 森恵美 (日本看護協会出版会)</li> <li>・分娩期の診断とケア 2017年度版 第5巻 分娩期の診断とケア 第5巻 町浦美智子 (日本看護協会出版会)</li> </ul>				
参考書 (購入任意)					



科 目 名	産褥期・新生児期の診断とケア		担当教員名	加藤千恵子・澤田優美・渡邊友香	
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学 習 到 達 目 標	1. 褥婦の身体的、心理・社会的側面が理解できる。 身体的には分娩の影響や既往歴や合併症の有無などを視野に入れながら進行性変化、退行性変化が理解でき、適切なケアを展開できる。 心理的には分娩に関する満足度や褥婦経過における育児困難感の影響を考え、褥婦のニーズとセルフケア状態を確認し、客観的指標（エジンバラなど）を活用し、精神状態の観察ができる。 社会的には、サポート状態と社会資源の確認を行い、褥婦のニーズを把握し、総合的に産後の健康に関するアセスメントができる。 2. 新生児の胎外生活への適応を促進できる基礎知識と技術が理解できる。				
授 業 の 概 要	褥婦の健康状態及び産褥経過に関わる助産診断、褥婦の援助技術を学修し、褥婦に適切な助産診断と助産技術が実践できる基礎的能力を養う。乳房管理、母乳育児支援を含む。 褥婦の身体的、心理的、社会的側面から助産診断を行い、助産過程に必要な能力を学修する。 産褥期の助産技術の知識と助産技術が必要となる過程を学修し、実践技術を習得する。 産後うつなどのハイリスク褥婦の支援を学修する。 新生児の健康状態及び胎外生活への適応過程に関わる助産診断、新生児の援助技術、新生児の異常と異常経過における診断・ケアについて理解し、適切な助産診断と助産技術を実践できる基礎的能力を学ぶ。 新生児の生理的機能、成長発達過程を理解し、的確に助産診断できるように学修する。 ハイリスク新生児への支援について学ぶ。				
授 業 の 計 画	1-7 産褥期のケア 1. 助産師が行う産褥期のケア 2. 産褥期の適応とアセスメント 3. 褥婦のニーズとセルフケア 4. 母乳育児支援 5. 親子の絆とアタッチメントの形成 6. 家族計画 8-15 新生児のケア 1. 助産師が行う新生児期・乳幼児期のケア 2. 新生児の適応生理 3. 新生児のフィジカルイグザミネーション 4. 新生児のニーズとケア 5. 乳幼児の発達と健康診査				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各関連の章を読み込む。			45 分
	復習	授業内容を振り返りポイントをまとめる。			45 分
授業の留意点	母性看護活動論Ⅱの産褥期、新生児期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しましょう。				
学生に対する評価	課題レポート（15%）、試験（70%）、課題提出（15%）により評価する。				
教科書（購入必須）	助産師基礎教育テキスト 2022年版 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア（日本看護協会出版会） 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2 森恵美（医学書院）				
参考書（購入任意）					

科 目 名	助産診断・技術学演習 I (妊娠期)		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目				
学習到達目標	ME 機器を用いた諸検査 (胎児心拍モニタリング・超音波診断検査など)、今後、助産師に必要な発展的な知識・技術を学習する。助産を系統的に行うための診断技術の理論と実際を学ぶ。具体的には次の通り。 ①助産診断過程に必要な概念や基礎理論 ②助産過程の展開方法 ③周産期における経過診断 ④正常からの逸脱を発見するための診査・診断の原理・目的・過程・援助方法				
授業の概要	妊娠期の援助を行うために必要な技術を修得する。 妊婦健康診査技術、基本的な超音波画像診断技術、妊娠期の生活支援等について修得する。 出産準備クラスの企画・運営についても学修する。				
授業の計画	1 1. 助産診断の概念と枠組み (1) 2 1. 助産診断の概念と枠組み (2) 3 2. 妊娠期の診断とケア 1) 妊娠の生理、心理・社会的な変化 4 2) 心理・社会的な診断・ケア 5 3) 妊娠経過と助産診断 6 4) フィジカルアセスメント 7 5) 日常生活の適応とマイナートラブル 8 6) 助産ケアと保健指導 9 7) ハイリスク・異常妊婦の診断・ケア 10 8) 妊娠期の助産過程 11-12 3. 妊娠期の助産診断 (フィジカルアセスメント) に必要な専門技術 1) 妊娠期の検査法 2) 妊娠期の薬剤 3) 産科手術 13-14 4. 妊娠期の助産ケア・保健指導の実際 15 5. 妊産褥婦のケアに必要なカウンセリング技術				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込み。			45 分
	復習	授業を振り返り、ポイントのまとめを行う。			45 分
授業の留意点	助産学を学ぶ上で根幹となる授業の 1 つです。確実な知識や診断能力を訓練し、根拠に基づく助産ケアを提供できるように学修していきましょう。				
学生に対する評価	試験 (80%)、GW レポート (20%) により評価する。				
教科書 (購入必須)	横尾京子編：助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1] 妊娠期第 5 版 医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編：産婦人科診療ガイドライン (産科編 2020) 日本産科婦人科学会				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅱ（分晩期）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目					
学習到達目標	助産診断・技術学Ⅰで学んだ対象理解・助産診断・助産技術・助産ケアの考え方をもとに、助産実践に必要な専門的技術を修得する。また、ME 機器を用いた諸検査（胎児心拍モニタリング・超音波診断検査など）、会陰切開・縫合など、今後、助産師に必要なとなる発展的な知識・技術を学習する。 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産診断に必要な専門的技術を学習し、実践できる。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産ケア・保健指導の実際を理解し、実践できる。 3. ME 機器を用いた諸検査について理解し、実践できる。					
授 業 の 概 要	助産診断・技術学Ⅱで学んだ理論や知識をもとに、分晩期の援助を行うために必要な助産診断および分娩介助技術、出生直後の児のケアや技術を修得する。 ハイリスク分娩時の介助技術や会陰裂傷縫合術、産科危機的出血時の対応等について理解する。 分晩期における診断・アセスメント・助産ケア立案・分娩介助にかかわる基本的な助産技術を修得する。					
授 業 の 計 画	1 1. 分晩期の診断とケア 1) 分娩に関連する概念、分晩期の助産診断 2 2) 分娩の3要素と分娩機転 3 3) 正常分娩の経過と母子に及ぼす影響 4 4) 分晩期における心理・社会的変化 5 5) 分娩介助法 6 分娩介助法、付属物の検査と計測、出生直後の新生児のケア 分娩第4期の母児のケア（早期接触、初回直母） 7 7) 分晩期のフィジカルアセスメント 8 8) 分晩期の助産診断 9 9) 正常からの逸脱	10 10) 異常の診断とケア 11 11) 産科麻酔・麻酔分娩 12 12) 急遂分娩術の適応・禁忌（吸引・鉗子分娩、帝王切開など 13-16 2. 分晩期の助産診断（フィジカルイグザミネーション）に必要な専門技術 17-18 分晩期の助産診断（フィジカルイグザミネーション）に必要な専門技術、3. 分晩期の検査と薬剤 19-21 4. 分娩介助に必要な専門技術（フリースタイル分娩技術） 22-23 5. 産科手術、処置 会陰縫合術の実際（医師）6. 救急処置 24-42 7. 分娩介助技術演習				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込み。			45 分	
	復習	授業の振り返りとポイントのまとめ。			45 分	
授業の留意点	助産学を学ぶ上で根幹となる授業の1つです。確実な知識や診断能力を訓練し、根拠に基づく助産ケアを提供できるように学習していきましょう。					
学生に対する評価	筆記試験（30%）、実技試験（70%）により評価する。					
教科書（購入必須）	我部山キヨ子他編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分晩期・産褥期 第5版 医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編：産婦人科診療ガイドライン（産科編 2020）日本産科婦人科学会 細野茂春監：日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく 新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社					
参考書（購入任意）						

科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅲ（産褥期・新生児期）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目				
学習到達目標	産褥、新生児ケアを系統的に行うための技術の理論と実際を学ぶ。具体的には次の通り。 ①産褥・新生児期に必要な概念や基礎理論 ②産褥・新生児期の看護過程の展開方法 ③産褥・新生児期における経過診断 ④正常からの逸脱を発見するための診査・診断の原理・目的・過程・援助方法				
授業の概要	産褥・新生児期のケアで学んだ知識・技術をもとに、産褥期、新生児期の援助を行うために必要な技術を修得する。 健康な母子に対する助産診断を行った上で必要な保健指導を主体的に行う能力を養う。 新生児においては、「新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）」の取得を目指し、実践力をつける				
授業の計画	1 1. 産褥期の診断とケア 1) 産褥の定義、産褥期の全身の変化 2 2) 産褥期の心理社会的な変化と支援 3 3) 母乳育児支援 4 4) 退院後の支援 5 5) ハイリスク・異常褥婦の診断とケア 6 6) 産褥期の助産診断 7 7) 助産ケアと保健指導 8 パンフレット作成（1） 9 パンフレット作成（2） 10 ロールプレイ（1） 11 ロールプレイ（2） 12 1) 早期新生児・新生児の生理 13 2) フィジカルアセスメント・診断 14 3) ケアの実際（新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）含む）（1） 15 ケアの実際（2）	16 ケアの実際（2） 17 ケアの実際（4） 18 ケアの実際（5） 19 ケアの実際（6） 20 4) ハイリスク・異常児の診断・ケア 21 3. 周産期における検査（医師） ・胎児の出生前診断 22 ・ME 機器による管理と評価 23 （CTG、超音波診断） 24 4. 周産期に使用される薬剤（医師） 1) 産科で行われる薬物療法（薬物効果および禁忌） 25 2) 胎児及び母乳への影響 26 各期の助産過程展開の実際（1） 27 各期の助産過程展開の実際（2） 28 各期の助産過程展開の実際（3） 29 各期の助産過程展開の実際（4） 30 助産過程展開のまとめ			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各演習内容の読み込み。			90分
	復習	演習の振り返りとまとめ。			90分
授業の留意点	新生児蘇生法については、資格取得につながる場所ですので新生児蘇生法テキストをもとに十分な学習が必要です。				
学生に対する評価	課題レポート（20%）、実技試験（80%）により評価する。				
教科書（購入必須）	我部山キヨ子他編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分産期・産褥期 第 5 版 医学書院 横尾京子編：助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 第 5 版 医学書院 NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編：母乳育児スタンダード第 2 版 医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編：産婦人科診療ガイドライン（産科編 2020）日本産科婦人科学会 仁志田博司：新生児学入門 第 5 版 医学書院 細野茂春監：日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく 新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社				
参考書（購入任意）					

科 目 名	助産過程演習		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産過程を教授する科目					
学 習 到 達 目 標	アセスメントに必要な知識、事例の情報の整理と情報分析・解釈、統合（アセスメント）ができる。事例の助産診断の導き方を理解し、助産診断の決定ができる。					
授 業 の 概 要	母児やその家族の特性を理解し、妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の事例を用いて助産過程の展開を振り返り、助産診断・実践・評価能力を修得する。					
授 業 の 計 画	1-3 産褥のアセスメントとケア 1) 初産婦の分娩期の援助 分娩第1期電話連絡時、入院時、分娩第2期、分娩第3期、分娩第4期、分娩2時間後から初回歩行まで 4-6 2) 経産婦の分娩期の援助 7-9 3) 正常から逸脱した産婦の援助 疲労性微弱陣痛、回旋異常、分娩停止による帝王切開分娩、胎児機能不全に伴う吸引分娩 10-12 4) 新生児のアセスメントとケア 生後24時間以内の新生児のケア、帝王切開で生まれた新生児のケア 13-15 5) ハイリスク産婦の新生児のアセスメントとケア 予定帝王切開を受ける産婦の援助、分娩誘発を行う産婦の援助、産科合併症によるハイリスク産婦の分娩、(妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠糖尿病から生まれた新生児ケア、早産(32-36週)産婦の援助、早産で生まれた新生児のケア、多胎分娩をする産婦の援助、多胎で生まれた低出生体重児のケア)					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込みを行う。			90分	
	復習	授業の振り返りとまとめを行う。			90分	
授業の留意点	事例展開においてウエルネスの看護診断も参考に、リスク型・ウエルネス型両面からの展開ができることが重要です。GWで討論し、全体像のイメージ力を養ってください。					
学生に対する評価	課題レポート（70%）、GWの参加度（30%）により評価する。					
教科書（購入必須）	教科書：系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2 森恵美（医学書院） 助産学実習プレブック 助産課程の思考プロセス 町浦美智子編著（医歯薬出版株式会社）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	地域・国際母子保健学		担当教員名	加藤 千恵子・常田 美和・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、地域・母子保健学を教授する科目					
学習到達目標	<p>1. 地域の特性をアセスメントして、母子の環境改善に向けた行政への関与ができる。</p> <p>2. 病院内での妊産褥婦への対応に必要な英語・中国語表現の修得ができる。</p> <p>3. 異文化コミュニケーションを迫られた時に惑わない能力の養成ができる。</p> <p>4. コミュニケーションの種類、方法について工夫することの必要性を理解できる。</p> <p>5. 国際母子保健の基本的知識について理解する。</p> <p>6. 諸外国における保健医療サービスや助産システムおよびケアの特徴を理解する。</p> <p>7. 日本と諸外国との比較から、日本の母子保健を支える助産ケアのあり方と課題を考察できる。</p>					
授業の概要	<p>地域における母子保健活動を推進するために必要な知識を学び、社会資源やソーシャルサポートを活用し、実践する幅広い能力を養う。</p> <p>国内外の地域母子保健政策や地域母子保健事業の現状や課題について学び、地域母子保健における助産師の役割を探究する。</p> <p>周産期を含めたリプロダクティブヘルスケアの地域での連携や実践活動のあり方を考える。</p>					
授業の計画	<p>1 この講義の進め方、内容・評価法などの説明、学習の仕方などのオリエンテーション</p> <p>2 地域母子保健の意義 地域概念</p> <p>3 母子保健の現状と動向</p> <p>4 母子保健をめぐる諸問題と課題</p> <p>5 日本の母子保健行政と母子保健関係法規</p> <p>6 国・都道府県・市町村の役割、母子保健行政の財源</p> <p>7 日本の母子保健制度と母子保健施策</p> <p>8 育児期；乳児健診に関するロールプレイなどを通して演習、振り返り</p> <p>9 健康診査、保健指導、療養援護、医療対策、予防接種</p> <p>10 女性のライフサイクルへの支援</p> <p>11-12 海外在住日本人の母子保健 諸外国の母子保健活動</p> <p>13 地域諸外国の母子保健活動、海外在住日本人、在日外国人の母子保健</p> <p>14-15 講師から見た外国での出産と日本の出産の現状について</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込みを行う。			45分	
	復習	授業の振り返りとポイントのまとめ。			45分	
授業の留意点	学部内または看護教育における国際看護の内容を復習し、不足な部分は復習しておくこと。ロールプレイに使用する資料作成と積極的参加が必要です。					
学生に対する評価	課題レポート(30%) 制作物(40%) 授業貢献度(30%)により評価する。					
教科書(購入必須)	我部山キヨ子編「助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健」医学書院					
参考書(購入任意)						

科 目 名	地域母子保健演習		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、地域母子保健演習を教授する科目					
学 習 到 達 目 標	地域に居住する母子の健康状態を高めるために展開する活動を通して対象理解を深め、地域の文化、生活共同体の中で生きる対象がイメージできる。居住環境を共有する住民の母子保健に関する認識と行動を知り、地域の保健や国の保健行政に及ぼす影響を知ることができる。					
授 業 の 概 要	1. 地域母子保健の概念を知り、その活動を知ることができる。 2. 地域母子保健の活動の基礎理論がわかる。 3. 地域母子保健の状態を疫学の視点から説明できる。 4. 地域母子保健の実際を知り、ネットワークづくりの大切さがわかる。 5. 地域母子保健活動が行われている場と役割の違いに着目し、各部門（開業助産師、学校、産業、市町村）の特徴が理解できる。 6. 国際的視野に立ち国際協力の活動について知り、今後のあり方を考えることができる。					
授 業 の 計 画	1 1. 地域母子保健の概念 2 2. 地域母子保健活動の軌跡 3-5 3. 地域母子保健活動の基礎理論 1) 地域母子保健活動と母子保健 2) 地域母子保健と疫学 6-11 4. 地域母子保健の実際 1) 地域の子育てネットワーク作り 2) 開業助産師による母子保健活動 3) 学校保健における母子保健活動 4) 産業保健における母子保健活動 5) 市町村における母子保健活動 12-14 5. 国際協力活動の実際 1) ブラジルにおける国際協力活動 2) ベトナムにおける国際協力活動 15 まとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込みを行う。			45分	
	復習	授業の振り返りとポイントのまとめ。			45分	
授業の留意点	地域・国際母子保健と共通するものがあります。併行して学習しましょう。					
学生に対する評価	課題レポート（60%）、GWにおける参加度（20%）、講義課題の提出（20%）により評価する。					
教科書（購入必須）	助産学大系 地域母子保健 日本看護協会出版会					
参考書（購入任意）						

科 目 名	助産管理学		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産管理を教授する科目					
学習到達目標	<p>助産業務管理に必要な知識、法的範囲と責任について理解し、助産管理の基礎を学修する。助産施設のマネジメントとしての管理、運営、役割などを学ぶと共に、周産期医療を取り巻く助産管理の実際を、さまざまな助産活動の場を通して理解する。また病院・地域との連携とシステム、医療事故等について学び、リスクマネジメントの視点からも理解を深める。</p> <p>加えて、助産サービスの評価、助産管理に必要な社会保障制度および助産所の管理運営の基本を学修する。</p> <p>諸外国の助産師についても学ぶ。</p>					
授業の概要	<p>助産管理の基本概念、助産業務に関連する法規を理解し、助産管理を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>周産期管理システムの運用と地域連携、助産所・診療所及び産科病棟の管理運営について学習する。</p> <p>周産期の医療事故と予防対策、災害時の助産管理のあり方を学び、助産師の危機管理について理解する。</p> <p>助産管理の視点から助産師の専門性を考える。</p>					
授業の計画	<p>1 助産管理の基本 助産管理の概念（助産業務・助産管理の定義・特性）</p> <p>2-3 助産管理と関係法規（医療法、保健師助産師看護師法、医師法、母子保健法、母体保護法、児童福祉法、地域保健法、戸籍法、刑法、民法、労働法、助産師の法的責任と業務就業規則）、助産師の法的責任と義務</p> <p>4-5 周産期管理システム/病院における助産管理 新生児集中治療室、母体搬送システム、オープンシステム 周産期医療と助産管理（MFICU/NICU）</p> <p>6-7 医療事故とリスクマネジメント</p> <p>8-10 病院における助産業務管理の過程と方法、産科等の管理（院内助産含む）、外来の助産管理（助産師外来）、感染管理</p> <p>11-13 助産所における助産業務管理 管理と実際・助産所の形態、法的な業務範囲と責務、職業的・社会的責務（ガイドラインに基づく運営管理、業務内容、リスクマネジメント、地域連携、地域母子保健活動等）</p> <p>14-15 災害時における助産活動、避難所における助産師の役割（災害時演習）</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込みを行う。			45分	
	復習	授業の振り返りとポイントのまとめ。			45分	
授業の留意点	助産管理の基本学び、さらに、助産管理の実際（含医療事故防止・対応）を病院・助産院等の助産活動の場を通して理解していく。実習の場では、この視点でも見てくること。					
学生に対する評価	プレゼンテーション内容（10%）、グループワークの内容（10%）、課題レポート（80%）で評価する。					
教科書（購入必須）	<p>我部山キヨ子編：助産学講座 10 助産管理 第 5 版 医学書院</p> <p>日本助産師会編：助産所開業マニュアル 日本助産師会</p> <p>成田伸編：助産師基礎教育テキスト第 3 巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版</p> <p>山本あい子編：助産師基礎教育テキスト第 1 巻 助産概論 日本看護協会出版</p>					
参考書（購入任意）						



科 目 名	助産学実習 I (妊娠)		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目				
学習到達目標	周産期ケアから女性の健康支援まで幅広くリプロダクティブヘルス/ライツに関わる助産師としての役割を明確にする。妊娠期の対象理解を進め、妊婦健康診査におけるケアを通して正常経過と逸脱、正常経過へと向けたケアや保健指導ができ、妊婦とその家族などへの支援を学ぶ。 目標 1. 正常な妊娠経過をたどる母児と家族に対する基本的な助産実践について理解できる。 2. 女性の健康に関する援助の実際と助産師の役割について考察できる。 3. 助産師像を明確に描くことができる。				
授業の概要	妊婦の健康診査と保健指導を実践できる能力、妊婦の健康診査結果、異常への逸脱徴候について判断できる能力など、妊婦とその家族に対する助産診断及び援助技術を習得する。 妊婦とその家族のセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。集団指導の健康教育を含む。 助産師外来においては、正常妊婦の経過を診断し、well-being のための相談・教育を行える診断技術を修得する。				
授業の計画	1 実習目標 1. 妊婦について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断ができる。 2. 妊婦健康診査において、妊娠経過の正常からの逸脱を予測し、異常の早期発見、マイナートラブルに関するケアが提供できる。 3. 提供したケアを評価し、自己の課題を明らかにし、次のケアに活かすことができる。 4. 事例の受け持ちを通して、アセスメントし、妊娠期の個別的な援助を提供できる。 (妊婦を受け持ち、継続事例1例を含む)。 2 実習内容 1. 妊婦健康診査の経過 (問診、触診、視診など)、血液検査、尿検査、血圧測定、浮腫の観察、モニタリング、エコー診断、一連の流れを経験する。 2. 妊婦の受け持ちを通して、保健指導の実際を学ぶ (マイナートラブル、合併症に関して)、入院の準備、両親学級などの準備教育に関わり、妊娠期に必要とされる妊婦への教育内容を経験する。妊婦健康診査における観察及びケア、状況に応じて、帰院までの妊婦のケアを行う。 3 実習の展開方法 1. 承諾が得られた妊婦を受け持ち、妊婦健診の一連の流れを経験する。 ケアの振り返り、アセスメントを行う。 2. 実習内容については臨地実習指導者と相談の上決定し、実習計画の発表、実習内容調整・報告をしながら、自主的にケアに入る。 3. 受け持ち対象者が異常に移行した場合は、臨地実習指導者の指示に従い、直接的ケアは中断し見学とする。受け持ち対象者に行われている援助について見学を通して学ぶ。 終了後、臨地実習指導者、そして教員と振り返りを行い、その診断や行われていた援助について整理する。 4. 受け持ち事例の評価を1例ごとに、到達目標に照らし合わせた振り返りを教員と共にを行い、自己課題あるいは目標を明確にする。				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	助産学実習関連の全ての資料を活用して準備する。 看護基礎教育における母性看護学での妊娠期の看護展開を復習しておくこと。 この実習で、妊娠6か月以降の受け持ち事例の中から継続事例1例を確保する。				
学生に対する評価	実習レポート (20%)、実習内容 (70%)、実習態度 (10%) により評価する。				
教科書 (購入必須)	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2 森恵美 (医学書院) 実習要項、資料配布等にて提示。 日本助産診断・実践研究会編：実践マタニティ診断 医学書院 日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック 医学書院				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	助産学実習Ⅱ（分晩・産褥・新生児期）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	6 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目					
学 習 到 達 目 標	<p>妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断を行い、立案した計画に沿って、対象者の分娩介助およびケアを実践する。さらに提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明らかにすることで、次の助産に活かしていく。事例の受け持ちを通して、分娩期から産褥・新生児期まで継続した、個別的な援助を提供する。</p>					
授 業 の 概 要	<p>正常分娩の介助技術の修得、産婦やその家族の主体性を尊重した助産ケアの提供、正常・異常を診断するための実践能力を養う。</p> <p>助産ケアの実際を通して、妊産褥婦のセルフケア能力を高め、新生児の母体外生活の適応をはかる助産実践能力を修得する。主に病院や診療所において、正常な経過をたどる産婦の入院から退院までを受け持ち、助産計画に沿って分娩介助を 10 例実施する。</p>					
授 業 の 計 画	<p>1 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断ができる。</li> <li>助産診断に基づいて計画を立案し、対象者の分娩介助およびケアが提供できる。</li> <li>提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明らかにすることで、次の助産に活かすことができる。</li> <li>事例の受け持ちを通して、分娩期から産褥・新生児期まで継続した、個別的な援助を提供できる。</li> </ol> <p>2 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>産婦を受け持ち、助産過程の展開を用いて正常分娩の介助を 10 例程度実践する（長期継続事例含む）。</li> </ol> <p>3 実習の展開方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>妊産婦を分娩第 1 期から受け持ち、入院時の援助・分娩各期の観察及びケア（分娩介助含む）・褥室への移送・分娩後 2 時間後の新生児の健康診査、状況に応じて、退院時までの母児のケアを行う。</li> <li>受け持ち助産実習中に受け持ち産婦がいない時は、間接介助の待ち時間等を利用して、今まで受け持った産婦へのケア（分娩の振り返り、産褥・新生児へのケア等）に入る。実習内容については臨地実習指導者と相談の上決定し、実習計画の発表、実習内容調整・報告をしながら、自主的にケアに入る。</li> <li>受け持ち対象者が異常に移行した場合は、臨地実習指導者の指示に従い、直接的ケアは中断し見学とする。受け持ち対象者に行われている援助について見学を通して学ぶ。終了後、臨地実習指導者、そして教員と振り返りを行い、その診断や行われていた援助について整理する。</li> <li>受け持ち事例の評価を 1 例ごとに、到達目標に照らし合わせた振り返りを教員と共に行い、自己課題あるいは目標を明確にする。</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	<p>学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。</p> <p>学部内または看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。</p>					
学 生 に 対 す る 評 価	実習レポート（20%）、実習内容（80%）により評価する。					
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>実習要項、資料配布等にて提示。</p> <p>日本助産診断・実践研究会編：実践マタニティ診断 医学書院</p> <p>日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック 医学書院</p>					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）						

科 目 名	助産学実習Ⅲ（継続事例）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目				
学習到達目標	妊娠中期から妊婦を受け持ち、妊娠期から分娩期および産後1か月までの、継続した助産ケアを行う。 具体的には以下の通り。 ①妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 ②妊娠経過をふまえて個別的な助産計画を立案し実施する。 ③退院後の母児への援助や家庭訪問の必要性についてもアセスメントし、必要なケアを実施する。 ④新生児の出生直後から生後1か月の家庭訪問までの経過について、助産診断と必要なケアを実施する。				
授業の概要	妊娠中期から出産後1か月までの長期にわたって1事例を受け持ち、継続事例の観察と援助を行い、継続した助産ケアの実際を通して、対象とその家族へのセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。 実習目標				
授業の計画	1 実習目標 1. 妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 2. 妊娠経過をふまえて個別的な助産計画を立案し、実施できる。 3. 退院後の母児への援助が考えられる。 4. 家庭訪問の必要性が考えられる。 2 実習内容 1. 妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 2. 妊娠中期から妊婦を受け持ち、分娩介助から産後1か月までの継続したケアを実施する。 3 実習の展開方法 1. 妊娠期の助産診断を各健診毎に実施し、必要な助産計画の立案、実施を行う。 ・受け持ち妊婦へのケアは助産計画立案のもと行う。 ・助産計画や保健指導は、事前に教員および臨床指導者の確認を得て実施する。 ・妊娠期のサマリーは、分娩に至った段階で実施する。 2. 受け持ち対象者への援助を最優先して行う。受け持ち対象者が異常に移行した場合、臨地実習指導者の指示に従い、可能な範囲で援助を実施する。				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内又は看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。				
学生に対する評価	実習レポート（20%）、実習内容（80%）により評価する。				
教科書（購入必須）	実習要項、資料配布等にて提示。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	ハイリスク状態にある母児の特徴や援助、周産期の新生児医療システムの現状や課題についての理解を深めるために、NICUにおけるハイリスク母児のケアの見学実習を通して学ぶ。新生児・乳児および母親への健康診査や保健指導等、地域社会で生活する母子に対する継続支援の実際を学ぶ。				
授 業 の 概 要	<p>異常分娩に対する応急処置の見学・実施を行い、助産師に必要なアセスメント能力と業務を学ぶ。ハイリスク妊娠（妊婦・胎児、および合併症妊娠）妊婦と、ハイリスク妊産褥婦および児のケアの実際を学修しながら、その家族を含めた助産ケアの実践を通して学ぶ。</p> <p>ハイリスク妊娠 1 例を受け持ち、妊娠中から産褥期、可能であれば家庭訪問指導までを通して継続的な援助について理解する。</p> <p>NICUにおけるハイリスク新生児とその家族のケアの実践について学ぶ。</p> <p>ハイリスク妊娠のケアとハイリスク新生児のケアの連携について考える。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハイリスク状態にある母児の特徴を理解できる。</li> <li>2. ハイリスク状態にある母児への援助の実際を理解できる。</li> <li>3. 周産期医療システムの現状を理解できる。</li> <li>4. 周産期医療の今後の課題について考察できる。</li> <li>5. 母子保健活動における助産師の役割と実際がわかる。</li> <li>6. 地域社会で生活する母子のニーズと支援について理解する。</li> <li>7. 他職種の連携の実際を理解する。</li> </ol> <p>2 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市内 1 施設における NICU を見学する。</li> <li>2. 施設の母子保健活動（退院後健診及び乳幼児健診、フォローアップ検診）を見学する。</li> <li>3. 周産期の新生児医療システムとハイリスク母児のケアについて学ぶ。</li> <li>4. 臨地にて実習カンファレンスを行う。</li> <li>5. 実習終了後、目的に沿って考察したことをレポートにまとめる。</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	学習ガイダンスおよび助産学関連の全ての資料を参考にして準備する。学部内または看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。				
学生に対する評価	実習レポート（20%）実習内容（80%）により評価する。				
教科書（購入必須）	実習要項、資料配布等にて提示 仁志田博司：新生児学入門 第 5 版 医学書院				
参考書（購入任意）					

科 目 名	助産学実習Ⅴ（地域母子保健）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	3-4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目				
学習到達目標	助産所における自然分娩を支える助産師の実践と、施設の特性をふまえた助産管理を学ぶ。さらに、地域母子保健活動について視野を広げ、地域における助産師の役割を発展的に考える能力を養う。 1. 開業助産師の母子や家族に対する姿勢を理解できる（助産院）。 2. 実習を通じて自身が必要とする助産像を描くことができる（助産院）。 3. 開業助産師の助産実践の実際を見学し、助産所の役割を理解することができる（助産院）。 助産所における管理・運営の実際が理解できる。 4. 開業助産師の役割を理解することができる（助産院）。 妊娠から子育ての切れ目ない支援における、助産師の役割について考察できる。 5. 病院の外来受診をしている妊婦のケアのあり方について考察できる。 対象のニーズや助産師が行う妊婦健康診査、自然分娩の意義を理解し、開業助産師の自立した実践について考察できる。 6. 病院の分娩見学などを通して望ましい助産ケアのあり方を考察できる。 7. 病院の褥室見学などを通して望ましい産後ケアのあり方を考察できる。 8. 臨地実習での学びや課題を発表し、学びを共有する。 9. 妊産婦に対する健康教育の基本が説明できる。 10. 対象への倫理的配慮を遵守し、助産学生として真摯に実習に取り組み、専門職としての態度を身につけることができる。 まとめ；病院施設内と助産所における助産師の助産実践の違い（共通点・相違点）を分析することができる。 地域保健における組織・機能・役割について、助産師の活動から考察することができる。 地域での助産師の役割や活動について、また今後の課題について述べるることができる。				
授業の概要	この科目は、早期体験実習としての助産所実習、スタートアップ実習としての助産学実習（基礎）、臨地での学びを支える学内（サテライト）実習で構成されている。 臨地実習は①助産院、②病院（外来、分娩室）で見学、実施する。 早期体験実習では、熟練した開業助産師による助産実践や助産の哲学に触れ、助産師としてのアイデンティティ獲得の第一歩を踏み出す。また、病院実習では施設助産師の指導の下、外来、分娩室、褥室での対象の状態を見学し、基礎的な対象の生活背景をイメージしながら対象理解を深め、基礎的な助産実践を行う。 学内では、妊産婦の対象理解の基礎となる身体的、心理社会的知識、臨地実習に必要な援助技術を修得する。				
授業の計画	1 助産学実習Ⅴオリエンテーション； 月 日（ ） 助産所見学、病院施設見学を行う。 （3年次）つるべ助産院（1施設4名見学） （4年次）さくら助産院（1施設2名ずつに分かれ、2日に分け見学） （4年次）マタニティウィメンズホスピタル（1施設2名ずつに分かれ、2日に分け見学） ・助産院では分娩が入っている場合、分娩見学、産後ケア、妊婦健診の見学を行う。 ・病院施設では主に保健指導や外来の妊婦健診などの見学を行う。 ・病院施設では褥室見学はできない。 2 実習目的 1. 開業助産師のイメージを掴み、イメージアップできる。 2. 地域で展開する産後ケア事業を見学し、開業助産師が地域で支援する内容を理解できる。 3. 地域の周産期医療システムの現状を理解できる。 4. 周産期医療の地域の課題について考察できる。 5. 母子保健活動における助産師の役割と実際がわかる。 6. 地域社会で生活する母子のニーズと支援について理解できる。 7. 他職種との連携の実際を理解できる。 3 実習内容 1. 助産院を見学する。 2. 施設の保健指導内容を見学する。 3. 周産期の切れ目ないケアと地域との連携について学ぶ。 4. 助産モデルと出会い、助産師の自律性と自立性について学ぶ。 5. 実習終了後、目的に沿って考察したことをレポートにまとめる。				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内または看護基礎教育における母性看護活動論Ⅰ・Ⅱの妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。				
学生に対する評価	実習レポート（20%）、実習内容・記録（80%）により評価する。				
教科書（購入必須）	実習要項参照。助産管理の資料参照のこと。				
参考書（購入任意）					



